

X-point

SharePoint 連携サービス 導入・設定ガイド

2025/11/27 版



はじめに

◆本書の目的

本書は、X-point と Microsoft 365 (SharePoint Online)、SharePoint Server とシングル・サインオン環境で利用する為に必要なシステムの設定、管理方法について説明しています。本書をよくお読み頂いた上で設定作業を行ってください。

◆対象とする読者

本書は「X-point」のシステム管理者、及び「SharePoint」のシステム管理者を対象としています。システム管理者とは「X-point」を運用するにあたり必要な設定および基本データの作成、維持管理を行なう本システムの管理権限を持つユーザー、Microsoft SharePoint の管理・設定を行う事が出来るユーザーを指します。

◆対応バージョン (2025/11/27 時点)

SharePoint	対応ブラウザ
■SharePoint Framework web パーツパッケージを利用する環境 Microsoft 365 Business Basic / Standard / Premium Microsoft 365 E3 / E5 / F3 SharePoint Online	■PC Microsoft Edge Google Chrome Mozilla Firefox Apple Safari (Mac OS)
■SharePoint ソリューションパッケージを利用する環境 Microsoft SharePoint Server 2016 Standard / Enterprise	■モバイル Mobile Safari (iOS 15~/ iPadOS 15~) Chrome for Android

！注意事項

- Microsoft 365 は SharePoint が利用できるプランが対象です。
 - Microsoft 365、Microsoft SharePoint Online に関わる記載は本マニュアル初版リリース時の内容に基づきます。
 - 対応ブラウザは、Microsoft SharePoint と X-point の対応ブラウザとして共通で動作するものになります。最新の対応情報は製品情報サイトを確認ください。
 - Microsoft 365 / SharePoint Online の利用には「セキュリティ基本サービス」が必須です。
 - サードパーティーCookie が利用できない場合は本機能のポートレット表示を利用する事はできません。
 - 但し、Chrome/Edge/Firefox ブラウザで Storage Access API が利用できる場合、ブラウザ操作者がコンテンツ使用を許可する事で本機能のポートレットが利用可能になります。許可指定の要否はポートレットを利用する際に行われ、ユーザーによる使用許可の設定が必要であると判断された場合にポートレット表示位置に確認画面が表示されます。表示が許可された場合は 30 日以内に再利用する限り継続してポートレットが表示されます。30 日以内の利用が無い場合は再度コンテンツ使用の許可を求める表示が行われます。
- なお、ブラウザ側で許可を受け付けられない設定が行われている場合は変更できない事を示す表示が行われポートレット表示は行われません、ポートレット表示ができるように設定の変更を行ってください。

【設定項目】 2025/10/06 時点

Chrome . . . 設定>プライバシーとセキュリティ>サードパーティーCookie

Edge . . . 設定>Cookie とサイトのアクセス許可>

保存された Cookie とデータ>Cookie とサイトのデータ管理と削除

Firefox . . . 設定>プライバシーとセキュリティ>強化トラッキング防止機能

◆製品名について

本文中、「X-point サーバー」は「X-point」と、「Microsoft SharePoint Server」は「SharePoint」と表記しています。また、各製品の名称は対応バージョンを省略してある箇所もありますのでご了承ください。

◆商標について

本書の一部、または全部を著作権所有者の許諾なしに、商用目的の為に複製、配布することはできません。

X-point、エクスポイントの名称およびロゴは株式会社エイトレッドの商標または登録商標です。

Microsoft、MS-DOS、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Macintosh、MacOS は Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。Adobe、Acrobat、Adobe Acrobat は Adobe Systems, Inc. の商標または登録商標です。ORACLE、Java、JavaScript は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。デスクネッツ、desknet's は株式会社ネオジャパンの登録商標です。サイボウズ、Cybozu はサイボウズ株式会社の登録商標です。Google、Android は、Google LLC の商標です。

その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。本書では、©、®、(TM) の表示を省略しています。ご了承ください。

◆製作著作

©2025 株式会社エイトレッド

目次／索引

1.	Microsoft 365 / SharePoint 連携	6
1.1.	SharePoint 連携機能とは	6
1.2.	連携イメージ	7
1.3.	連携の仕様	8
1.3.1.	連携可能な X-point ドメイン、ユーザー	8
1.3.2.	ユーザー情報の同期	9
1.3.3.	連携時のパスワード認証	9
1.3.4.	連携する SharePoint サーバーの制限	9
1.3.5.	利用可能な Microsoft365/SharePoint アカウント	10
1.3.6.	eFormMaker に接続するユーザー	11
1.3.7.	通知メールからの書類表示	11
1.4.	その他	12
1.4.1.	SharePoint の認証動作と X-point の関係	12
1.4.2.	Microsoft 365/SharePoint 認証タイプ別のユーザー管理方法	13
1.4.3.	Microsoft 365/SharePoint と X-point 利用ユーザー数の関係	15
1.4.4.	Microsoft 365/SharePoint のグループと X-point のユーザグループについて	15
1.4.5.	プロトコルの一致	17
1.4.6.	サーバー動作時刻の同期	17
1.4.7.	SharePoint のモバイルビュー	17
1.4.8.	X-point のモバイルオプションと併用	17
1.4.9.	他連携オプションとの併用	17
1.4.10.	サイボウズ リモートサービスとの併用	18
1.4.11.	「Microsoft SharePoint Foundation Sandboxed Code Service」の有効化(SharePoint 2016)	18
2.	X-point 側の設定	19
2.1.	設定情報の新規登録	19
2.2.	表示されるポートレット	22
2.2.1.	提出	22
2.2.2.	承認	22
2.2.3.	検索	23
2.2.4.	ブックマーク	23
2.2.5.	インフォメーション	24
2.2.6.	グラフ	24
2.2.7.	Web パーツ表示の推奨サイズ	25
2.2.8.	サードパーティーCookie が利用できない場合の動作	25
2.3.	設定の更新	26
3.	アプリの登録	27
3.1.	Microsoft 365 / SharePoint Online のアプリ登録	27
3.1.1.	アプリ カタログの作成	27
3.1.2.	アプリの登録	31
3.2.	SharePoint Server 2016 ソリューションパッケージ登録	34
3.2.1.	ソリューション登録画面の表示	34
3.2.2.	ソリューションパッケージのアップロードとアクティブ化	36
3.2.3.	登録された Web パーツの確認	38
4.	サイトコンテンツの作成	40
4.1.	連携サイトの作成	40
4.1.1.	トップサイトで連携する場合	40
4.1.1.1.	Microsoft 365 の場合	40
4.1.1.2.	SharePoint Server 2016 / SharePoint Foundation の場合	43
4.1.2.	サブサイトで連携する場合	46
4.2.	サイトの編集 (モダン エクスペリエンス)	48
4.2.1.	アプリの追加	48
4.2.2.	Web パーツの配置	50
4.2.3.	Web パーツの設定	53
4.3.	サイトの編集 (SharePoint 2016 以前、クラシック エクスペリエンス)	55
4.3.1.	アプリの追加	55
4.3.2.	Web パーツの配置	58
4.3.3.	Web パーツの設定	62
4.4.	表示の確認とブラウザの設定	66
4.5.	Web パーツ設定プロパティ詳細	68
5.	その他	71
5.1.	アプリのアップデート (Microsoft 365 / SharePoint Online)	71
5.1.1.	アプリ一覧の表示	71
5.1.2.	SharePoint 用アプリ カタログの更新	72

5.1.3.	サイトのアップデート	73
5.2.	Web パーツのアップデート (SharePoint Server 2016)	76
5.2.1.	ソリューションの非アクティブ化	76
5.2.2.	ソリューションの更新と再アクティブ化	78
5.2.3.	更新の確認	81
5.3.	ページ切り替えによる連携	82
5.4.	Windows PowerShell を利用した Microsoft 365 からのユーザー情報一覧の取得	83
5.5.	アドインアプリ (旧アプリ) と Web パーツアプリ (新アプリ) の判別方法	84

1. Microsoft 365 / SharePoint連携

この章では、「SharePoint 連携サービス」オプションの概要について説明します。

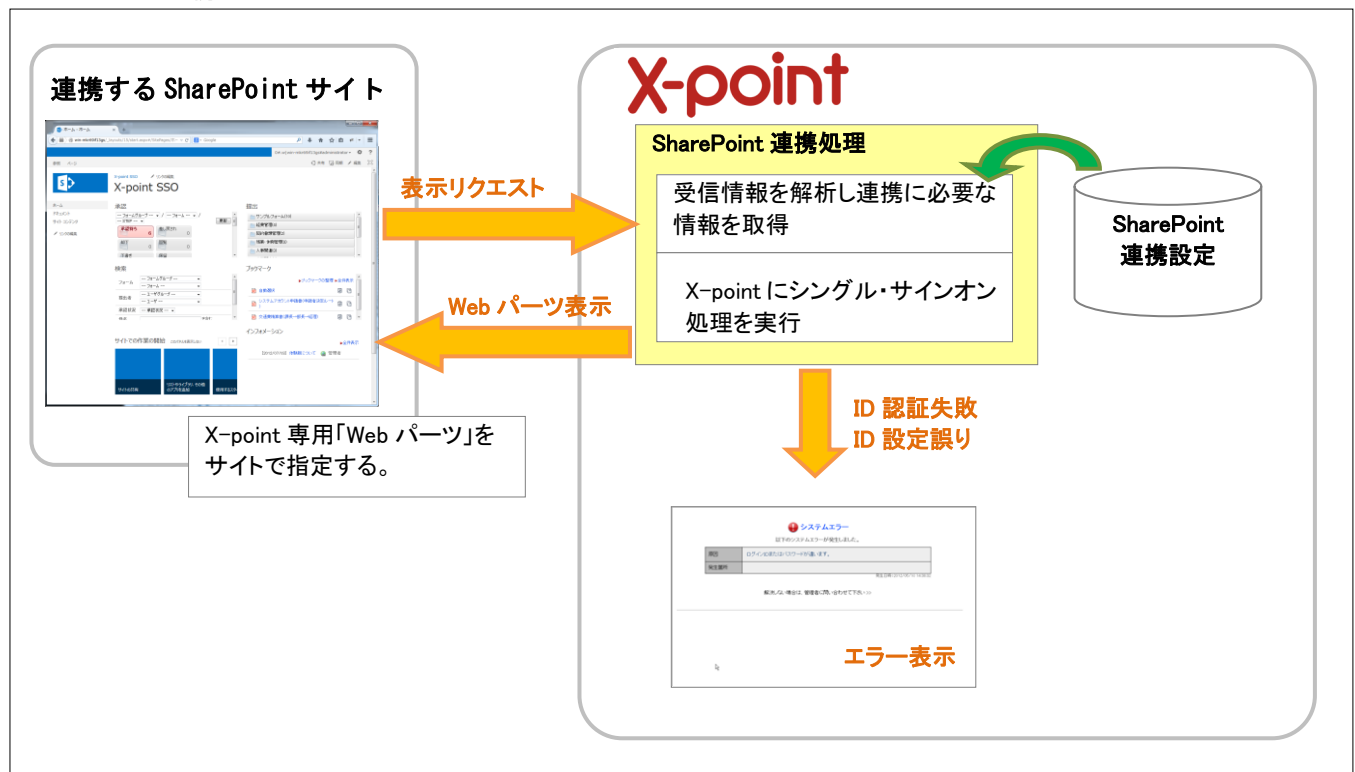
1.1. SharePoint 連携機能とは

X-point の SharePoint 連携機能は、Microsoft 365、SharePoint から X-point にシングル・サインオンを行い、SharePoint のサイト上に、承認待ち表示、書類提出等を行う Web パーツを表示する際に利用します。

SharePoint 連携機能により提供される機能は以下のようになります。

- SharePoint のサイトに、X-point の承認待ち、検索、提出、ブックマーク、インフォメーション、クエリ・グラフの表示を行う事が出来ます。
- SharePoint のログイン名と X-point のログイン ID を同期させることで、X-point のログイン画面を介すことなく SharePoint から X-point にログインできます。
- X-point のログイン画面利用を制限し、SharePoint を主とした運用が出来ます。

▼ SharePoint 連携イメージ

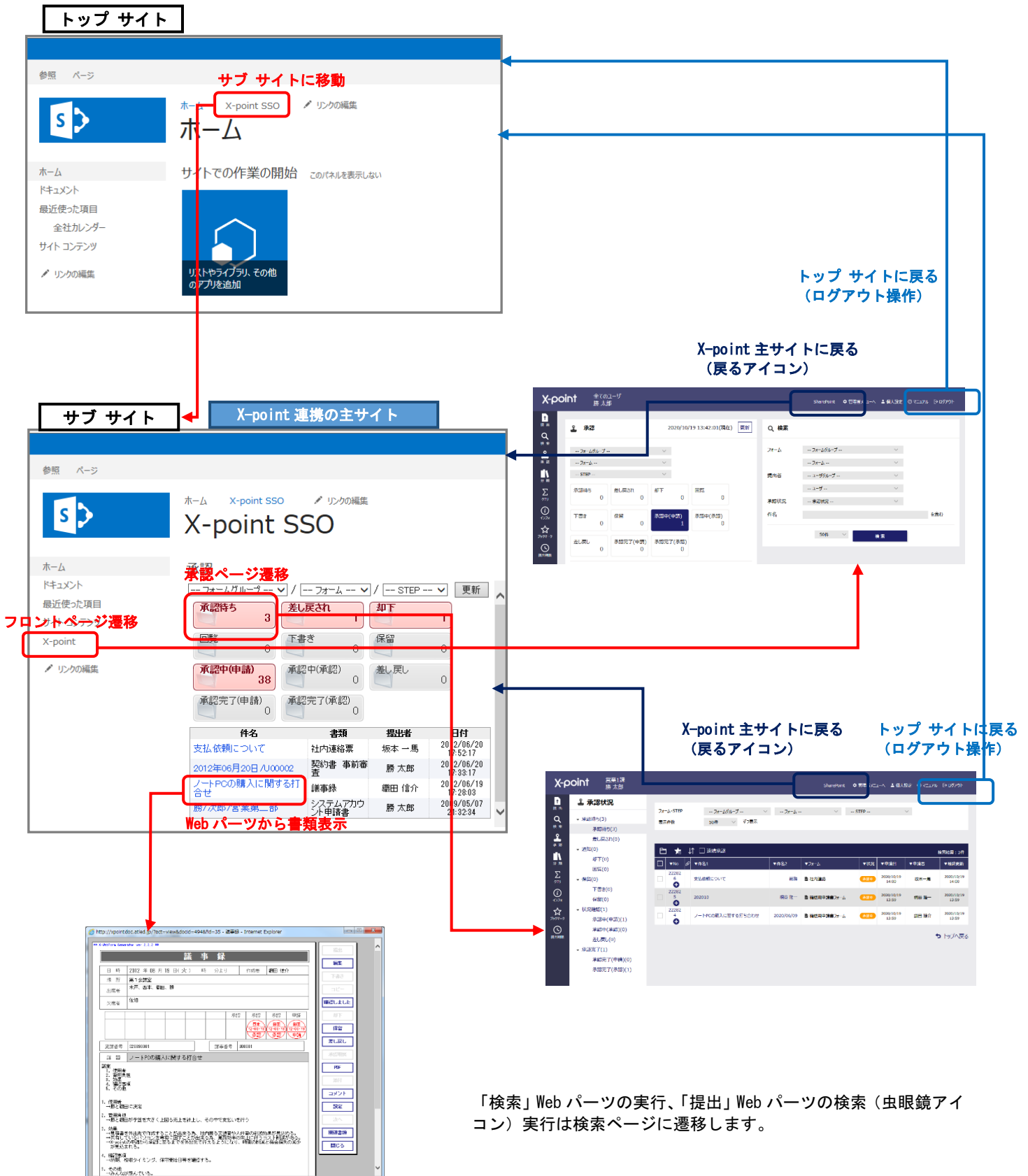


! 注意事項

- 本機能の利用には、X-point の利用ライセンスに「SharePoint 連携サービス」オプションが必要です。
- 本機能は Microsoft Entra ID による SAML (ADFS)、OAuth2 等の機能を利用しません。SAML 認証の利用を検討されている場合は別機能の利用になります。詳しくは製品情報をご確認ください。

1.2. 連携イメージ

Microsoft 365 / SharePoint Server と X-point の連携は、SharePoint 内に X-point 連携を主に行う X-point 用サイトとの間でを行います。X-point から SharePoint に戻る操作は、X-point 側の【戻る】、【ログアウト遷移先】を利用するか、ブラウザブックマークを利用します。



1.3. 連携の仕様

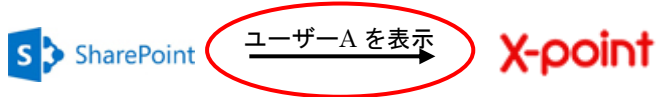
SSO 連携オプションを利用する際の仕様について説明します。

1.3.1. 連携可能な X-point ドメイン、ユーザー

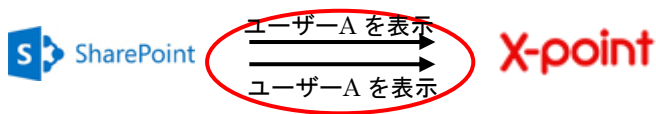
SharePoint から連携する X-point は対象となる X-point サーバーに存在する単一のドメインで、かつ同一ユーザーでの利用になります。これは同一ブラウザ内からの X-point 利用は、1 ドメイン、1 ユーザーに制限される為です。

同じ X-point サーバーに対し、異なるドメイン、異なるユーザーに接続する Web パーツを同時に利用する事は出来ません。

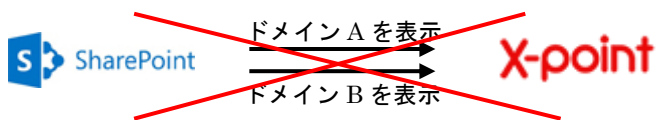
【一つのブラウザ画面で X-point の Web パーツを使うサイトを表示】



【一つのブラウザ画面で X-point の複数 Web パーツを表示】



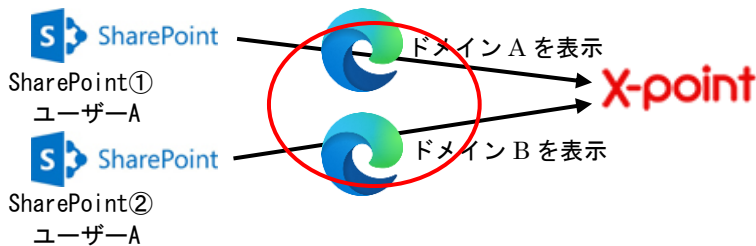
【一つのブラウザ画面で Web パーツに同一 X-point サーバーの異なるドメインを指定】



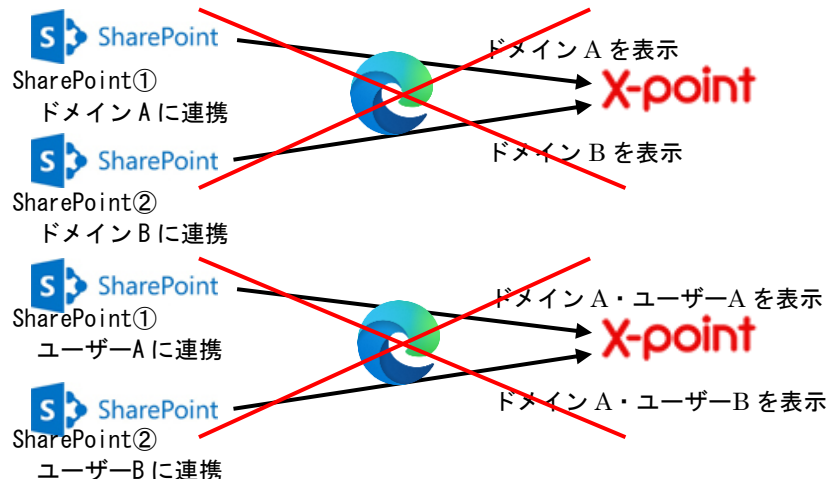
X-point サーバーに複数の SharePoint サーバー、サイトから連携する事ができます。但し、X-point から SharePoint に戻る設定である【ログアウト】メニューを操作する際の遷移先は、特定の URL を一つだけ登録できる仕様である事に注意してください。

なお、同一ブラウザ上で複数の SharePoint サーバー、サイトから同一の X-point サーバーに連携する場合、それぞれの SharePoint から連携する X-point サーバーのドメイン、ログイン ID は同じになるように設定します。異なるドメイン、ログイン ID で同時に連携を行う事はできません。

【異なるブラウザから異なるドメイン・ユーザを表示】



【同じブラウザから異なるドメイン・ユーザを表示】 (複数タブ、複数ウィンドウを開いて行う)



1.3.2. ユーザー情報の同期

SharePoint 連携の動作は、SharePoint のログイン名と一致する X-point のログイン ID に対して行われます。そのため、SharePoint サーバーから X-point を利用する場合、SharePoint のログイン名と同じ名前で X-point に登録する必要があります。

① Microsoft 365 を利用している場合

X-point のログイン ID と Microsoft 365 のアカウント情報のユーザー名と同じにします。
Microsoft 365 のサイト利用中に個人用設定の画面で表示されるアカウントが「i:0#.f|membership|**username**@contoso.com」である場合は、**username** の部分を X-point のログイン ID と同一にします。
通常 Microsoft 365 のアカウントは「username@contoso.com」と同じになる為、ログイン時に指定するアカウントの「@」より前の部分と一致させることとなります。

※ Microsoft 365 で上記アカウント形式を確認することはできません。内部動作の説明のために用いた表記となります。

② SharePoint サーバーのユーザー認証をインストールしたサーバーの登録アカウントで管理している場合

X-point のログイン ID を、SharePoint のインストール サーバーに登録されているアカウント名と同じにします。
標準インストールの場合は個人用設定画面で表示されるアカウントが「i:0#.w|win-domain|**username**」になる為、**username** の部分を X-point のログイン ID と同一にします。username の部分はサーバー OS に登録されているアカウントと同じになります。

③ SharePoint サーバーのユーザー認証を Active Directory への登録アカウントで管理している場合

サーバー OS が Active Directory で管理されており、SharePoint を標準インストール（クレーム認証）した場合、SharePoint サーバーに Active Directory のアカウント「username@constoso.com」でログインすると個人用設定画面で表示されるアカウントは「i:0#.w|win-domain|**username**」（「win-domain」の部分は Active Directory のドメインを NET BIOS で表したもの）になります。**username** の部分を X-point のログイン ID と同一にします。

※ 本項は、オンプレミスで利用する SharePoint と ActiveDirectory 対象としています。
Microsoft 365 で Azure Active Directory を利用する場合は、①項となります。

1.3.3. 連携時のパスワード認証

SharePoint で X-point を Web パーツに表示する際の連携はログイン名のみで行い、X-point に保存されているユーザー毎のパスワード認証は行いません。

1.3.4. 連携する SharePoint サーバーの制限

SharePoint と X-point の連携はログイン名のみで行う為、X-point サーバー内の書類情報を不正利用されないよう連携する SharePoint サーバーを制限する設定をもちます。

- 連携元 SharePoint のリファラー確認（SharePoint の URL）
- 連携元 SharePoint と X-point での連携パスワード登録
- 連携元 SharePoint サーバーと X-point サーバーの時刻同期

X-point と連携する SharePoint の制限は、Web パーツを埋め込んだサイトの URL を利用して行います。

※ Web パーツを配置した SharePoint サイトを表示した際に、ブラウザが X-point サーバーに送信する HTTP リクエストに付属するリファラー情報を利用します。従って、実際に送信されるリファラーは SharePoint サイトの URL となります。

1.3.5. 利用可能な Microsoft365/SharePoint アカウント

X-point と連携可能な Microsoft 365/SharePoint はアカウントを SharePoint 形式から X-point 用に変換可能なパターンに限ります。ご利用中の SharePoint サーバーが連携可能なアカウント形式であるか確認する場合は SharePoint にログインし個人用設定で“アカウント”の欄を確認してください。(Microsoft 365 の場合はサイトに移動してから確認します)

【連携できるアカウント形式】

SharePoint の動作が“クレーム認証”方式で、かつアカウントの表示が以下のパターンに合致する場合。

1) Microsoft 365 の標準アカウント (AD FS 利用しない場合)

「i:0#.f|membership|メールアドレス形式」

※ Microsoft 365 上でアカウントの形式の状態を確認する方法はありません。

※「Microsoft 365」以外の場合であっても「i:0#.f|membership|」で始まる場合は、本項の形式である必要があります。

2) 統合 Windows 認証で動作する SharePoint 2016 (Standard / Enterprise)

「i:0#.w|ドメイン¥ユーザー名」

「i:0#.w|ドメイン¥メールアドレス形式」

※ SharePoint をインストールしたサーバーOS に登録したユーザー・アカウントを利用して運用する場合。

※ SharePoint を標準インストールしたサーバーOS が Active Directory に参加している場合も含まれます。

SharePoint をフォームベース認証に変更していない場合に相当します。

※「メールアドレス形式」は「username@domain.com」のみです。「username <username@domain.com>」は対応しません。

※ Active Directory をフォームベース認証で利用する場合は、本項の形式とは合致しません。サーバーOS がドメイン参加する場合のみになります。

3) その他

「i:0#」ではじまり「|ドメイン¥ユーザー名」で終わる

「i:0#」ではじまり「|ドメイン¥メールアドレス形式」で終わる

「i:05」ではじまり「|メールアドレス形式」で終わる

※ Active Directory フェデレーション サービス (AD FS) を利用する場合も含まれます。

※「メールアドレス形式」は「username@domain.com」のみです。「username <username@domain.com>」は対応しません。

【連携できないアカウント形式】

1) 「SHAREPOINT¥System」等の“SHAREPOINT¥”で始まるファーム アカウントでログインしている場合。

2) クラシック認証で動作する SharePoint。(SharePoint 2013 以降は非推奨の認証方法です)

※アカウント表示が「ドメイン名¥ユーザー名」で行われる場合はクラシック認証です。

※SharePoint 標準インストール状態は、クレーム認証モードになります。

3) 【連携できるアカウント形式】に該当しない場合。

連携 Web パーツは【連携できるアカウント形式】の、“ユーザー名”部分、“メールアドレス形式”の“@”より前の部分を、X-point に転送します。連携の成否は転送される部分の文字列が X-point のログイン ID と一致しているかで決まります。

通常 SharePoint は【連携できるアカウント形式】で動作するため殆どの場合で問題が生じることはありませんが、SharePoint サーバー導入時や導入後に認証方式を切り替えた場合、【連携できるアカウント形式】に該当している事を確認してください。

1.3.6. eFormMaker に接続するユーザー

eFormMaker を利用する際の認証は接続する X-point サーバーに登録されているパスワードで行われます。そのため、eFormMaker に接続するユーザーは X-point フロントサイトの【個人設定】から eFormMaker 接続用のパスワードを設定しておく必要があります。

- ※ SharePoint 連携設定で「パスワード変更禁止」を指定する場合は、フロントサイトの【個人設定】で変更する事はできなくなるため、ユーザー管理権限を持つ管理者が管理サイトにて eFormMaker 利用者のユーザー登録情報画面からパスワードを変更してください。
- ※ X-point のパスワード認証を Active Directory で行っている場合は、eFormMaker 接続用のパスワードを【個人設定】画面から登録する必要はありません。SharePoint を利用する際のユーザー名、パスワードで接続してください。

1.3.7. 通知メールからの書類表示

通知メールに記載された書類表示 URL（メールテンプレートの {DOC_URL} 変数）から表示する場合、ご利用の状態により書類表示が出来る場合と出来ない場合があります。

■表示できるケース①

同一ブラウザで X-point を Web パーツ表示している。X-point のユーザーサイトを表示している。
もしくは、X-point の Web パーツ、ユーザーサイトの表示の後に、X-point のログアウト操作をしておらず、且つ利用していたブラウザを終了させず、そのまま使い続けておりタイムアウト時間を経過していない場合。

■表示できるケース②

X-point に個人ユーザーパスワードを設定しており、書類表示 URL 操作後に表示されたログイン画面で、X-point に設定しているパスワードを入力した。

■表示できないケース①

「表示できるケース①」に該当せず、X-point にユーザーパスワードを設定していない場合。

■表示できないケース②

X-point にユーザーパスワードを設定しておらず、書類表示 URL 操作後に表示されたログイン画面にパスワード入力できない場合。

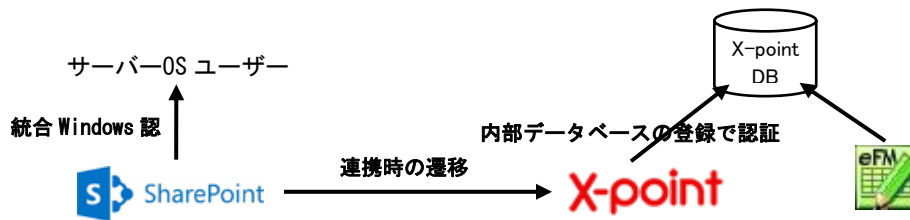
1.4. その他

1.4.1. SharePoint の認証動作と X-point の関係

X-point のユーザー認証は、X-point 内に登録されたユーザー パスワードを利用する方法と、Active Directory に登録されたパスワードを利用する場合の2種類あります。SharePoint から X-point への遷移ではパスワード認証を行わない為、認証動作の違いによる差は生じませんが、X-point を単独利用する場合に違いが生じます。

■X-point は標準認証方式で動作（内部データへの登録パスワード）

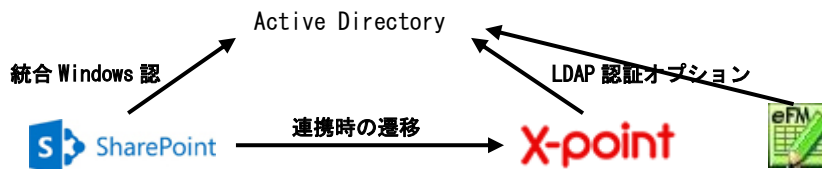
SharePoint は OS 登録ユーザーで認証を行います。X-point を単独利用する場合は、X-point 内に保存されているパスワードを利用して行います。そのため、X-point 単独利用する場合は、X-point の個人設定でパスワードの変更設定が必要です。



- ※ パスワードは SharePoint 用、X-point 用がそれぞれ別で管理されます。
- ※ SharePoint 上で X-point の機能を利用する場合は、SharePoint と X-point に異なるパスワードが登録されている場合であっても SharePoint にログインし X-point の Web パーツからであれば X-point の機能を利用できます。
- ※ X-point のログイン画面からログインする場合、SharePoint のパスワードではログインできません。

■X-point は Active Directory 認証方式で動作（LDAP オプション適用時、Active Directory の登録パスワード）

SharePoint、及び X-point を単独利用する場合は、Active Directory を利用してユーザー認証を行います。そのため、パスワードの変更は Active Directory において行う事で全てに反映されます。



- ※ パスワードは SharePoint、X-point で共通です。
- ※ X-point の個人設定画面からパスワードを変更する事は出来ません。
- ※ ご利用中の Windows PC クライアントと SharePoint サーバーが同一の Active Directory サーバーを使用する場合、SharePoint からのご利用の場合はパスワード入力画面を必要としませんが、X-point を直接利用する場合はログイン画面でパスワードの入力が必要です。(X-point は Windows 統合認証に対応していません)

1. 4. 2. Microsoft 365／SharePoint 認証タイプ別のユーザー管理方法

X-point を Microsoft 365／SharePoint と連携利用するユーザーは、双方にログイン ID（アカウント）が登録されている必要があります。登録はそれぞれの環境で行う必要がありますが、利用する環境によりユーザー情報管理を容易に行うための様々な方法が考えられます。

【ユーザー管理方法の組み合わせ】

Microsoft 365/SharePoint 認証方法	365/SPOL	2016	X-point パッケージ	X-point Cloud	説明
Microsoft 365 認証 標準提供のまま利用	○	—	ユーザ管理	ユーザ管理	個別に管理します。 Microsoft 365 では、CSV ファイルからの一括登録、PowerShell を利用し登録ユーザー情報を一括取得する方法が提供されています。 一括取得したユーザー情報を加工し X-point にインポートすることも可能です。
Microsoft 365 認証 オンプレミスの AD と 同期ツールを利用	○	—	LDAP 認証 オプション	ユーザ管理	Microsoft 365 とオンプレミスの AD サーバーのユーザー登録情報を Microsoft 365 が利用する Windows Azure Directory に同期させる “同期ツール”を利用して管理します。 X-point（パッケージ）では LDAP 認証オプションを利用して AD サーバーの登録情報を利用して認証することができます。 X-point Cloud もしくは、LDAP 認証オプションを利用しない場合は、 Microsoft 365 から PowerShell を介し、一括取得したユーザー情報を加工して X-point にインポートする等で個別に管理します。
統合 Windows 認証 SharePoint が稼動する サーバーOS にユーザー 情報を登録	—	○	ユーザ管理	ユーザ管理	個別に管理します。 SharePoint では Web アプリケーションのポリシー画面でユーザー毎にアクセス権を与える際、サーバーOS のユーザーを指定します。 SharePoint から利用ユーザーを一括取得する事は出来ません。 ユーザー情報は管理ツールの「コンピュータの管理」等で一覧をエクスポートし、取得した情報を加工し X-point にインポートする事が可能です。
統合 Windows 認証 SharePoint が稼動する サーバーOS が接続する AD サーバーに登録される ユーザー情報で認証	—	○	LDAP 認証 オプション	ユーザ管理	SharePoint の Web アプリケーションのポリシー画面でユーザー毎にアクセス権を与える際、AD サーバーの登録ユーザーが指定できます。SharePoint 自体の操作は「統合 Windows 認証（サーバーOS）」と同様に行いません。 X-point は LDAP 認証オプションを利用することで AD サーバーの登録内容で認証する事が出来ます。LDAP 認証オプションを利用しない場合は個別に登録を行なうこととなります。 ユーザー情報は管理ツールの「Active Directory ユーザーとコンピュータ」等で一覧をエクスポートし、取得した情報を加工し X-point にインポートする事が可能です。
AD FS2.0（SAML）認証	○	○	LDAP 認証 オプション	ユーザ管理	AD FS で利用する AD サーバーがオンプレミスで管理され X-point と直接接続できる場合、X-point（パッケージ）では LDAP 認証 OPT の利用が便利です。 X-point と AD サーバーを直接接続が出来ない場合は個別に管理することとなります。 ※Microsoft 365、SharePoint Online 共に AD FS 2.0 を利用可能 にする設定は煩雑な為、既に AD FS 2.0 での運用実施中を除き、 Microsoft 社が提供する”ディレクトリ同期ツール”を介し ”Microsoft 365 認証”で運用すること推奨します。
SharePoint と AD を直接連 携 （フォームベース認証）	—	○	LDAP 認証 オプション	ユーザ管理	統合 Windows 認証ではない AD の利用をするケース。 X-point（パッケージ）では LDAP 認証オプションを利用し AD サーバーの情報を利用して認証を行なうと便利です。 X-point と直接接続が出来ない場合、個別に管理する。
SQL Server 等々 （フォームベース認証）	—	○	ユーザ管理	ユーザ管理	SharePoint が対応する多様な認証パターンの一つ。 X-point は対応しないため、それぞれで個別に管理する。

※ 365=Microsoft 365、SPOL=SharePoint Online、2016=SharePoint 2016、AD=Active Directory の略

- ※ Windows PowerShell を利用して Microsoft 365 の登録ユーザの情報を一括取得する方法は「[PowerShell を利用した Microsoft 365 からのユーザー情報一覧の取得](#)」の説明をご参照ください。
詳細は Microsoft のマニュアルを参照ください。
- ※ 「Active Directory 同期」に関する詳細は、Microsoft のマニュアルを参照ください。
- ※ フォームベース認証は通常 IIS を介して行なわれます。

1. 4. 3. Microsoft 365／SharePoint と X-point 利用ユーザー数の関係

Microsoft 365/SharePoint Online と X-point を連携する際、Microsoft 365/SharePoint を利用するユーザーの一部だけで、X-point を利用するケース等、それぞれ利用するユーザー数が異なる常態で利用することがあります。

① Microsoft 365 / SharePoint Online と連携する場合

Microsoft 365 のログインにはメールアドレスを利用するため、Microsoft 365 と併用する場合のユーザー管理は Microsoft 365 の登録を基本として考えることが現実的です。これは、X-point のログイン ID 登録は Microsoft 365 を利用するメールアドレスの“@”以前を利用するためです。例外は、X-point を利用するユーザーが多い場合に限られます。その場合も、両方を利用するユーザーは Microsoft 365 のログインに利用するメールアドレスの“@”より前の部分と、X-point のログイン ID を一致させます。

【基本とするユーザー情報を置く側】

利用ユーザー数の関係	Microsoft 365 = X-point	Microsoft 365 > X-point	Microsoft 365 < X-point
メールも Microsoft 365 を利用	Microsoft 365	Microsoft 365	両方使うユーザーは Microsoft 365 の登録を基本にする X-point のみ利用のユーザーは、X-point 上で管理する。
メールは別環境を利用	Microsoft 365	Microsoft 365	両方使うユーザーは Microsoft 365 の登録を基本にする X-point のみ利用のユーザーは、X-point 上で管理する。

- ※ メールサーバーに Microsoft 365 を利用していない場合であっても、“@”より前の部分が環境により異なる運用を行なうケースは、Microsoft 365 の利用を考えた場合は殆どの場合で想定が必要が無いと考えられます。
- ※ Microsoft 365 の標準アカウントは“user@任意名.onmicrosoft.com”になります。“@”以降は別の FQDN を使うように指定することが可能であるため、Microsoft 365 へのログインを別管理のメールアカウントで行なうことも可能です。

② SharePoint2016（パッケージ）と連携する場合

オンプレミス環境で SharePoint を利用する場合、ユーザー・アカウントは SharePoint が動作するサーバーに登録されている OS ユーザーを利用するか、Active Directory の登録ユーザーを利用するかの何れかが基本的な利用方法になります。Active Directory を利用したユーザー管理を行なっている場合は、X-point では LDAP 認証 OPT を利用したユーザー管理を行なうことが作業性を高めると考えられます。

【基本とするユーザー情報を置く側】

利用ユーザー数の関係	SharePoint = X-point	SharePoint > X-point	SharePoint < X-point
OS のユーザー管理を利用	SharePoint	同左	両方使うユーザーは SharePoint の登録を基本にします X-point のみ利用のユーザーは、X-point 上で管理します。
AD でユーザー管理を実施	Active Directory	同左	両方使うユーザーは SharePoint の登録を基本にします X-point のみ利用のユーザーは、X-point 上で管理します。

1. 4. 4. Microsoft 365／SharePoint のグループと X-point のユーザーグループについて

Microsoft 365／SharePoint のグループと X-point のユーザーグループは基本的に組織構造を表す名称で利用するため、似通った名称・構造になりますが、指定する情報が互いの動作に影響する事はないため各環境を同じ構造に合わせる必要はありません。

X-point のユーザーグループはワークフロー処理を行なう際の承認ルート決定に重要な要素になるため、X-point でユーザーグループの組織階層を作成する際にはワークフロー処理の特性を考慮しワークフロー処理に必要な階層指定となるように作成してください。



1.4.5. プロトコルの一致

SharePoint サーバーと X-point サーバーのアクセスに利用する通信プロトコル (http、https) は一致させて利用するようにしてください。特に、SharePoint サーバーを http、X-point サーバーに https で利用する組み合わせはブラウザ仕様により Web パーツが表示されない可能性が高いため避けてください。

- ※ http 表示させた画面内に https で Web パーツを表示させると、セキュリティ上の理由からリファラーをはじめとする各種パラメータの送信が行われず、表示エラーになります。(通常のブラウザは仕様により Web パーツが表示されません)
- ※ https で動作する SharePoint サーバー内に http で動作する X-point の Web パーツを表示させた場合、ブラウザにより警告表示が行われます。

【エラー例】

承認

コンテンツは、有効なセキュリティ証明書により署名されていないため、ブロックされました。

詳しくは Internet Explorer のヘルプの「証明書エラーについて」をご覧ください。

1.4.6. サーバー動作時刻の同期

SharePoint サーバーと X-point サーバーの動作時刻は最大 24 時間の誤差範囲で一致している必要があります。

- ※ 連携動作において不正利用を防止する為に利用されています。
実際の運用サーバーでは各サーバーを可能な限り正確な時間設定で動作させるようにしてください。

1.4.7. SharePoint のモバイルビュー

SharePoint のモバイルビューで X-point の Web パーツは利用できません。PC ビューで利用してください。

1.4.8. X-point のモバイルオプションと併用

SharePoint の画面 (PC ビュー、モバイルビューの両方) から、モバイルオプションにより追加されるモバイル用画面に直接遷移することは出来ません。

1.4.9. 他連携オプションとの併用

SharePoint 以外のグループウェア製品と連携する X-point ドメインで「SharePoint 連携サービス」オプションを同時に利用することは出来ません。異なるドメインでの利用は可能です。

【該当オプション】

モバイルオプション、SSO 連携サービス、desknet's 連携サービス、desknet's NEO 連携サービス、サイボウズ Office 連携サービス、サイボウズ ガルーン連携サービス、Google Workspace 連携サービス

- ※ 設定登録を行う事は可能ですが、それぞれのオプション動作について保障されません。

1.4.10. サイボウズ リモートサービスとの併用

サイボウズリモート サービスを介して、SharePoint と X-point を連携利用することは出来ません。
X-point のみを サイボウズリモートを介して Web パーツ表示する事は出来ます。

- ※ 2014/09/01 時点で Microsoft SharePoint はサイボウズリモート サービスに対応していません。
X-point 単体で利用する事は可能ですが、SharePoint からの遷移、戻る等の機能を実行すると問題が生じることが
予想されます。

1.4.11. 「Microsoft SharePoint Foundation Sandboxed Code Service」の有効化(SharePoint 2016)

SharePoint 2016 の場合、サイトに X-point の Web パーツを表示する為に「ソリューション パッケージ」を利用します。機能を実現するためには予め「Microsoft SharePoint Foundation Sandboxed Code Service」というサービスが有効になっている必要があります。

- ・ SharePoint を導入する際、製品構成ウィザードの最後で行う「ファーム構成の初期設定ウィザード」において、「Microsoft SharePoint Foundation 」を有効にします。
- ・ 導入後に PowerShell を利用して有効にすることも可能です。

- ※ 「Microsoft SharePoint Foundation Sandboxed Code Service」の有効化の具体的な手順については Microsoft のマニュアルを参照してください。

2. X-point側の設定

2.1. 設定情報の新規登録

SharePoint 連携を行う際の設定情報を登録します。

ドメイン管理権限を持つユーザーで管理サイトにログインし、“ドメイン” → “ドメイン設定変更” より SharePoint 連携設定画面に遷移します。

！ 注意事項

- X-point のライセンスに“SharePoint 連携サービス” オプションが含まれている場合のみ設定画面へのリンクが表示されます。
- クラスタ構成の場合、クラスタ・ノードの何れか一台で登録作業を行う事で全ノードへの設定が完了します。

【SharePoint 連携設定】

SharePoint連携設定

SharePoint連携情報を修正します。

基本情報	
SharePoint連携	<input checked="" type="radio"/> 実行する <input type="radio"/> 実行しない
パスワード ① 半角1-50文字。 英数字及び一部の記号(-,_,@,*)が使用できます。	●●●●●● Webパーツ登録で指定するパスワードを設定します。
リファラーチェック ① 半角512文字以内。	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する ① X-pointに遷移するSharePointのサイトURLを指定します。 URLは正規表現での指定が可能です。
ログアウト遷移先URL ① 半角512文字以内。	https://xpoint3.sample.jp/sites/X-point 空欄にするとログアウト時にSharePointへの遷移を行いません。 (X-pointのログインセッション切断のみ行います)
戻り先URL ① 半角512文字以内。	https://xpoint3.sample.jp/sites/X-point 空欄にするとX-point上部にSharePoint連携時の戻り先表示を行いません。
リンク画像 ① 画像形式は、GIF、JPEG、PNGが使用できます。 画像は最大9.5MBです。	<input checked="" type="radio"/> 指定しない <input type="radio"/> 指定する 参照 <input type="text"/> ドラッグ&ドロップするか参照ボタンから選択してください 画像のサイズは高さ15(px)以下、幅180(px)以下にしてください。 サイズが大きい場合は縮小して表示されます。
リンク代替テキスト	SharePoint リンク画像を利用しない場合に入力された文字列がリンクになります。 リンク画像を利用する場合はツールチップに利用されます。
ログイン許可	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する X-pointに直接ログインすることを禁止にする場合は「しない」を選択します。
パスワード変更禁止	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する X-pointフロント画面を利用するユーザーのパスワード変更を禁止する場合は「する」を選択します。
ログアウト表示	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する X-pointフロント画面に「ログアウト」を表示しない場合「しない」を選択します。

【SharePoint 連携】

設定ドメインにおける SharePoint 連携機能の有効化（実行する）・無効化（実行しない）を指定します。

【パスワード】

SharePoint 連携設定全般で指定するパスワードを登録します。SharePoint に Web パーツを登録する際は、対応する X-point ドメインに設定したパスワード、もしくは指定予定のパスワードと同じ文字列を指定します。

SharePoint 側で登録する個々の Web パーツに指定されたパスワードと一致しない場合、Web パーツへの表示は行われません。

【リファラーチェック】

「する」が選択されている場合に遷移元 URL のチェックが設定されているチェックパターンと一致するか判断を行い、不一致の場合はログイン許可されません。

～～指定例～～

SharePoint サーバー全体 : http://sharepoint.atled.jp/. *
SharePoint サーバーの特定サイトのみ : http://sharepoint.atled.jp/xpoint-site/. *
SharePoint サーバーの特定 2 サイト : http://sharepoint.atled.jp/(xpoint-site|atled-site)/. *
http と https の両方 : (http|https)://sharepoint.atled.jp/. *
連携元が複数台の SharePoint : http://(sharepoint1.atled.jp|sharepoint2.atled.jp)/xpoint-site/. *

※ リファラーには遷移元である SharePoint が様々なパラメータを設定する為、URL の最後に必ず “. *” を付けます。

※ Microsoft 365 では必ず “https” プロトコルの利用になります。

！注意事項

- 基本的には遷移するためのリンクが埋め込まれたページを表示する際に指定する URL を指定しますが、プロキシサーバ等のリファラーを書き換える機能を持つ製品やリファラー自体を消す製品が存在しますので、X-point が実際に受け取ることができる URL を設定します。
- 判定用のリファラー文字列には正規表現を指定することができます。正規表現は JavaSE の仕様に準拠しています。主な利用可能パターンは以下のような定義です。
- ブラウザの仕様により、HTTPS ページから HTTP ページへのリンクではリファラーヘッダーが送信されません。リファラーチェックを実施する際はプロトコルを一致させる必要があります。(SharePoint を https で利用する場合は、X-point の指定も https で行います)

構文	マッチ対象	備考
文字	[abc]	a、b、または c (単純クラス)
	[^abc]	a、b、c 以外の文字 (否定)
	[a-zA-Z]	a ~ z または A ~ Z (範囲)
	[a-d[m-p]]	a ~ d、または m ~ p: [a-dm-p] (結合)
	[a-z&&[def]]	d、e、f (交差)
	[a-z&&[^bc]]	b と c を除く a ~ z: [ad-z] (減算)
	[a-z&&[^m-p]]	m ~ p を除く a ~ z: [a-lq-z] (減算)
定義済みの文字クラス	.	任意の文字 (行末記号とマッチする場合もある)
	\d	数字: [0-9]
	\D	数字以外: [^0-9]
	\w	単語構成文字: [a-zA-Z_0-9]
	\W	非単語文字: [^\w]
POSIX 文字クラス	\p{Lower}	小文字の英字: [a-z]
	\p{Upper}	大文字の英字: [A-Z]
	\p{ASCII}	すべての ASCII 文字: [\x00-\x7F]
	\p{Alpha}	英字: [\p{Lower}\p{Upper}]
	\p{Digit}	10 進数字: [0-9]
	\p{Alnum}	英数字: [\p{Alpha}\p{Digit}]
最長一致数量子	X? X	1 回または 0 回
	X* X	0 回以上
	X+ X	1 回以上
	X{n} X	n 回
	X{(n,} X	n 回以上
	X{n,m} X	n 回以上、m 回以下

※ 行頭(^)、行末(\$) は自動的に追加されます。つまり、比較の際は指定文字列の前後に必ず “^” と “\$” が追加されます。

※ 「http://nnn.nnn.nnn.nnn/xpoint/abc/. *」とした場合は「<http://nnn.nnn.nnn.nnn/xpoint/abc/>」で始まる場合があります。

【ログアウト遷移先 URL】

X-point のユーザサイト画面を表示している際、【ログアウト】をクリックした後に遷移する URL を指定します。
通常は、SharePoint のトップ・サイトに遷移させます。何も指定しない場合は、X-point の通常ログオフ画面が表示されます。

【戻り先 URL】

X-point から連携先に戻る際の URL を指定します。

指定した URL は、X-point を利用する際に画面上部の【個人情報】左側（管理権限を持つユーザの場合は【管理者メニュー】左側）に表示される画像もしくはテキストをクリックした際の遷移先となります。URL の指定を省略すると連携先に戻るためのリンク（もしくはアイコン）は表示されません。

通常は、X-point の Web パーツを指定した SharePoint のサイト URL を指定します。戻り先の指定は一つに限定される為、複数のサイトより連携を行う場合は【戻り先 URL】は空欄のままにし、ブラウザブックマークを使うようにしてください。

※ 本章では「3. 2 サイトコンテンツの作成」で用意する SharePoint 内の X-point 利用サイトで決定する「Web サイトのアドレス」を設定します。

【リンク画像】

「戻り先 URL」を指定した場合、X-point ユーザサイト画面上部に【戻り先 URL】のアイコンとして使用されます。

「指定する」が選択されている場合に参照ボタンが有効になり、参照ボタンを押下して任意の画像ファイルを指定できます。

指定した画像は、X-point を利用する際にユーザサイト画面上部の【個人設定】左側（管理権限を持つユーザの場合は【管理者メニュー】左側）に表示されます。

指定する画像が、高さ 15px、幅 180px 以内で作成します。高さ・幅が既定サイズを超えた場合、超えた側の値が 15px、180px になるよう指定され、指定画像が縦・横いずれかの方向に縮んで表示されます。

【リンク代替テキスト】

リンク画像を利用しない場合に入力された文字列がリンクになります。指定した文字列は、X-point を利用する際に画面上部の【個人設定】左側に表示されます。リンク画像を利用する場合は画像のツールチップとして設定されます。

【ログイン許可】

X-point のログイン画面からログインを許可するかの有無を指定します。

「なし」を指定するとログイン画面からこのドメインへのログインができなくなります。

連携するグループウェアからの利用のみを許可するような場合に、ログイン許可「しない」に設定すると X-point 単独での利用を禁止することができます。

【パスワード変更禁止】

フロント画面のユーザプロフィール画面でパスワード変更操作の許可を指定します。パスワード変更を許可する場合は「する」を指定します。

パスワード変更の禁止は連携元のシステムでパスワードを管理し、X-point 側ではログインのみを受け付ける場合に指定します。なお、X-point 側でパスワード変更を許可しても連携先のシステムに設定されているパスワードは変更されません。

！注意事項

「パスワード変更禁止」を指定すると全ユーザーに対しフロント画面の個人設定画面にパスワード変更を行う画面が表示されなくなります。eFormMaker を利用するユーザーのパスワード変更は管理者サイトのユーザー登録画面から行ってください。

【ログアウト表示】

フロント画面の上部に「ログアウト」メニューを表示するか否かを指定します。

X-point をログオフしても、遷移先の SharePoint 上に X-point の Web パーツが表示されるような場合、Web パーツを表示するタイミングでログイン処理が行われる為、実質的にログアウトが行われない事と等価になります。

戻り先のサイトが X-point の Web パーツを表示しないサイトになるよう指定すると効果的です。

！注意事項




- X-point をログアウトせずに SharePoint に移動した後、再度 X-point の Web パーツ等を表示すると同一ユーザーでのログインならば前回のログインセッションが再利用されます。ブラウザを一旦閉じ再度起動した場合は新たなログインセッションになります。
- SharePoint 2016 のログイン・ユーザー切り替えは、SharePoint のログアウト後にブラウザを終了させる事で完了します。

2.2. 表示されるポートレット

2.2.1. 提出

ログイン・ユーザーが利用可能なフォームが表示されます。
フォームグループをクリックするとグループに所属するフォーム名が展開表示されます。



各フォームには書類タイプに応じてアイコンが変わり、がワークフローフォーム、が通常フォームを示しています。
をクリックするとクリック行のフォームを条件に指定した検索が動作します。検索動作後は X-point の検索画面に遷移します。

2.2.2. 承認

ログイン・ユーザーが関係するワークフロー書類の件数と承認待ち書類の先頭 5 件が表示されます。
ワークフロー件数は、管理ユーザーがドメイン設定で指定しているワークフロー詳細設定のリフレッシュ間隔に従い表示件数が更新されます。リスト表示されている書類の表題をクリックすると書類を開くことができます。

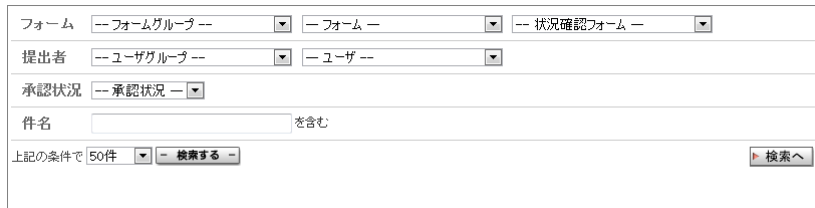
件名	書類	提出者	日付
営業1課/勝太郎	交通費精算書	勝太郎	2013/01/31 17:28:52
営業1課/勝太郎	交通費精算書	勝太郎	2013/01/31 17:28:44
営業1課/勝太郎	交通費精算書	勝太郎	2013/01/31 17:28:28
営業1課/勝太郎	交通費精算書	勝太郎	2013/01/31 17:28:10
営業1課/勝太郎	交通費精算書	勝太郎	2013/01/31 17:28:55

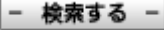

- フォームグループ
ワークフロー件数の表示をフォームグループで絞込みます。
- フォーム
ワークフロー件数の表示をフォームで絞込みます。予めフォームグループが指定されている必要があります。
- STEP
ワークフロー件数の表示を STEP フォームで絞込みます。予めフォームが指定されている必要があります。
STEP で絞り込み表示される項目は、承認待ち、状況確認、保留に限られます。その他の項目では STEP 指定は無視されます。
- 更新
ワークフロー件数の更新はリフレッシュ間隔に従って更新が行なわれますが「更新」ボタンを押すことで、直ちに件数を更新することができます。
但し、10秒以内に件数が更新されている場合は再取得されず件数の表示は変化しません。
- 【承認待ち】、【差戻され】、【却下】等のボタンには承認状況に応じた書類の件数が表示されます。
件数をクリックすると X-point の「承認」画面に遷移します。
- 件数表示部の下には、件数上のドロップダウンリストボックスで指定された条件に合致する書類の、最終更新日時が新しいものから最大 5 件が表示されます。表示内容は左から、件名 1、フォーム名、申請者名、最終更新日です。

※ ポートレット表示直後の書類件数は全て 0 件で表示されます。件数が表示されるまで暫く時間を要します。

2.2.3. 検索

ログイン・ユーザーが閲覧可能な書類を対象に書類の検索することができます。ポートレットでは詳細な条件指定を行う事はできません。詳細条件を指定して書類を検索する場合は【検索へ】をクリックし、検索画面に移動して下さい。





- フォームグループ / フォーム (【承認状況フォーム】の指定と排他利用になります)
検索対象となる書類をフォームグループ・フォームで絞り込みます。フォームを利用する場合は予めフォームグループが指定されている必要があります。
- 状況確認フォーム (【フォーム】 / 【フォームグループ】の指定と排他利用になります)
検索対象となる書類を「検索状況確認者」に指定されている書類で絞り込みます。
* 「状況確認フォーム」はログイン・ユーザーが“状況確認者”として指定されているフォームが存在する場合のみ表示される項目です。
- ユーザグループ / ユーザー
検索対象となる書類をユーザグループ、ユーザーで絞りこみます。ユーザーを指定する場合は、予めユーザグループが指定されている必用があります。
- 承認状況
書類の承認状況で絞り込みを行います。
- 件名
件名1、件名2に設定される内容と部分一致で検索を行います。
- 「件数リストボックス」
検索一覧画面で一画面に表示する書類の最大件数を指定します。
- 
指定されている条件で書類検索を開始します。検索結果の表示は「検索画面」に遷移したのちに表示します。
- 
「検索画面」への遷移のみを行います。指定内容の検索は行いません。

2.2.4. ブックマーク

ログイン・ユーザーが登録しているブックマークが表示されます。



- ブックマーク名称
クリックすると、ブックマークされている書類、入力フォーム、キャビネット、クエリを表示あるいは実行します。
-  (削除)
ブックマークを削除できます。
-  (プロパティ)
ブックマークの名称を修正する事が出来ます。
- ブックマークの整理
ブックマークの並び順を変更できます。
- 全件表示
表示件数が指定されている場合、指定件数と全件表示を切り替えます。

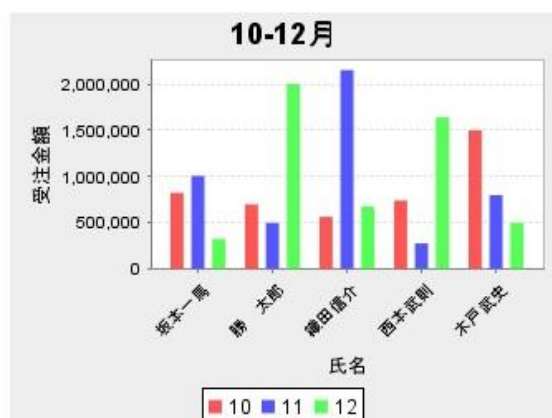
2.2.5. インフォメーション

ログインしているドメインに登録されているインフォメーションが表示されます。

		▶全件表示
NEW	[2014/09/02] 夏季連休について	管理者
NEW	[2014/09/02] 体験版について	管理者

2.2.6. グラフ

ログインしているユーザーが実行可能な集計クエリ(サマリ・クロス集計)のグラフを表示することができます。グラフを表示させるためにはグラフ設定で「表示する」に設定されている必要があります。



！注意事項

X-point ポートレットは、ドメイン設定のユーザサイトメニュー利用制限の対象外となります。特定のガジェットを非表示にしたい場合は、グループウェア等で個別に制御してください。

2.2.7. Web パーツ表示の推奨サイズ

Web パーツポートレットを表示する際の目安となるサイズです。
 実際に表示する場合は表示枠のボーダー幅や、高さ方向に表示する項目数で変化する為、環境に合わせて調整を行なって下さい。

タイプ	高さ(pixel)	幅(pixel)	備考
提出	350px	380px	内容で高さが変わります。
検索	180px	550px	
承認	330px	570px	承認待ち書類数で高さが変わります。
ブックマーク	160px	380px	全件表示の場合、高さが変わります。
インフォメーション	160px	380px	全件表示の場合、高さが変わります。
グラフ	※1	※1	

- ※1 … 実際のグラフサイズに合わせて調整します。
- ※2 … 高さを“100%”で指定する場合、150px 程度で表示される為、高さは必ず指定することを推奨します。
- ※3 … 幅を“100%”で指定する場合、ブラウザ画面の全体幅に応じて高さ方向の収まりが変わります。
 指定されている Web パーツ高さに収まらない場合もあるので注意してください。

2.2.8. サードパーティーCookie が利用できない場合の動作

サードパーティーCookie が利用できない設定であるブラウザではポートを表示する事ができません。
 但し、Chrome/Edge/Firefox ブラウザで Storage Access API が利用できる場合は、ブラウザ操作者がコンテンツ使用を許可する事で本機能のポートレットを利用する事が可能になります。
 コンテンツ使用の許可はポートを表示する一連の動作に組み込まれています。

【許可動作の流れ】

1. SharePoint から X-point のポートレット表示機能呼び出す
2. サードパーティーCookie の利用が許可されている ⇒ ポートレットを表示して終了
3. Storage Access API の利用が許可されている ⇒ ポートレットを表示して終了
4. ポートレット位置に「コンテンツ使用設定の許可」ダイアログが表示される
5. ユーザが「コンテンツ使用設定の許可」をクリックする（必ず“人”が操作します）
6. ブラウザ設定で Storage Access API の許可操作が許されている ⇒ ポートレットを表示して終了
7. ブラウザ設定が Storage Access API の許可操作を許していない ⇒ ポートレットの表示は出来ません

【「コンテンツ使用設定の許可」ダイアログ】

【Storage Access API の許可操作が許可されていない】

連携処理中です暫くお待ちください.....

【ブラウザ設定の確認】

サードパーティーCookieが無効なためガジェット表示出来ません。
 コンテンツ使用設定を許可してください。

※ボタンクリックでガジェット表示できない場合は
 ブラウザ設定でサードパーティーCookieを有効にしてください。

連携処理中です暫くお待ちください.....

【ブラウザ設定の確認】

サードパーティーCookieが無効なためガジェット表示出来ません。
 コンテンツ使用設定を許可してください。

※ボタンクリックでガジェット表示できない場合は
 ブラウザ設定でサードパーティーCookieを有効にしてください。
 許可設定を変更できません。
 ご利用のブラウザの設定画面より埋め込みコンテンツ設定を確認し
 X-point が動作するサイトに対し許可設定を行ってください。

Storage Access API の利用が許可されるとポートレットが表示されるようになります。
 複数のポートレットを表示する画面の場合は、一つのポートレットで許可を行うと他のポートレットも自動的に許可されます。
 ※ 自動で許可されない場合は、画面全体を再表示してください。

表示が許可された場合は 30 日以内に再利用する限り継続してポートレットが表示され表示の度に延長されます。30 日以内の利用が無い場合は再度コンテンツ使用の許可を求める表示が行われます。

Chrome/Edge ブラウザでサードパーティーCookie が利用できない場合、ガジェットタイプ「TOP 画面」は動作しません。

2.3. 設定の更新

登録済みの SharePoint 連携設定を更新します。操作方法は新規登録の場合と同じです。

SharePoint連携設定

SharePoint連携情報を修正します。

基本情報	
SharePoint連携	<input checked="" type="radio"/> 実行する <input type="radio"/> 実行しない
パスワード ① 半角1-50文字。 英数字及び一部の記号(- _ . @ *)が使用できます。	<input type="password" value="●●●●●●"/> Webパーツ登録で指定するパスワードを設定します。
リファラチェック ① 半角512文字以内。	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する ① X-pointに遷移するSharePointのサイトURLを指定します。 URLは正規表現での指定が可能です。
ログアウト遷移先URL ① 半角512文字以内。	https://xpoint3.sample.jp/sites/X-point 空欄にするとログアウト時にSharePointへの遷移を行いません。 (X-pointのログインセッション切断のみ行います)
戻り先URL ① 半角512文字以内。	https://xpoint3.sample.jp/sites/X-point 空欄にするとX-point上部にSharePoint連携時の戻り先表示を行いません。
リンク画像 ① 画像形式は、GIF、JPEG、PNGが使用できます。 画像は最大9.5MBです。	<input checked="" type="radio"/> 指定しない <input type="radio"/> 指定する <input type="button" value="参照"/> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; text-align: center;">ドラッグ&ドロップするか参照ボタンから選択してください</div> <p>画像のサイズは高さ15(px)以下、幅180(px)以下にしてください。 サイズが大きい場合は縮小して表示されます。</p>
リンク代替テキスト	SharePoint リンク画像を利用しない場合に入力された文字列がリンクになります。 リンク画像を利用する場合はツールチップに利用されます。
ログイン許可	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する X-pointに直接ログインすることを禁止にする場合は「しない」を選択します。
パスワード変更禁止	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する X-pointフロント画面を利用するユーザのパスワード変更を禁止する場合は「する」を選択します。
ログアウト表示	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する X-pointフロント画面に「ログアウト」を表示しない場合「しない」を選択します。

初期表示時に登録済みの設定ファイルの内容が表示されます。

3. アプリの登録

サイトに設定する Web パーツは Microsoft 365 / SharePoint Online と SharePoint Server・2016 で登録するモジュール、及び登録方法が異なります。利用する環境にあった手順で登録を行って下さい。

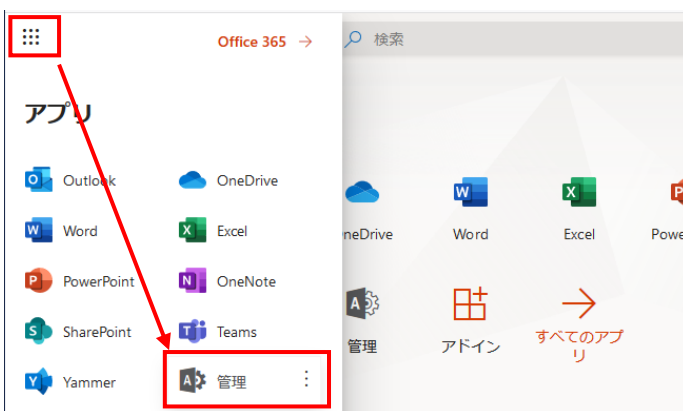
3.1. Microsoft 365 / SharePoint Online のアプリ登録

Microsoft 365 (SharePoint Online) のサイトに、X-point を表示する為の Web パーツは「xpoint-spfx-web-part.sppkg」という名称の“アプリ”ファイルとして提供されます。X-point との連携利用では“アプリ”を Microsoft 365 (SharePoint Online) に登録する必要があります。

3.1.1. アプリ カタログの作成

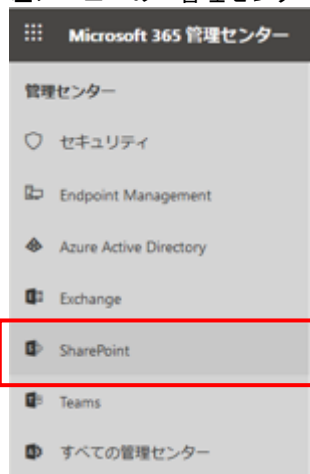
「アプリ カタログ」の作成は「SharePoint 管理センター」にて行います。

- 1) フルコントロール権限をもつユーザーで Microsoft 365 にログインします。
ログイン後「管理者」アプリに移動します。



- ※ 管理センターを利用できるユーザーの場合、オンライン アプリの一覧に【管理者】が表示されます。
- ※ 表示されるメニューの内容、数は、Microsoft 365 の契約内容により異なります。

- 2) 「Microsoft 365 管理センター」より「SharePoint 管理センター」移動します。
左メニューの「管理センター」を展開し、「SharePoint」(SharePoint 管理センター) に移動します。



3) 「アプリ」をクリックします

【クラシック エクスペリエンスの場合】

Office 365 管理者

SharePoint 管理センター

サイト コレクション

infopath
ユーザー プロファイル
bcs
用語ストア
レコード 管理
検索
secure store
アプリ
共有
設定
ハイブリッドの 構成

サイト コレクション

新規 削除 プロパティ 所有者 共有 保存スペースの購入 サーバー リソース クォータ アップグレード ごみ箱

投稿 管理 復元

URL で検索... 1.01 TB 中 1.01 TB 使用可能 5000 のリソースが使用可能

URL	使用済み記憶域サイズ (GB)	サーバー リソース クォータ	バージョン
https://[redacted].sharepoint.com	0.00	300	2013
https://[redacted].sharepoint.com/portals/hub	0.00	0	2013
https://[redacted].sharepoint.com/search	0.03	0	2013
https://[redacted].sharepoint.com/sites/CompliancePolicyCenter	0.00	0	2013
https://[redacted].sharepoint.com/sites/xpoint_developer	0.00	300	2013
https://[redacted].sharepoint.com/sites/x-point_store	0.00	300	2013
https://[redacted].my.sharepoint.com	0.00	0	2013

【モダン エクスペリエンスの場合】

SharePoint 管理センター

その他の機能

従来の SharePoint 管理センターから使い慣れた機能にアクセスできます。

用語ストア

用語セットを作成および管理して、ユーザーがデータを確実に入力できるようにします。[詳細情報](#)

ユーザー プロファイル

ユーザーの OneDrive の管理者を追加または削除したり、一部のユーザーの OneDrive 作成を無効にしたりします。[詳細情報](#)

検索

ユーザーが探しているものを見つけやすくなります。[詳細情報](#)

アプリ

SharePoint ストアの設定の構成、アプリの使用状況の監視、アプリライセンスの管理などを行います。[詳細情報](#)

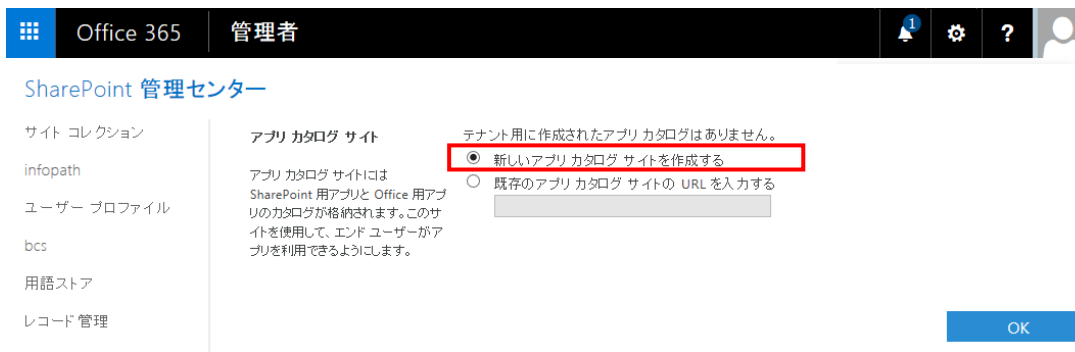
※モダン エクスペリエンスの場合は「開く」を押下した時点で「アプリ カタログ」の作成が完了します。続けて次の章「アプリの登録」に進んでください。

4) 「アプリ カタログ」をクリックします

クリック後、「アプリ カタログ」の作成ダイアログが表示されます。
作成ダイアログが表示されず「アプリ カタログ サイト」が表示された場合は、
既にカタログサイトが作成されています。次の章「アプリの登録」に進んでください。



5) 「アプリ カタログ」の作成



「アプリ カタログ」を作成します。
必要項目（赤枠部分）を入力し【OK】をクリックします。

- 6) 「アプリ カタログ サイト コレクション」を作成します。
必要項目（赤枠部分）を入力し【OK】をクリックします。

Office 365 管理者

SharePoint 管理センター

アプリ カタログ サイト コレクションの作成

タイトル

Web サイトのアドレス

言語の選択

タイムゾーン

管理者

記憶域のクォータ GB

サーバーリソースクォータ リソースが 1500 リソース中使用可能

OK キャンセル

【入力例】

- タイトル : Adin Catalog (カタログサイトの見出しになります。後で修正できます)
- Web サイトのアドレス : adin-catalog (カタログサイト URL の一部になります)
- 言語の選択 : Japanese
- タイムゾーン : (UTC+09:00) 大阪、札幌、東京
- 管理者 : (カタログサイトの登録、修正を行うユーザーのアカウントを指定してください)

3.1.2. アプリの登録

【モダン エクスペリエンスの場合】

一部の設定が『クラシック エクスペリエンス』画面での操作を必要とするため、切り替えを行います。

- 1) 「Microsoft 365 管理センター」 > 「SharePoint 管理センター」 > 「その他の機能」 > 「アプリ」 > 「開く」から「アプリの管理」を開きます。
- 2) 「クラシック エクスペリエンスに移動します」のリンクを押下します。



続いて【クラシック エクスペリエンスの場合】の手順を実施ください。

【クラシック エクスペリエンスの場合】

- 1) 前章で作成したカタログサイトを表示します「SharePoint 用アプリの配布」アイコンをクリックします。

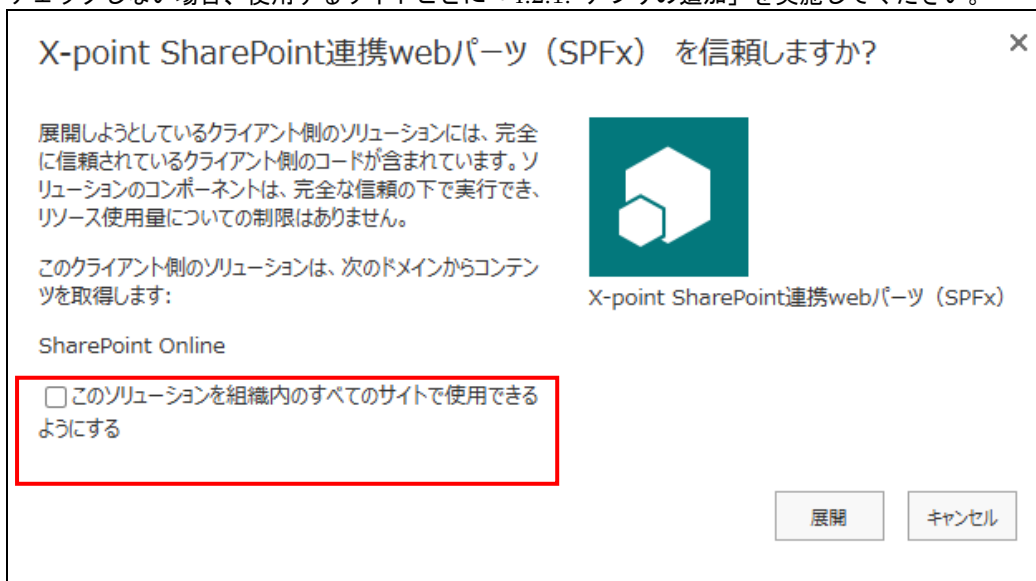


- 2) 連携アプリ「xpoint-spfx-web-part.sppkg」をアップロードします。



- ※ 「xpoint-spfx-web-part.sppkg」ファイルを【ファイルをアップロードするには、ここにドラッグします】の付近にドロップすることでアップロードが可能です。
- ※ 連携アプリ (xpoint-spfx-web-part.sppkg) は、製品サポートサイトの【ダウンロード】ページよりダウンロードしてご利用ください。

アップロード時に「このソリューションを組織内のすべてのサイトで使用できるようにする」にチェックした場合、「4.2.1. アプリの追加」の実施は不要です。
 チェックする場合、すべてのサイトで使用することができます。
 チェックしない場合、使用するサイトごとに「4.2.1. アプリの追加」を実施してください。



アップロードが完了するとアプリ一覧に表示されます。



続けて、チームサイトでアプリを利用可能にする際に表示される情報を修正登録します。

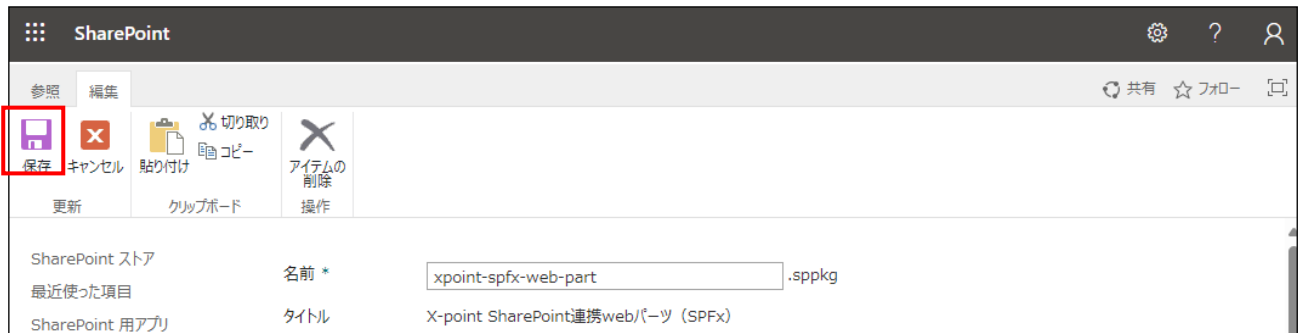
3) アプリ登録一覧で連携用アプリの編集アイコンをクリックします。



4) アプリの登録情報を修正します。

登録を行うと「アプリの追加」画面などで登録内容が表示されるようになります。

修正は表の内容に従って行ってください。修正後は【保存】アイコンをクリックします。



項目名	設定内容
名前	xpoint-spfx-web-part
メタデータ言語	日本語（もしくは、Japanese）
既定のメタデータ言語	チェックする
簡単な説明	SharePoint チームサイトで X-point を Web パーツとして利用します。
説明	SharePoint のチームサイトに X-point の、承認、検索、提出、ブックマーク、インフォメーション、クエリ・グラフを Web パーツを使って表示します。
アイコンの URL	指定しない。 ※ 画像を指定するとアプリ追加の一覧画面でアイコンとして表示されます。（縦横 86px）
カテゴリ	その他「X-point」
発行元の名前	ATLED Corp.
サポートの URL	https://www.atled.jp/xpoint/ X-point 製品情報
イメージの URL1	指定しない。 ※ 画像を指定するとアプリ追加画面の「アプリの詳細」で表示されます（縦 512, 横 384）
イメージの URL2	指定しない。 ※ 画像を指定するとアプリ追加画面の「アプリの詳細」で表示されます（縦 512, 横 384）
イメージの URL3	指定しない。 ※ 画像を指定するとアプリ追加画面の「アプリの詳細」で表示されます（縦 512, 横 384）
イメージの URL4	指定しない。 ※ 画像を指定するとアプリ追加画面の「アプリの詳細」で表示されます（縦 512, 横 384）
イメージの URL5	指定しない。 ※ 画像を指定するとアプリ追加画面の「アプリの詳細」で表示されます（縦 512, 横 384）
ビデオの URL	指定しない
有効	チェックする
お勧め	チェックを推奨。アプリ一覧でお勧めの項目に表示されるようになります。

3.2. SharePoint Server 2016 ソリューションパッケージ登録

SharePoint Server 2016 のサイトに、X-point 表示する為の Web パーツは「AtledWebParts.wsp」という名称の“ソリューションパッケージ”ファイルとして提供されます。X-point と連携させる SharePoint に、ソリューションパッケージの登録とパッケージのアクティブ化を行います。

3.2.1. ソリューション登録画面の表示

ソリューションの登録はトップレベルのサイトにて行います。

1) フルコントロール権限を持つユーザーで SharePoint にログインします。



2) 「サイトの設定」を表示します。

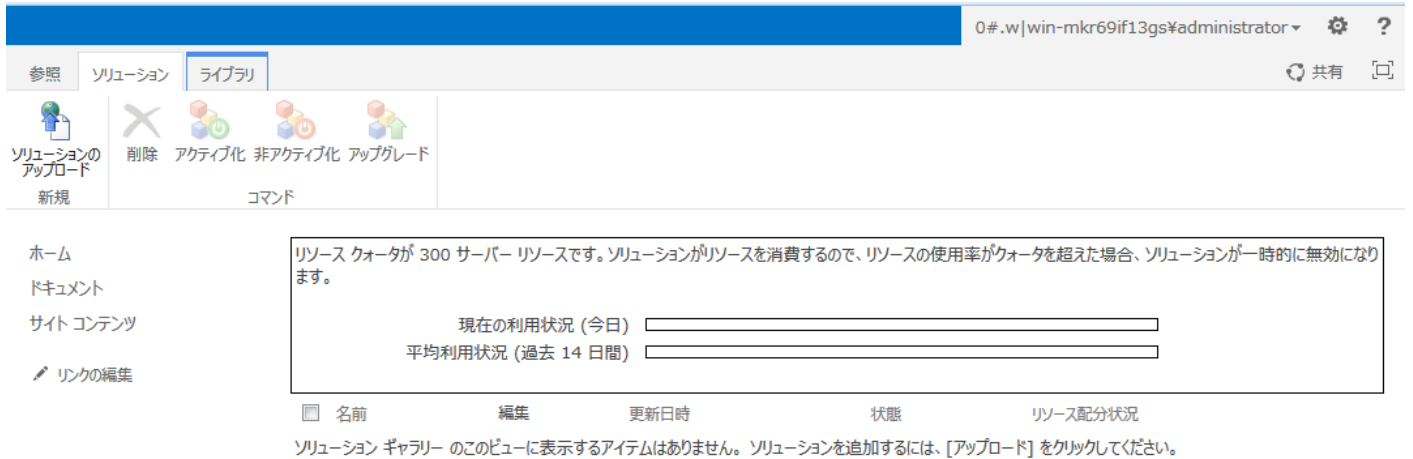


3) 「ソリューション」をクリックし一覧画面を表示します。



- ※ 「Web デザイン ギャラリー」に「ソリューション」が表示されない場合は、サブサイトの設定画面が表示されています。「サイト コレクションの管理」の「トップ レベルのサイト設定に移動」をクリックし、トップレベルのサイト設定に移動してください。
- ※ 「申し訳ございません。このサイトはあなたと共有されていません。」が表示された場合、ログイン中のユーザーはサイトの設定を変更する権限を持っていません。SharePoint サーバーに対し“フルコントロール”の権限を持つユーザーで作業を行うか、ログイン中のユーザーに“フルコントロール”の権限を付与してください。

～～ ソリューション一覧画面 ～～

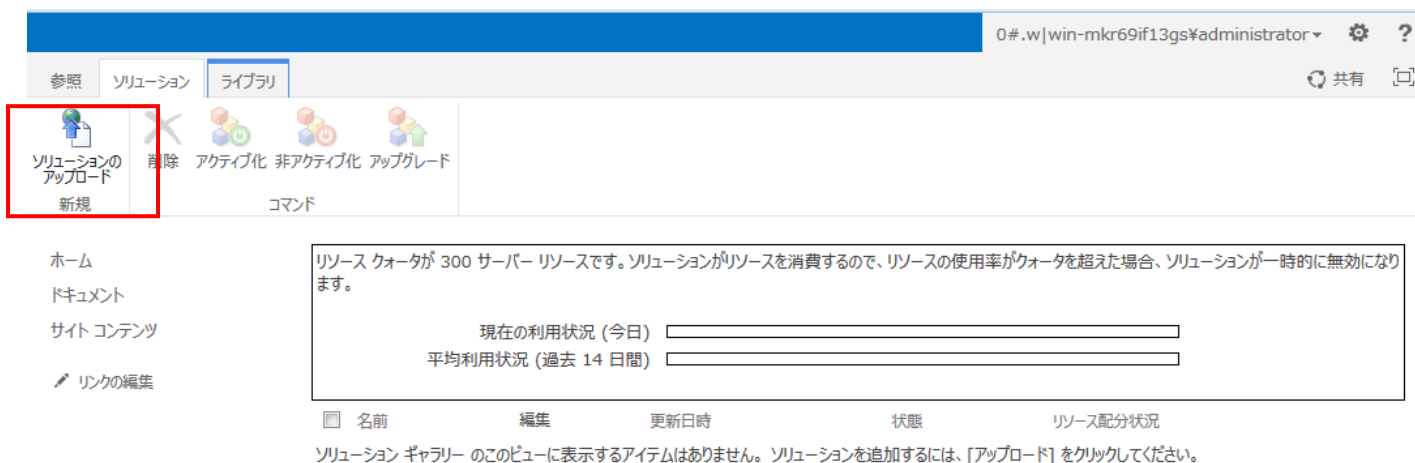


- ※ 登録済みのソリューションが無い状態の画面です。

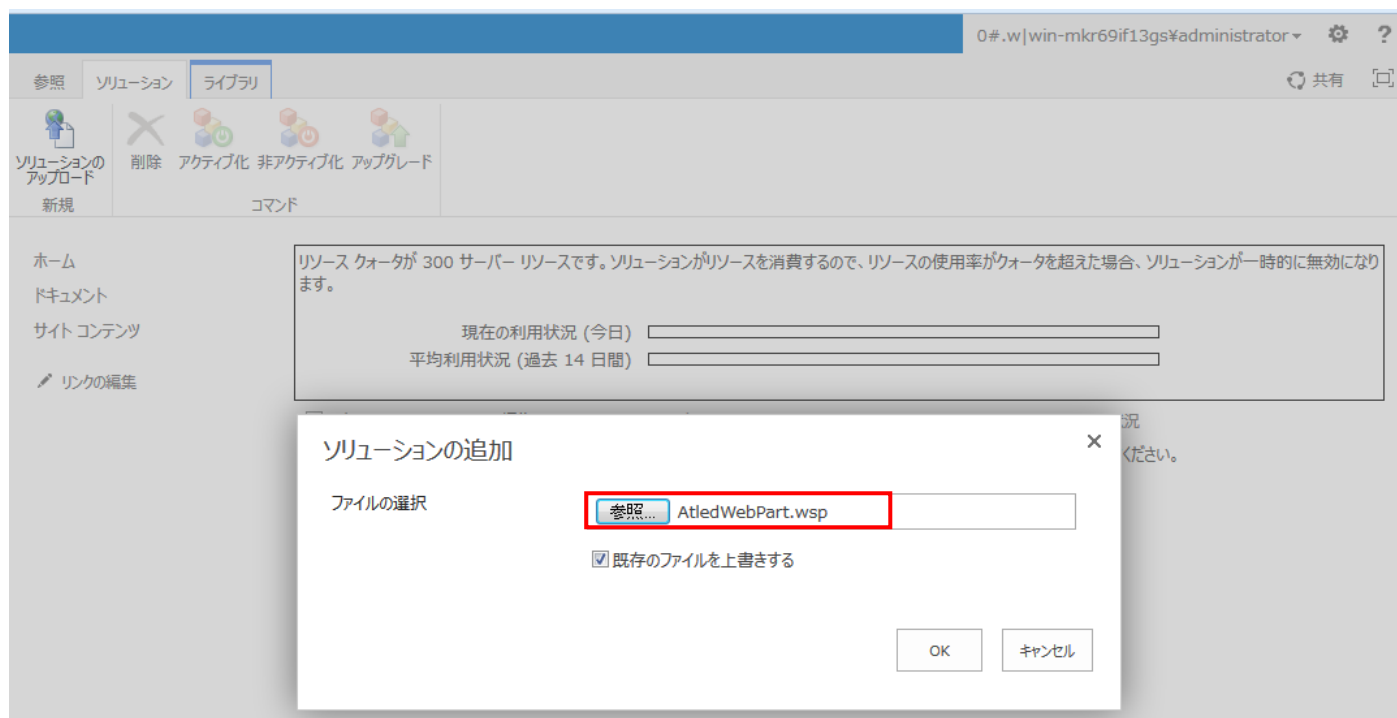
3.2.2. ソリューションパッケージのアップロードとアクティブ化

ソリューション画面で X-point 用 Web パーツが含まれた “ソリューションパッケージ” をアップロードします。

1) リボンメニューより「ソリューションのアップロード」を実行します。



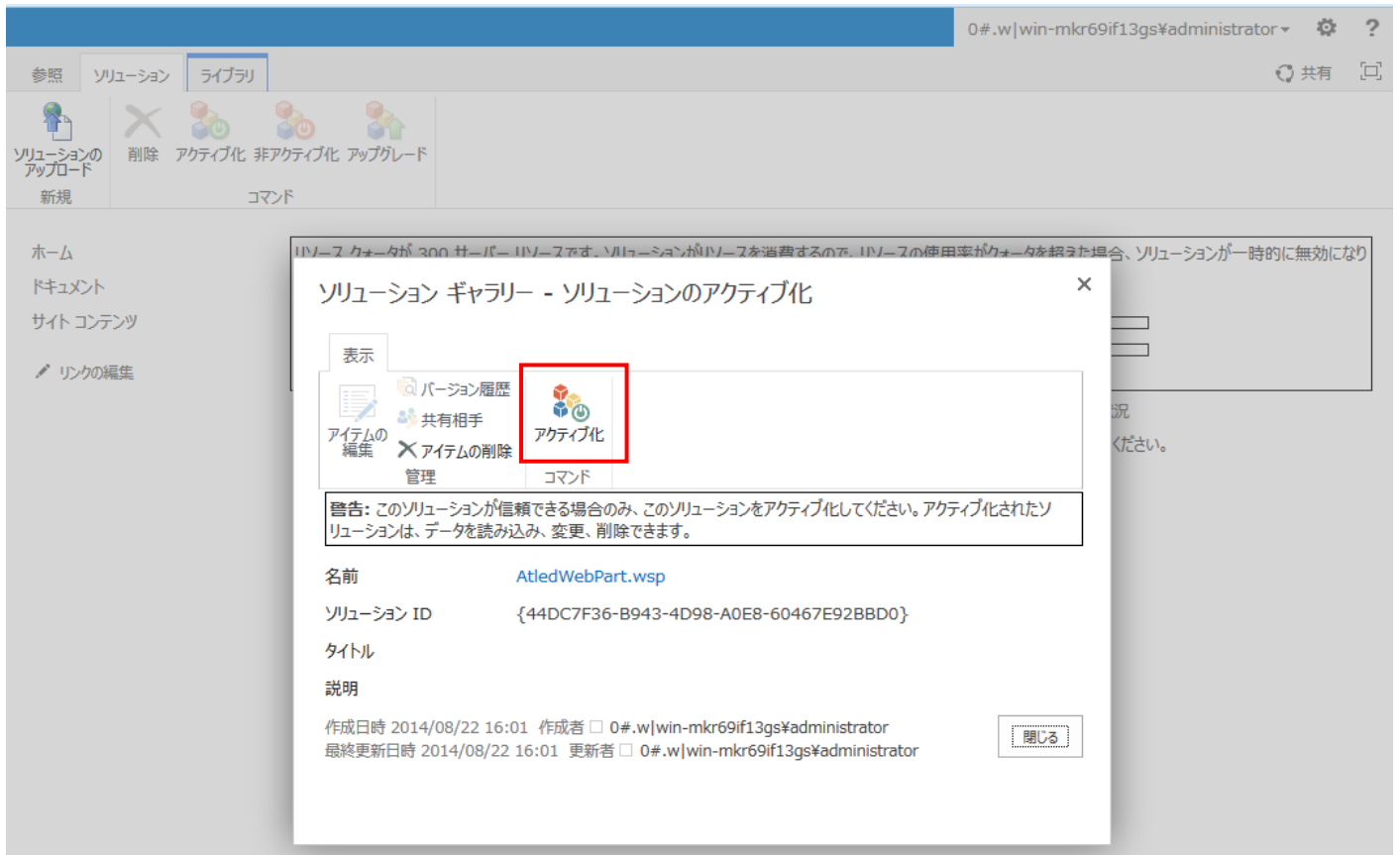
2) 「ソリューションの追加」ダイアログで “AtledWebPart.wsp” を指定します。



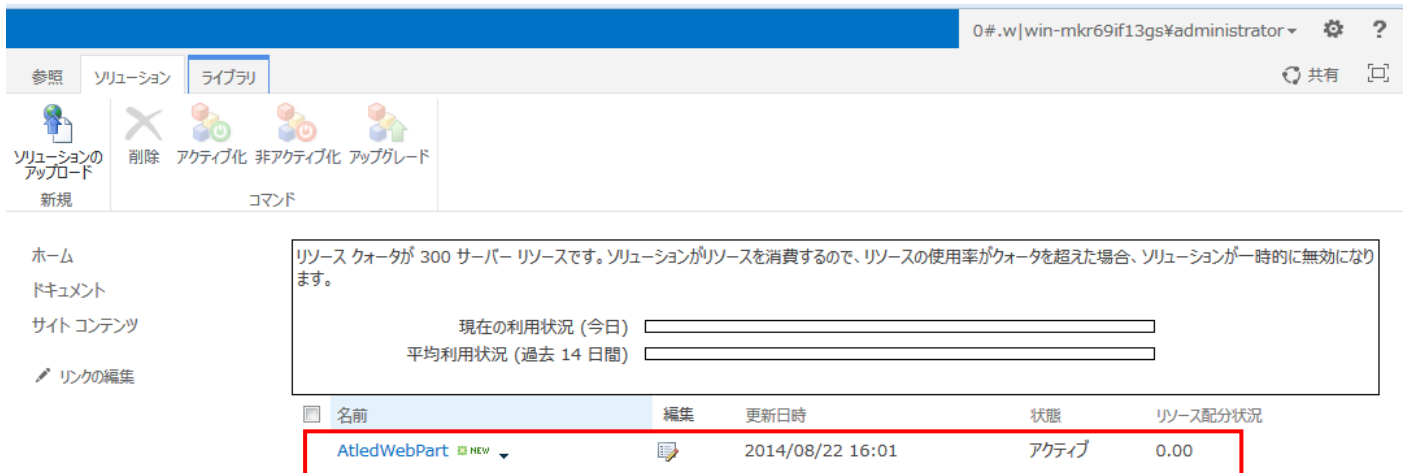
！注意事項

ソリューションパッケージ (AtledWebPart.wsp) は、製品サポートサイトの【ダウンロード】ページよりダウンロードしてご利用ください。

3) アップロードが完了したら「アクティブ化」を実行します。



4) ソリューション一覧にソリューションが追加されます。




※ 「状態」欄に「アクティブ」と表示されていないソリューションは利用する事が出来ません。アップロードを行ったソリューションが「アクティブ」になっていない場合は、ソリューション名にマウスカーソルを合わせ、名前左に表示されるチェックボックスをチェックしたのち、リボンの【アクティブ化】を実行します。

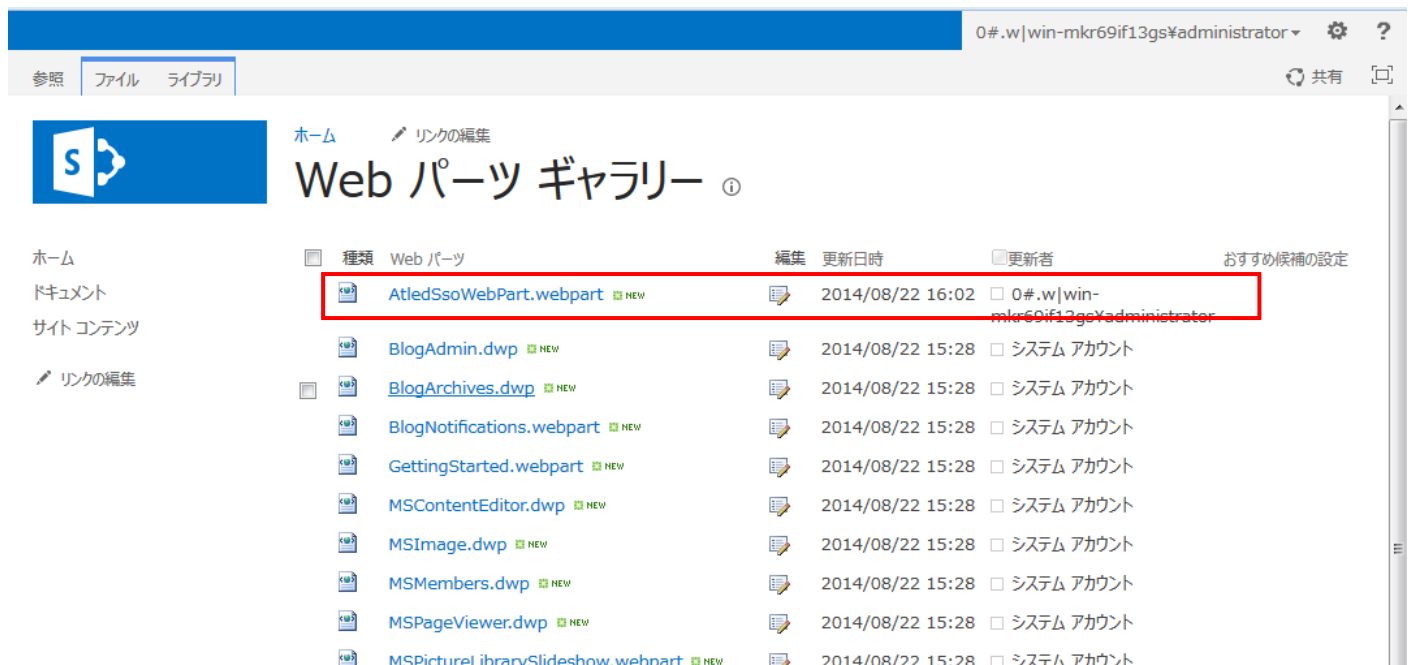
3. 2. 3. 登録された Web パーツの確認

登録された Web パーツの状態を確認します。

- 1) トップ・サイトの「サイト設定」画面を表示し「Web デザイナー ギャラリー」の「Web パーツ」を実行します。



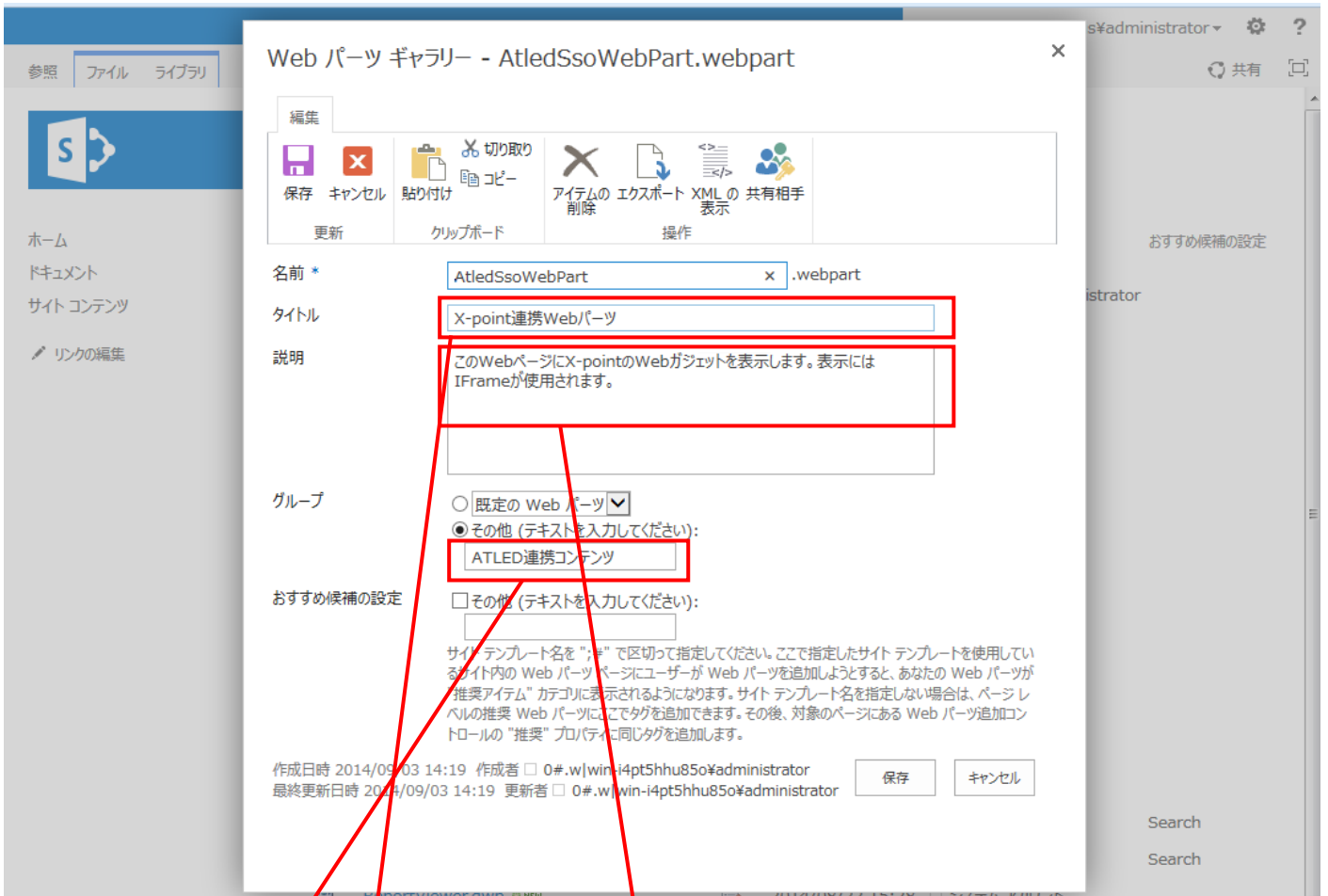
- 2) 登録 Web パーツの一覧から「AtledSsoWebPart.webpart」の編集アイコン（）を実行します。



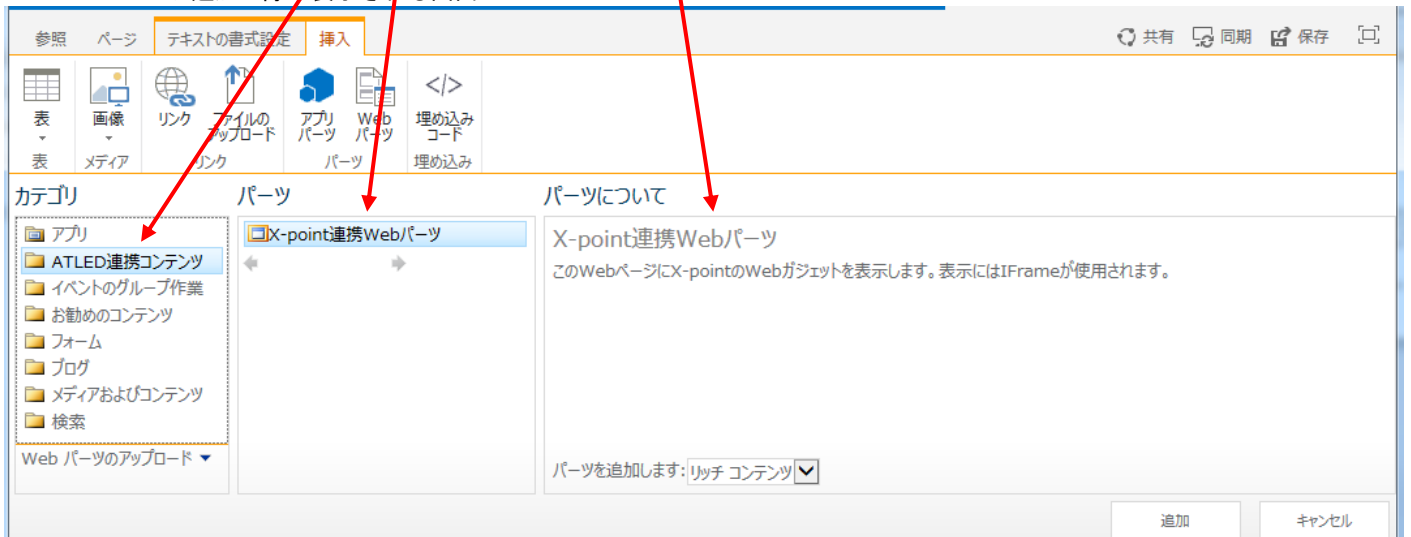
3) 登録内容を確認します。

サイトに Web パーツを追加される際の表示情報を必要に応じ修正します。

登録内容は Web パーツをサイトに配置する際の画面説明として使用されます。通常、初期値のまま構いません。



~~ Web パーツ追加の際に表示される画面 ~~



4. サイトコンテンツの作成

X-point と連携を行う Web パーツをサブサイトに配置して利用する例を示します。実際のサイトの作成は運用内容に沿って作成するようにしてください。

4.1. 連携サイトの作成

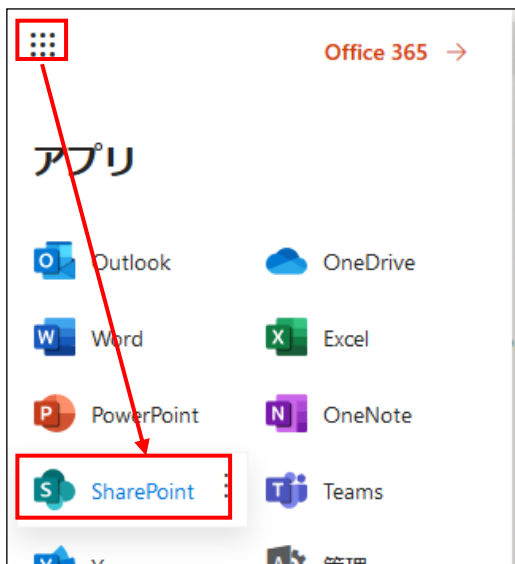
4.1.1. トップサイトで連携する場合

※ 標準で用意されるトップサイトを利用する場合は「[アプリの追加](#)」(Microsoft 365)、「[Web パーツの配置](#)」(SharePoint Server / SharePoint Foundation)に進みます。

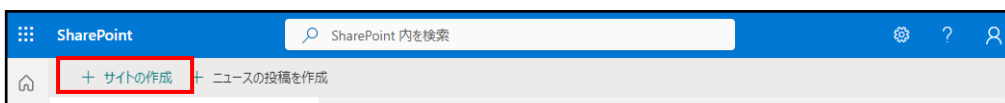
トップサイトの作成方法は、Microsoft 365 と SharePoint Server 2016 で異なります。

4.1.1.1. Microsoft 365 の場合

1) オンライン アプリの一覧より SharePoint を実行します。



2) 画面上部の【+サイトの作成】を実行します。



作成するサイトの種類で「チームサイト」を指定します。



3) サイト名、プライバシー設定、言語などを指定し【次へ】を実行します。

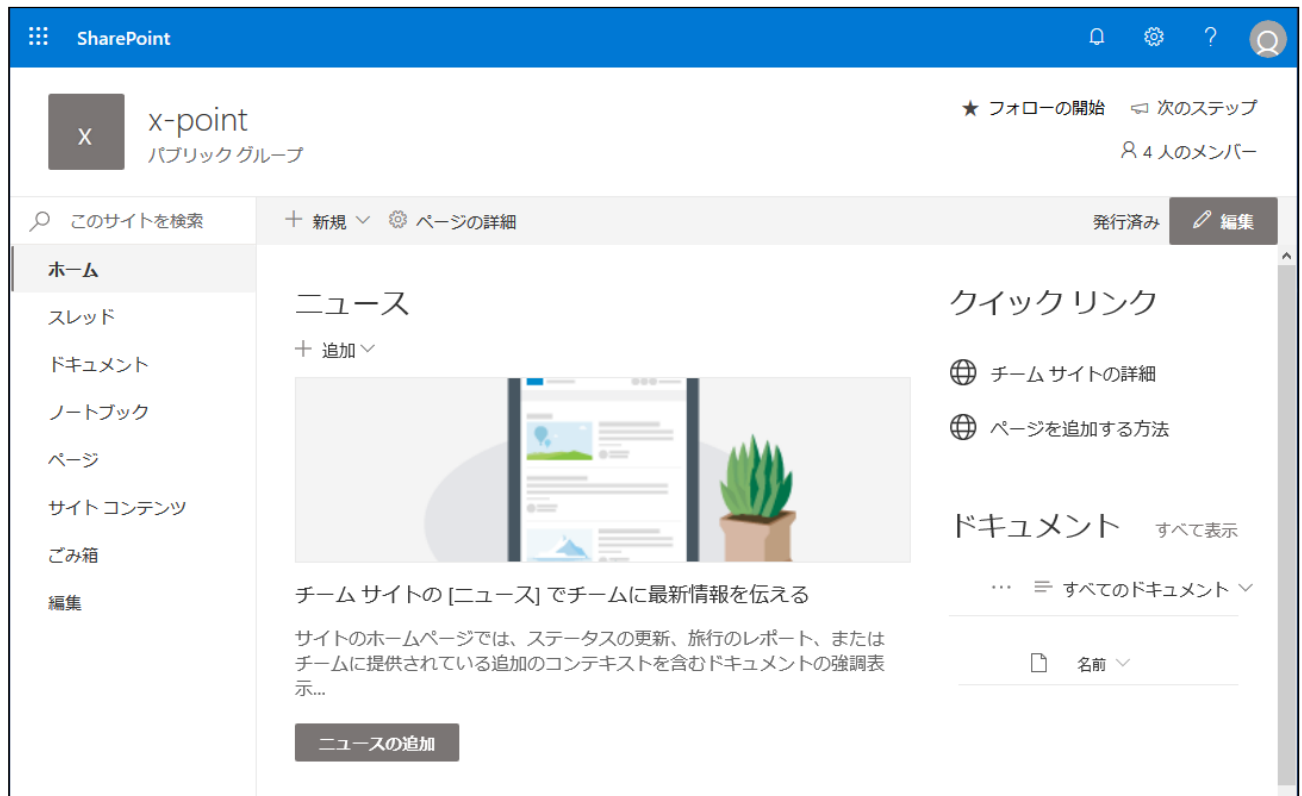


4) サイトを利用するメンバーを指定します。

ユーザー毎、もしくはグループを指定します。



作成が完了すると、初期状態のサイトを表示することができます。



- ※ 作成したトップサイトの削除は【サイト設定】で【このサイトを削除】を実行するか、適当なサイト（何でもよい）を表示し【サイトの設定】を実行後、【サイトコレクションの管理】→【サイト階層】を表示し、削除を行うサイトの【管理】を実行したのち【このサイトを実行】を行います。
- ※ 【サイト設定】に【サイトコレクションの管理】が表示されない場合は、【トップ レベルのサイト設定に移動】を行ったのちに【サイトコレクションの管理】を行います。

4.1.1.2. SharePoint Server 2016 / SharePoint Foundation の場合

- 1) スタートメニューより「SharePoint サーバーの全体管理」を実行しログインします。
- 2) 「サイトコレクションの作成」を実行します。



3) サイトの作成に必要な項目を指定します。

WIN-EODMF13AOCJ¥administrator

共有

サイト コレクションの作成

サーバーの全体管理

アプリケーション構成の管理

システム設定

監視

バックアップと復元

セキュリティ

アップグレードと移行

アプリケーションの全般設定

アプリ

Office 365

構成ウィザード

Web アプリケーション

Web アプリケーションを選択してください。

Web アプリケーション: <http://win-eodmf13aocj/>

新しい Web アプリケーションを作成するには、[\[新しい Web アプリケーション \]](#) ページに移動します。

タイトルと説明

新しいサイトのタイトルと説明を入力してください。タイトルは、サイトの各ページに表示されます。

タイトル:

x-point

説明:

X-point 連携サイト

Web サイトのアドレス

URL 名と URL パスを指定して新しいサイトを作成するか、またはパスを選択してサイトを作成します。

新しい URL パスを追加するには、[\[管理パスの定義 \]](#) ページに移動します。

URL:

<http://win-eodmf13aocj/sites/> x-point

テンプレートの選択

エクスペリエンス バージョンの選択:

2013

テンプレートの選択

グループ作業 エンタープライズ ユーザー設定

チーム サイト

ブログ

開発者向けサイト

グループで共同作業する場所です。

サイト コレクション管理者 (プライマリ)

このサイト コレクションの管理者を指定してください。ログインできるのは 1 ユーザーのみです。セキュリティ グループはサポートされていません。

ユーザー名:

WIN-EODMF13AOCJ¥administrator

代理のサイト コレクション管理者

必要に応じて、代理のサイト コレクション管理者を指定してください。ログインできるのは 1 ユーザーのみです。セキュリティ グループはサポートされていません。

ユーザー名:

クォータ テンプレート

定義済みのクォータ テンプレートを選択して、このサイト コレクションで使用するリソースを制限します。

新しいクォータ テンプレートを追加するには、[\[クォータ テンプレートの管理 \]](#) ページに移動してください。

クォータ テンプレートの選択:

クォータなし

記憶域の制限:

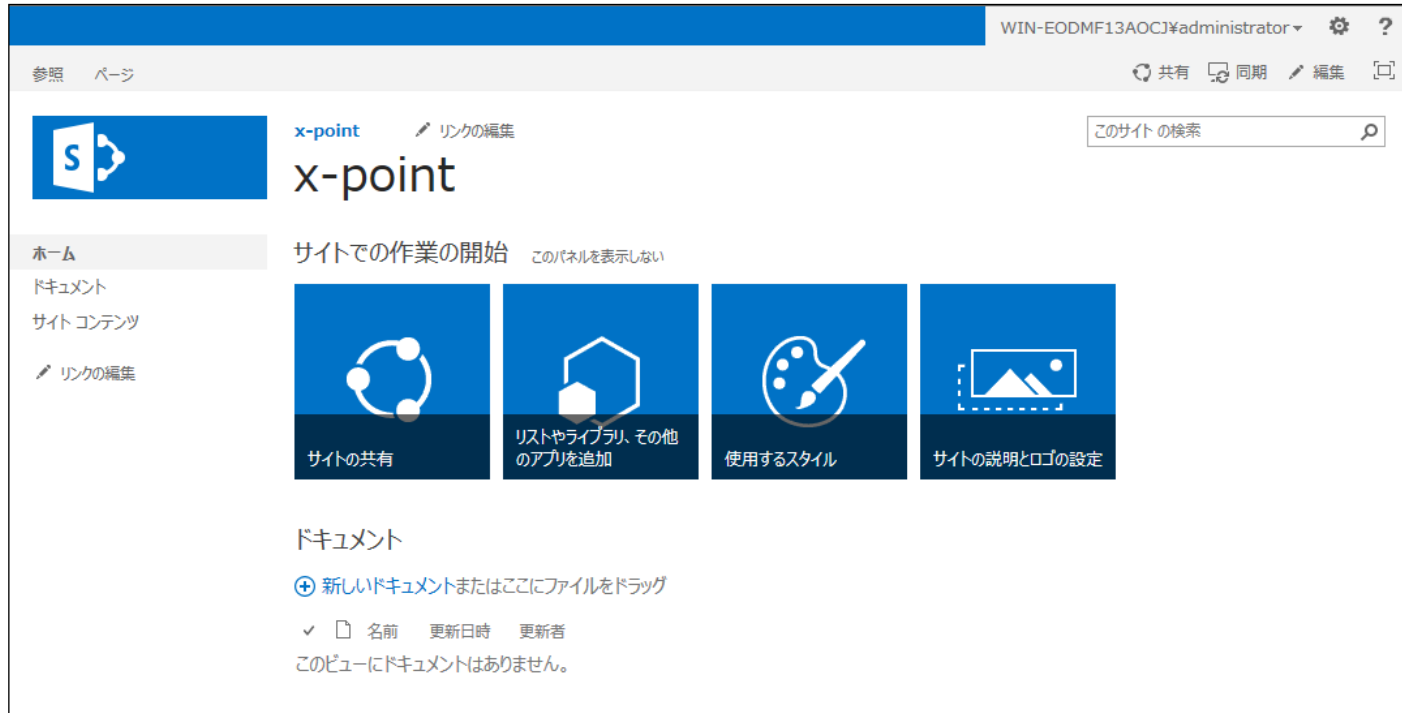
招待するユーザー数:

OK

キャンセル

入力後【OK】ボタンをクリックすると新しいサイトが作成されます。

4) 新しいサイトの URL をブラウザに指定すると初期状態のサイトが表示されます。



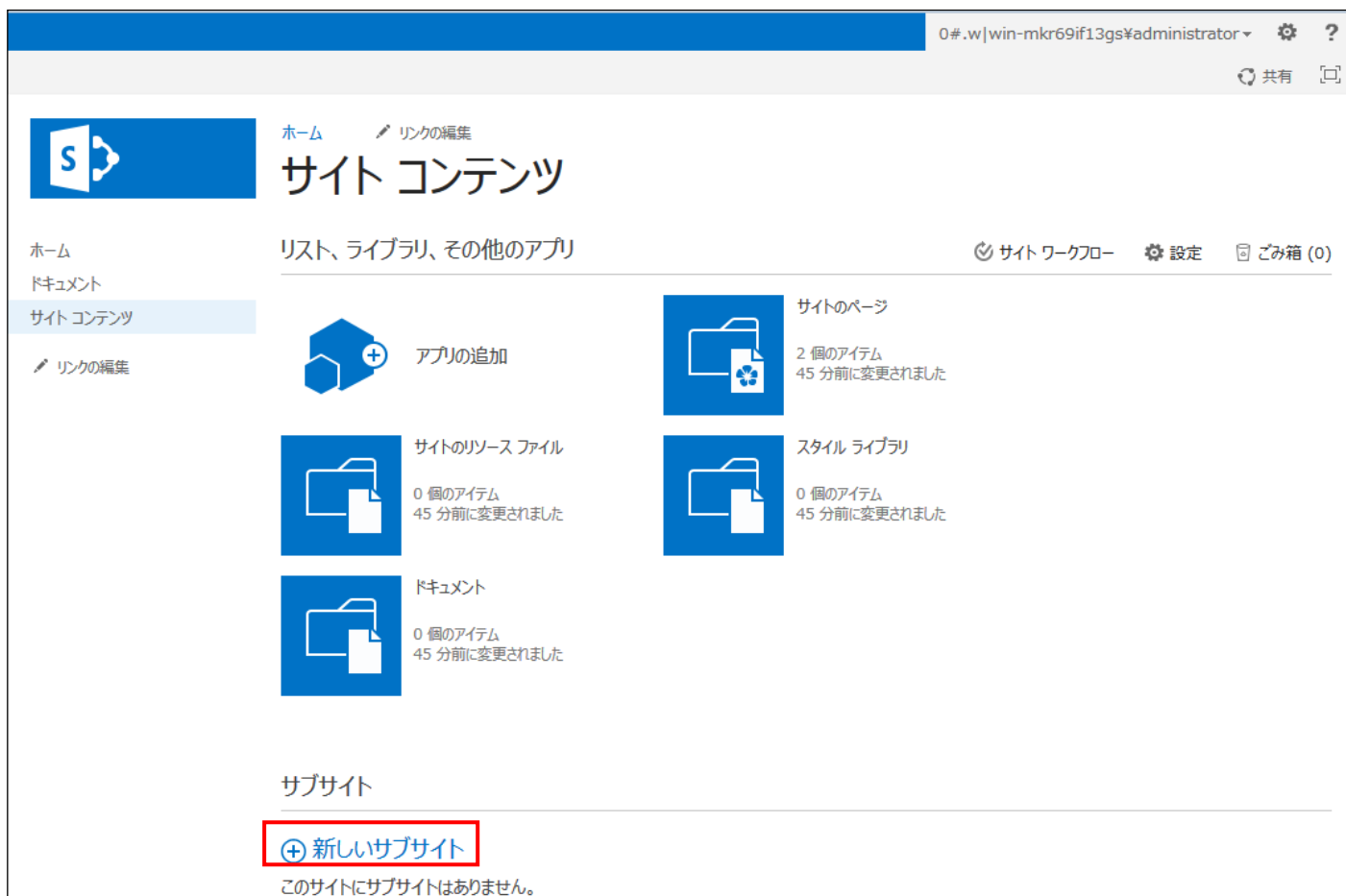
- ※ 作成したトップサイトの削除は【サイト設定】で【このサイトを削除】を実行するか、適当なサイト（何でもよい）を表示し【サイトの設定】を実行後、【サイトコレクションの管理】→【サイト階層】を表示し、削除を行うサイトの【管理】を実行したのち【このサイトを実行】を行います。
- ※ 【サイト設定】に【サイトコレクションの管理】が表示されない場合は、【トップ レベルのサイト設定に移動】を行ったのちに【サイトコレクションの管理】を行います。

4.1.2. サブサイトで連携する場合

1) SharePoint のトップサイトを表示し「サイト コンテンツ」画面を開きます。



2) 「新しいサブサイト」を実行します。



3) 作成するサイトの情報を指定します。

ここでは、タイトルに「X-point SSO」、Web サイトアドレスに「xpoint-sso」、テンプレートに「チームサイト」を指定します。

0#.w|win-mkr69if13gs¥administrator

共有

ホーム リンクの編集

サイト コンテンツ 新しい SharePoint サイト

ホーム
ドキュメント
サイト コンテンツ
リンクの編集

タイトルと説明

タイトル:
X-point SSO

説明:

Web サイトのアドレス

URL 名:
http://win-mkr69if13gs/xpoint-sso

テンプレートの選択

テンプレートの選択

グループ作業 エンタープライズ

チームサイト

ブログ

- ※ サイト作成の詳細については SharePoint マニュアルを参照してください。
- ※ Web サイトアドレスは作成したサブサイトを直接表示する際のアドレスに利用できます。
本項の「xpoint-sso」の場合「http://[sharepoint-server]/xpoint-sso/」でサイト表示ができます。

指定が完了したら、画面下部の【作成】を実行します。指定内容が保存されると新しいサイトが表示されます。

0#.w|win-mkr69if13gs¥administrator

参照 ページ

共有 同期 編集

ホーム リンクの編集

X-point SSO

ホーム
ドキュメント
サイト コンテンツ
リンクの編集

サイトでの作業の開始 このパネルを表示しない

サイトの共有

リストやライブラリ、その他のアプリを追加

使用するスタイル

サイトの説明とロゴの設定

ドキュメント

+ 新しいドキュメントまたはここにファイルをドラッグ

名前 更新日時 更新者

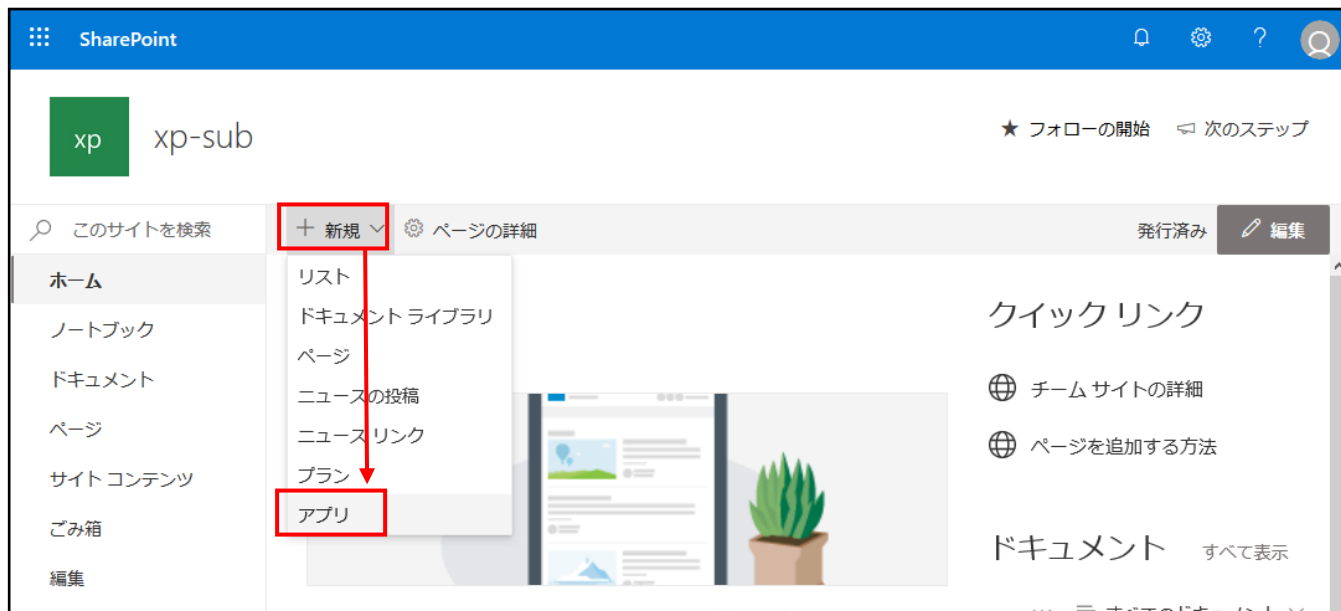
このビューにドキュメントはありません。

4.2. サイトの編集（モダン エクスペリエンス）

4.2.1. アプリの追加

本項は、Microsoft 365 / SharePoint Online を御利用のユーザー様のみ作業が必要になります。

1) 作成するサイトで連携アプリを利用できるようにアプリの追加を行います。



2) アプリの一覧が表示されます。

※【組織】でフィルター指定すると連携用のアプリを素早く見つける事ができます。



※ 連携用アプリ「X-point SharePoint 連携 web パーツ (SPFx)」が表示されない場合は、「[Microsoft 365 / SharePoint Online のアプリ登録](#)」を再確認してください。

※ 「注目アプリ」の表示はアプリの登録情報で「お勧め」項目がチェックされている場合のみ行われます。

3) 「X-point SharePoint 連携 web パーツ (SPFx)」の「追加」をクリックしてアプリの追加を行います。



アプリの追加が完了すると「X-point SharePoint 連携 web パーツ (SPFx)」のボタンが「追加しました」という表示になります。



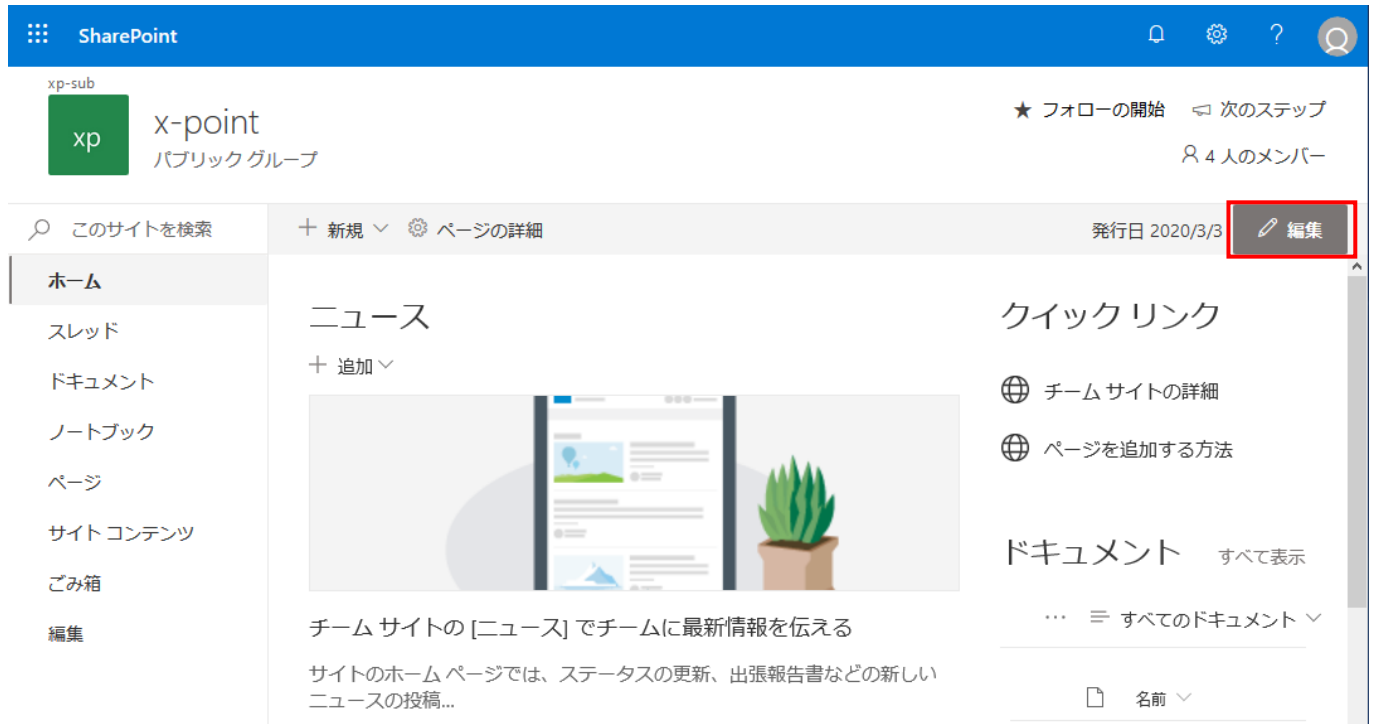
- ※ アプリの追加中にエラーが発生した場合、エラーの内容に従い表示された内容に対する処置を行って下さい。導入時段階では確認のためアプリの登録、削除を繰り返すような場合があります。その場合、ゴミ箱に入ったアプリが影響し再登録ができない等が発生する事があります。ゴミ箱は各サイト、及びサイトコレクションのゴミ箱の2種類がありますのでゴミ箱を空にする場合は2箇所あることに注意してください。(第2レベルのゴミ箱と表現される箇所もあります)

4.2.2. Web パーツの配置

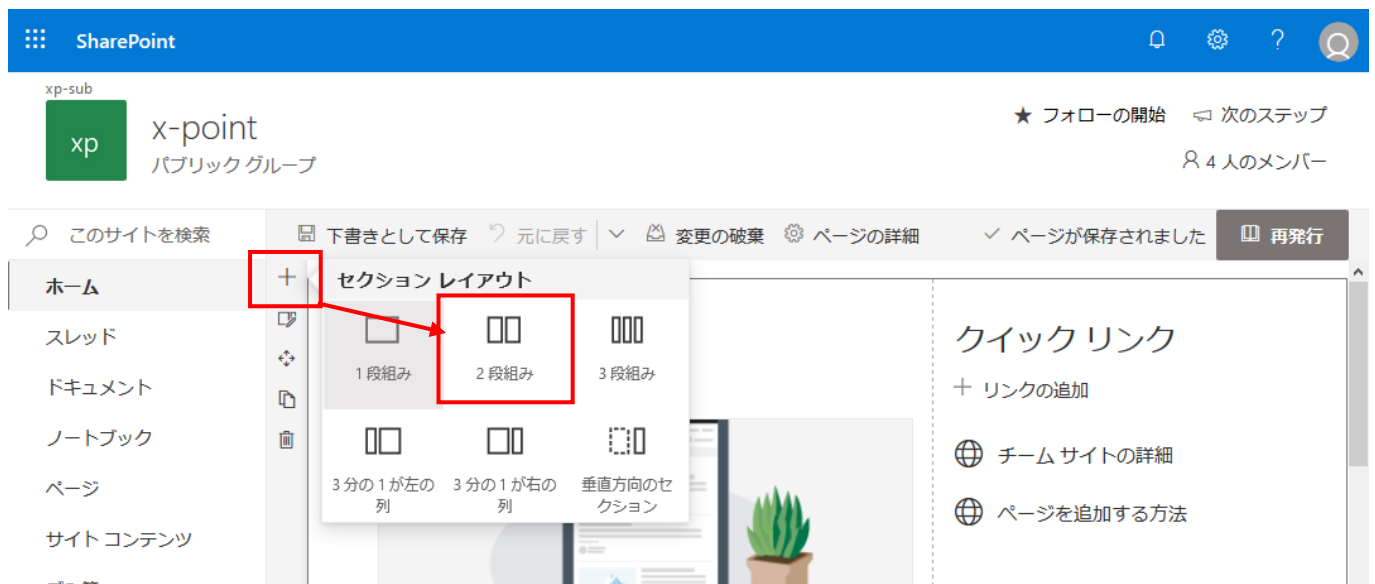
作成したサイトに X-point を表示する為の Web パーツを配置します。

ここでは 2 段組みのサイトを作成し、左側に「承認」、「検索」、右側に「提出」、「ブックマーク」、「インフォメーション」を配置します。

1) 作成した「X-point SS0」サイトを表示し「編集」を実行します。

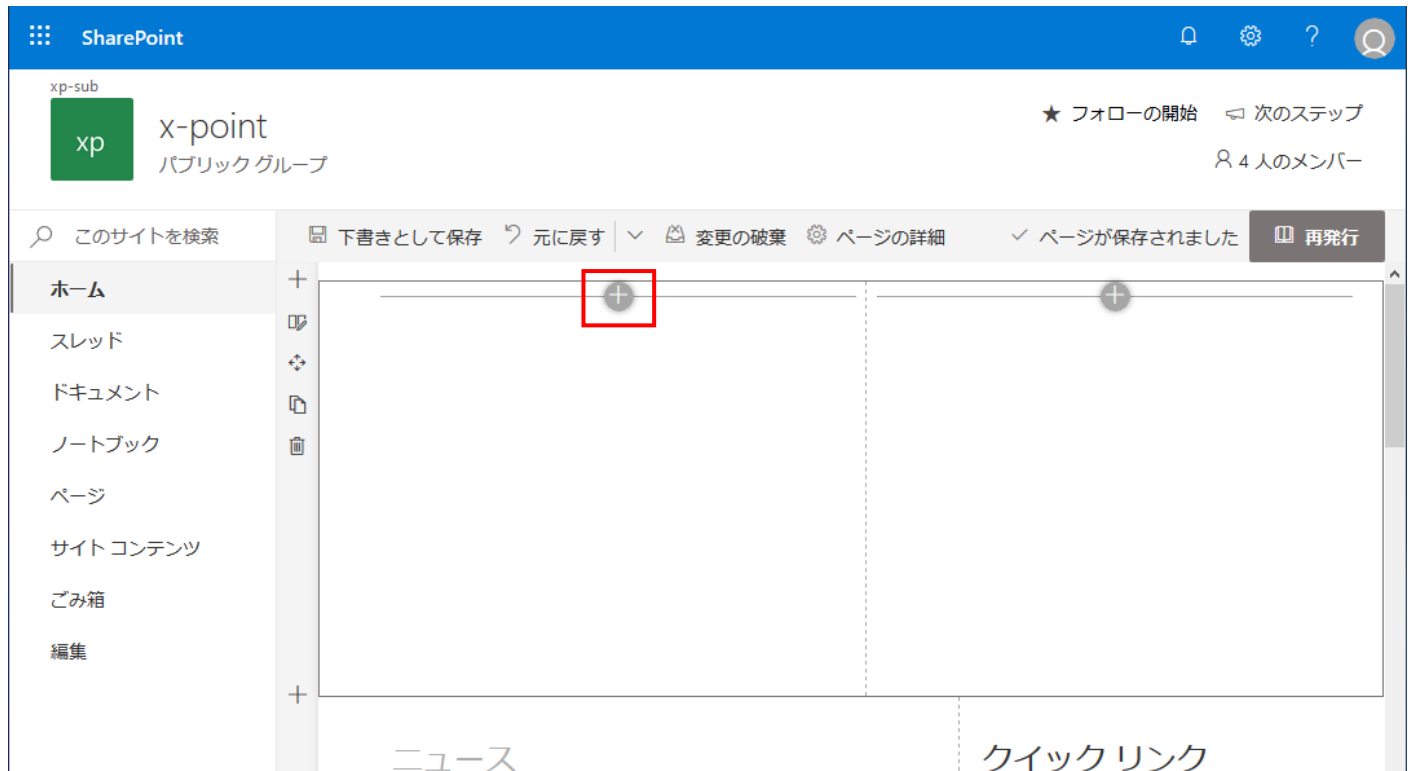


2) 「テキストのレイアウト」を実行し、サイトのレイアウトに「2 段組み」を追加します。



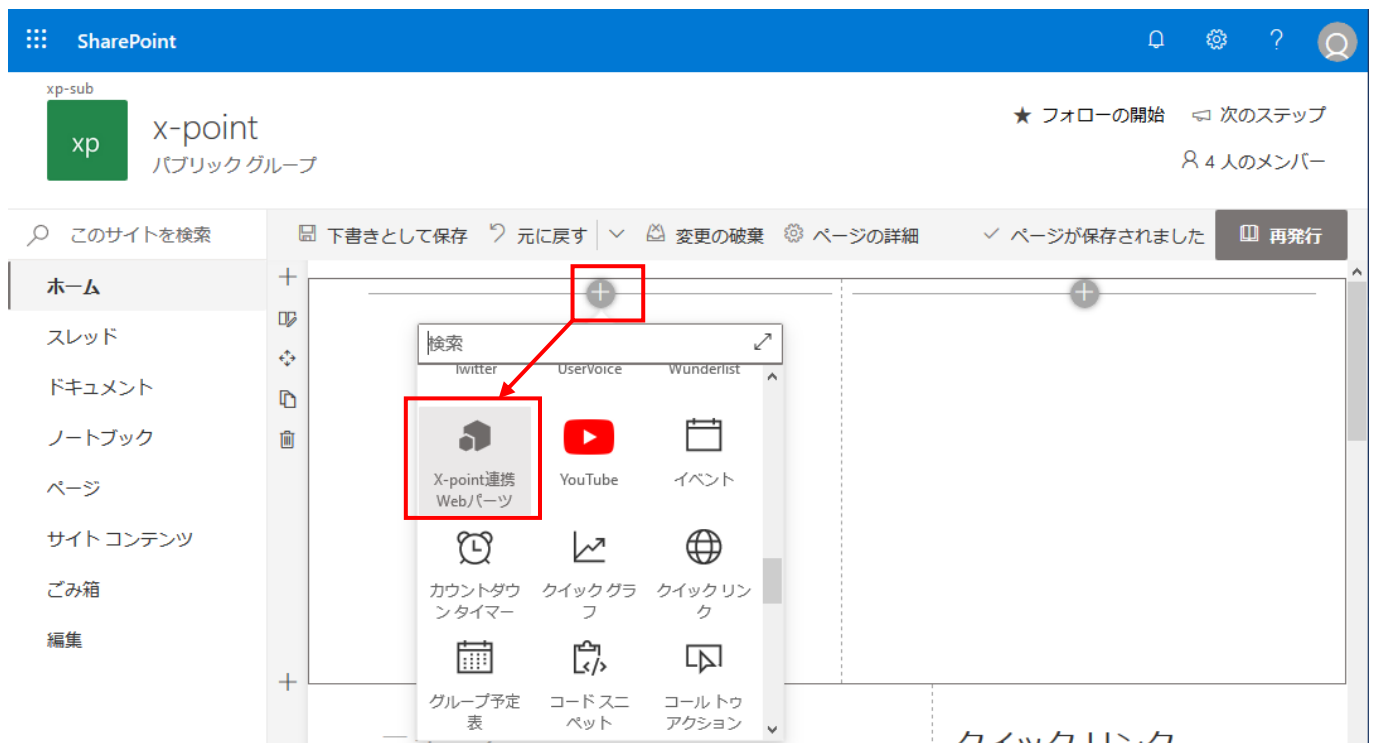
※ レイアウトの指定は「2 段組み」以外のレイアウトを指定しても構いません。運用にあわせ指定してください。

編集画面の上部に「2段組み」のスペースが追加されます。



※ サイトの内容（追加部分の下側に表示）は削除してもかまいません。

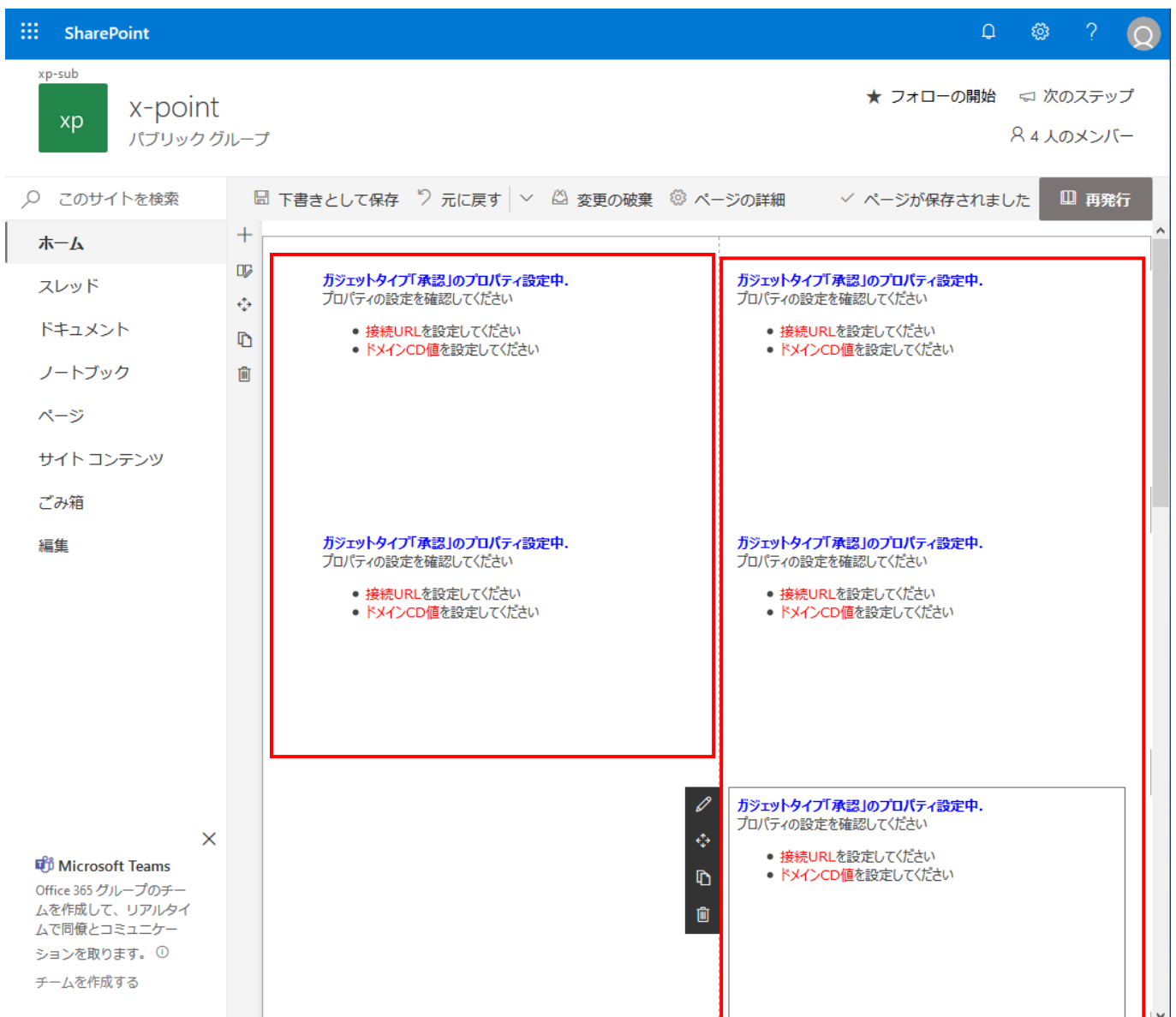
3) 「2段組」の左列上部「+」をクリックし表示される Web パーツより「X-point 連携 Web パーツ」を選びます。



「+」マークの下に Web パーツが追加されます。




引き続き、左列に1つ、右列に3つ追加し、サイト内に計5つの「X-point 連携 Web パーツ」を配置します。



4.2.3. Web パーツの設定

サイトに配置した Web パーツに連携情報を設定します。

- 1) 左列上の Web パーツをクリックするとパーツの左側に表示されるメニューより「」をクリックし Web パーツの詳細を指定します。

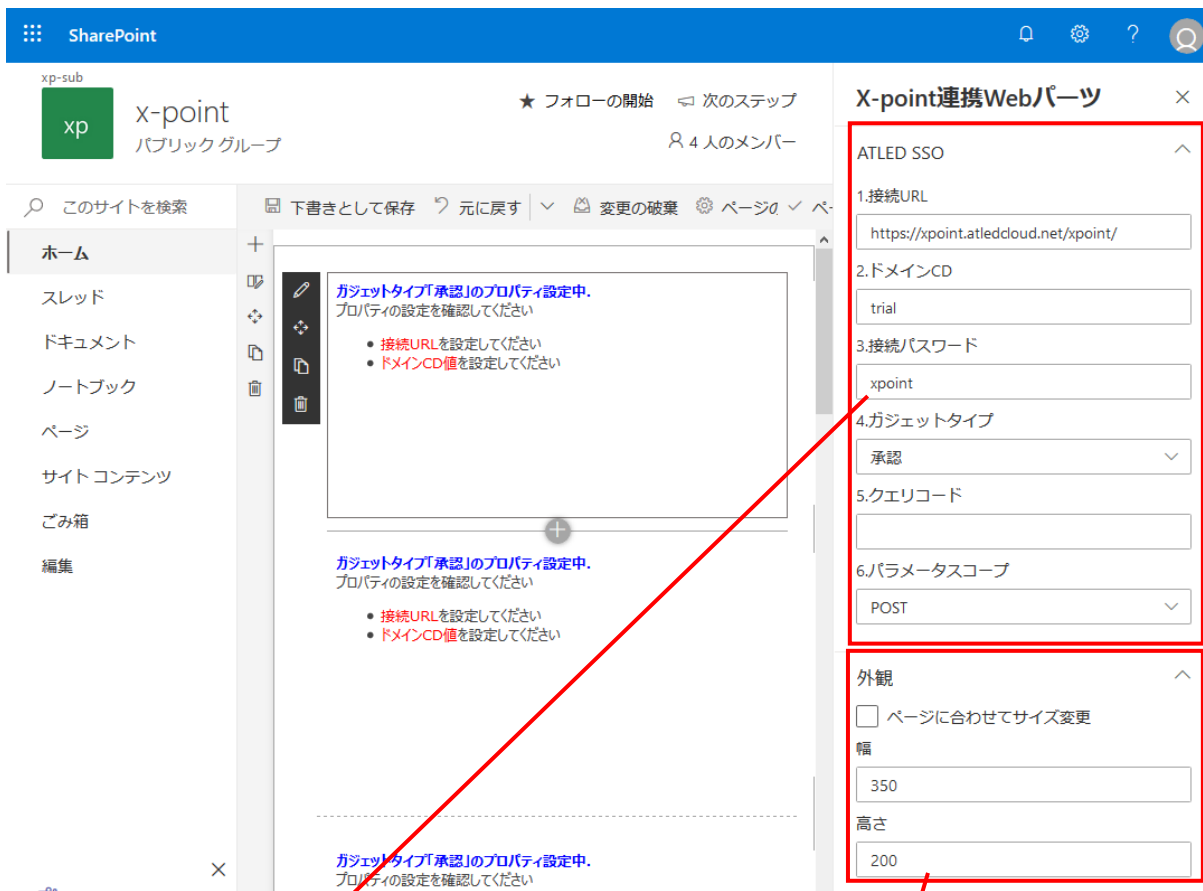
※メニューは Web パーツ名の上にマウスカーソルを置くと表示されます。



The screenshot shows the SharePoint interface for a site named 'x-point' (Public Group). The top navigation bar includes 'SharePoint', a search icon, and utility icons. The site header shows 'xp-sub', 'xp', 'x-point', and 'パブリックグループ'. On the right, there are links for 'フォローの開始', '次のステップ', and '4人のメンバー'. The main content area displays a Web Part titled 'ガジェットタイプ「承認」のプロパティ設定中.' (Configuring properties for the 'Approval' gadget type). A red box highlights the edit icon (a pencil) in the top-left corner of the Web Part's context menu. The Web Part content includes instructions to confirm property settings and lists two required items: '接続URLを設定してください' (Set the connection URL) and 'ドメインCD値を設定してください' (Set the domain CD value). The left sidebar shows navigation options like 'ホーム', 'スレッド', 'ドキュメント', 'ノートブック', 'ページ', 'サイトコンテンツ', 'ごみ箱', and '編集'. The top toolbar contains options for 'このサイトを検索', '下書きとして保存', '元に戻す', '変更の破棄', 'ページの詳細', 'ページが保存されました', and '再発行'.

2) Web パーツのプロパティに「承認」ガジェットの設定に必要な情報を設定します。

設定は「ATLED SSO」、「外観」に行います。表示が折りたたまれている場合は項目右側の「▽」をクリックし展開してください。



【ATLED SSO】

ATLED SSO

1.接続URL

https://xpoint.atledcloud.net/xpoint/

2.ドメインCD

trial

3.接続パスワード

xpoint

4.ガジェットタイプ

承認

5.クエリコード

6.パラメータスコープ

POST

- 接続 URL
X-point の URL
“/xpoint/” で終わる事。
- ドメイン CD 値
連携する X-point のドメイン CD
- 接続パスワード
X-point 側の連携設定で指定したパスワード
- ガジェットタイプ
「wkfl」（承認）
- クエリコード
空欄
* グラフを表示する場合のみ必須。
- パラメータスコープ
「POST」

【外観】

外観

- ページに合わせてサイズ変更

幅

500

高さ

350

- ページに合わせてサイズ変更
OFF
- 幅
500
* 好みの幅に調整してください。
- 高さ
350
* 好みの高さに調整してください。

必要な項目を指定したのち、【適用】をクリックし設定内容を保存します。

プロパティの必須項目に指定がない場合、Web パーツの配置場所に不足項目が表示されます。不足項目が表示された場合は、必要な値を指定してください。

4.3. サイトの編集（SharePoint 2016 以前、クラシック エクスペリエンス）

4.3.1. アプリの追加

本項は、Microsoft 365 / SharePoint Online を御利用のユーザー様のみ作業が必要になります。

1) 作成するサイトで連携アプリを利用できるようにアプリの追加を行います。



2) アプリの一覧が表示されます。

【自分のアプリ】→【組織から】を指定すると連携用のアプリを素早く見つける事ができます。



※ 連携用アプリ「X-point SharePoint 連携 web パーツ (SPFx)」が表示されない場合は、「[Microsoft 365 / SharePoint Online のアプリ登録](#)」を再確認してください。

※ 「注目アプリ」の表示はアプリの登録情報で「お勧め」項目がチェックされている場合のみ行われます。

3) 「X-point SharePoint 連携 web パーツ (SPFx)」 をクリック (アイコンの上など) してアプリの追加を行います。



追加処理中はアプリのアイコンや文字が薄い色で表示されます。このままの状態を追加が完了するまで待ちます。



- ※ アイコンの色が薄く表示されている状態は、Microsoft 365 側で登録処理中である事を示しています。登録中はサイト編集などで利用することができません。
- ※ Microsoft 365 の運営状況に依存しますが、追加には数分から数十分かかる場合があります。

アプリの追加が完了すると「X-point SharePoint 連携 web パーツ (SPFx)」のアイコンの色が濃くなります。



- ※ アプリの追加中にエラーが発生した場合、エラーの内容に従い表示された内容に対する処置を行って下さい。導入時段階では確認のためアプリの登録、削除を繰り返すような場合があります。その場合、ゴミ箱に入ったアプリが影響し再登録ができない等が発生する事があります。ゴミ箱は各サイト、及びサイトコレクションのゴミ箱の2種類がありますのでゴミ箱を空にする場合は2箇所あることに注意してください。(第2レベルのゴミ箱と表現される箇所もあります)

4.3.2. Web パーツの配置

作成したサイトに X-point を表示する為の Web パーツを配置します。

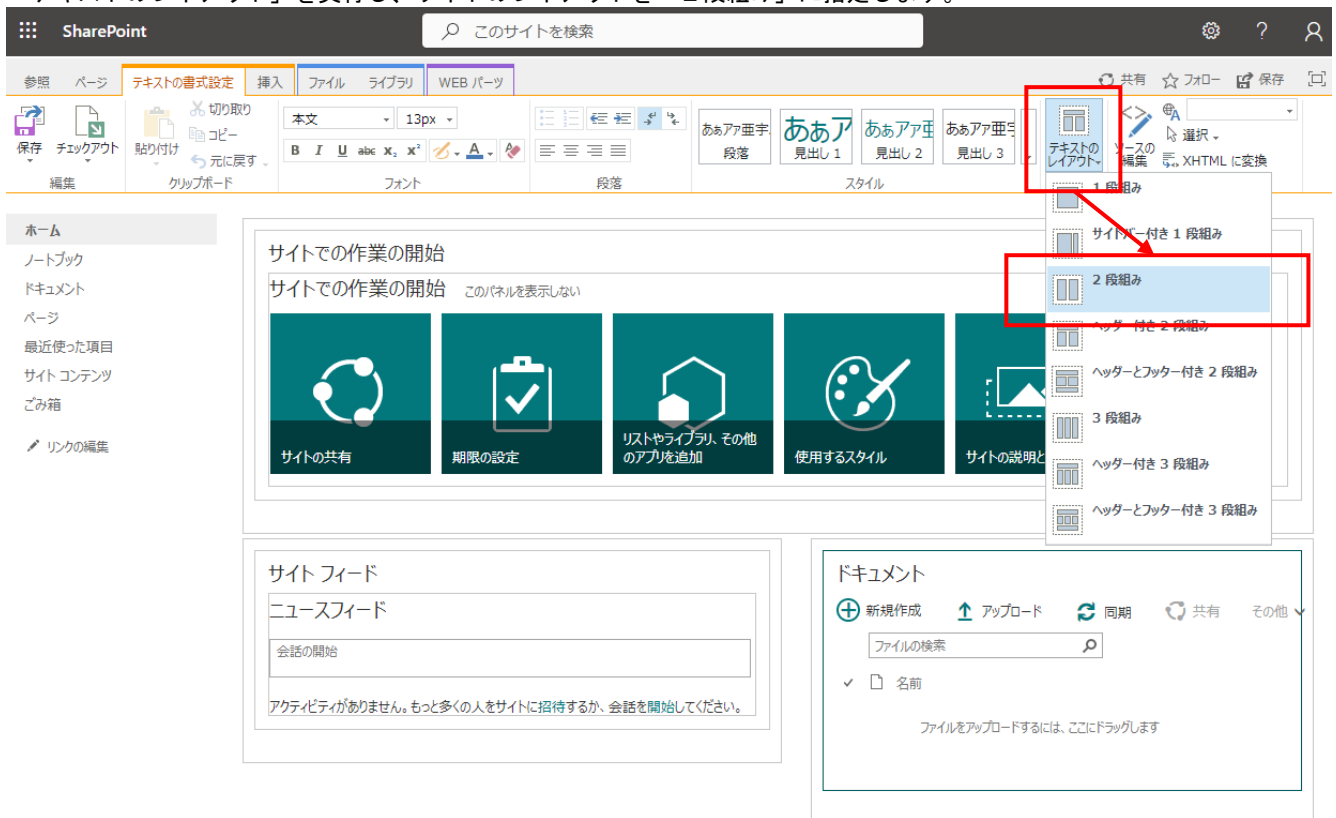
ここでは 2 段組みのサイトを作成し、左側に「承認」、「検索」、右側に「提出」、「ブックマーク」、「インフォメーション」を配置します。

- ※ アプリの場合、ソリューションパッケージ の場合で操作方法が異なる場合があります。操作が異なる部分は各項目に記載がありますので御注意願います。

1) 作成したサイトを表示し「編集」を実行します。

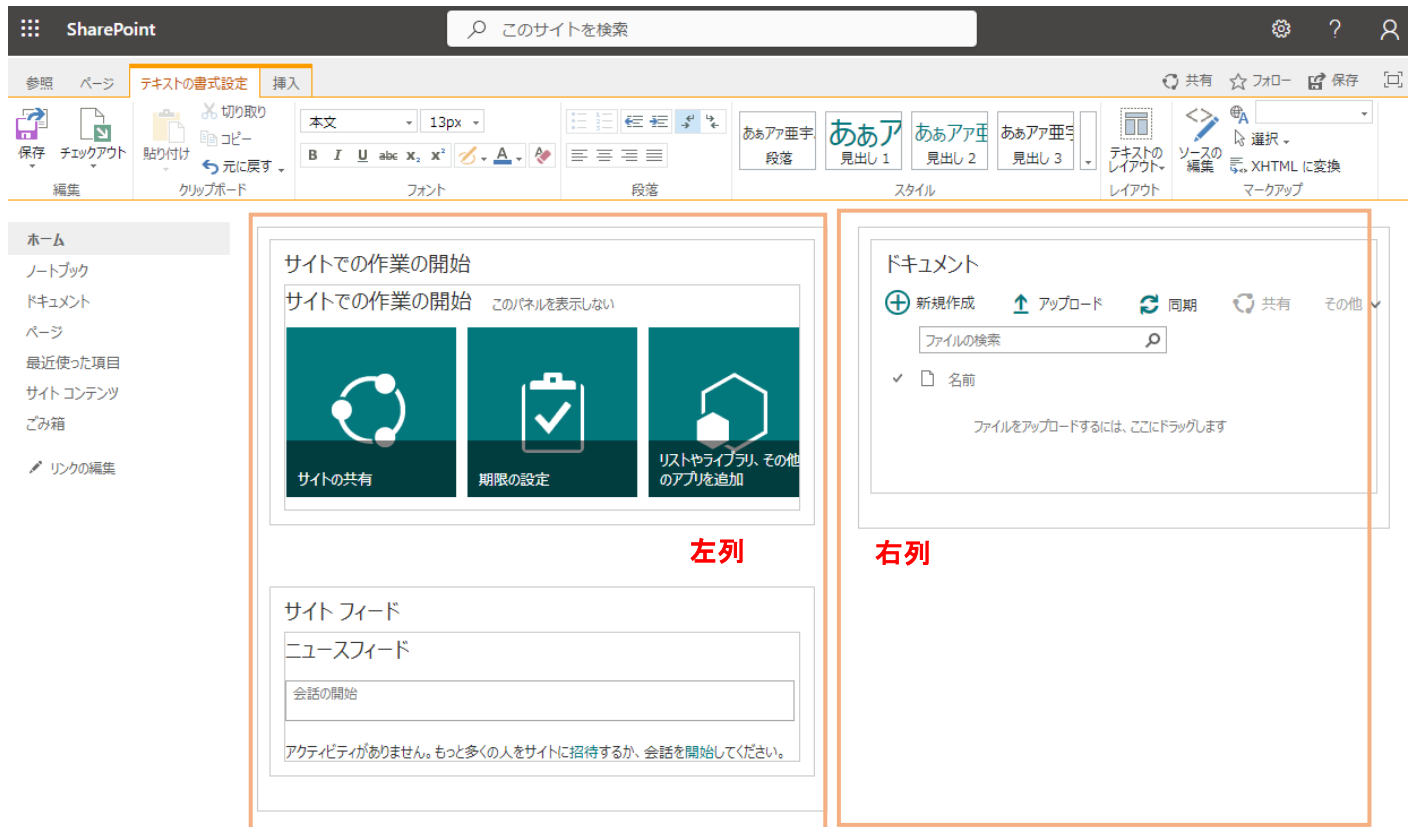


2) 「テキストのレイアウト」を実行し、サイトのレイアウトを「2 段組み」に指定します。



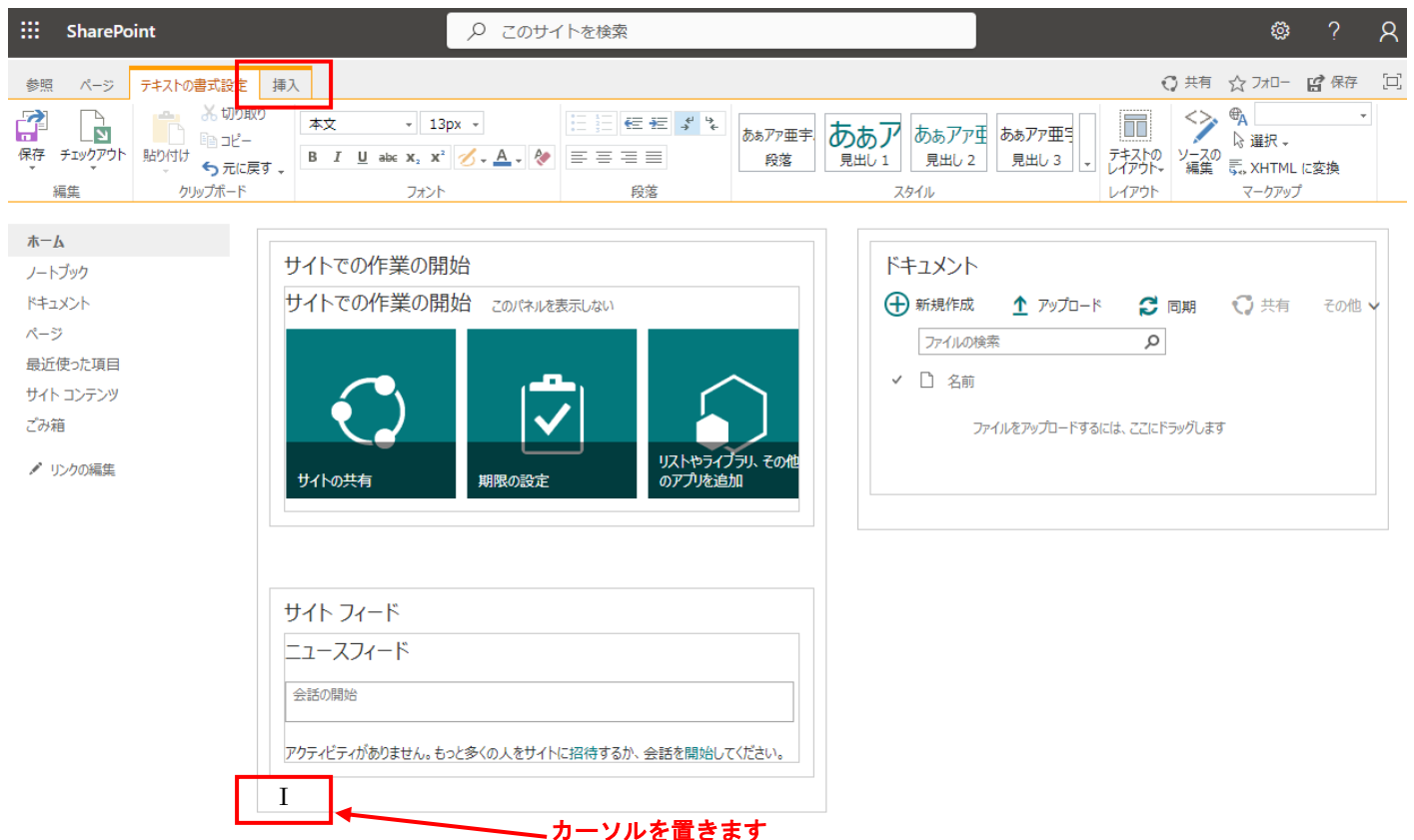
- ※ レイアウトの指定は「2 段組み」以外のレイアウトを指定しても構いません。運用にあわせ指定してください。

編集中のサイト表示が「2段組み」に切り替わります。



※ 初期表示されている「サイトでの作業の開始」、「サイトフィード」、「ドキュメント」は削除してもかまいません。

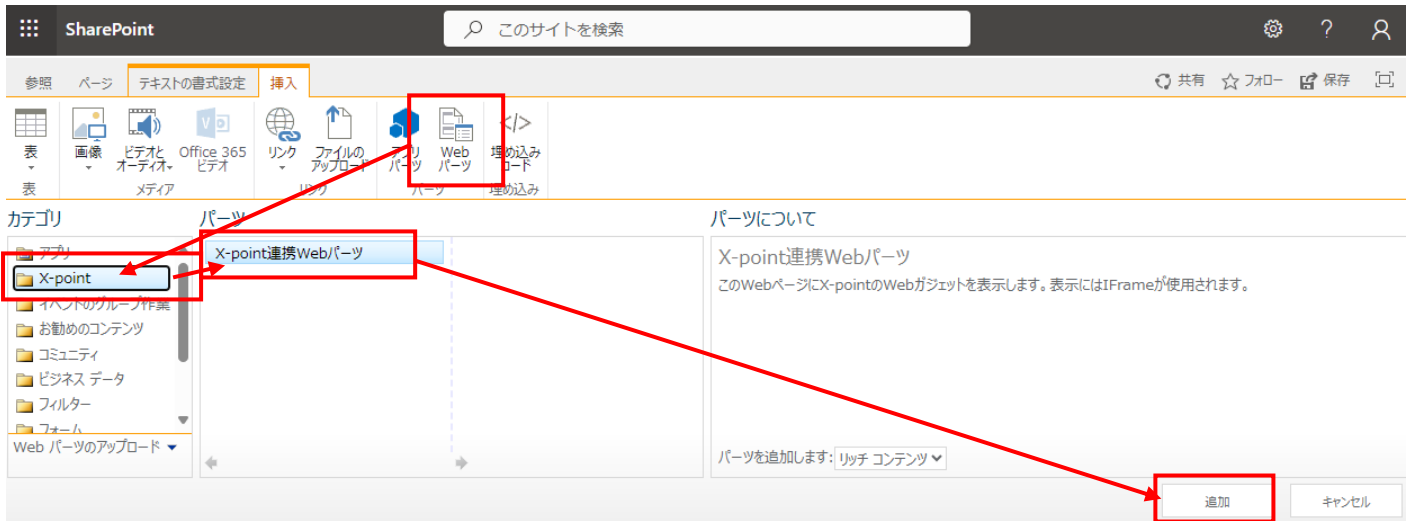
3) リボンの「挿入」をクリックし、サイト左列の先頭をクリックしカーソルを配置します。



4) 左列に「X-point 連携 Web パーツ」を配置します。

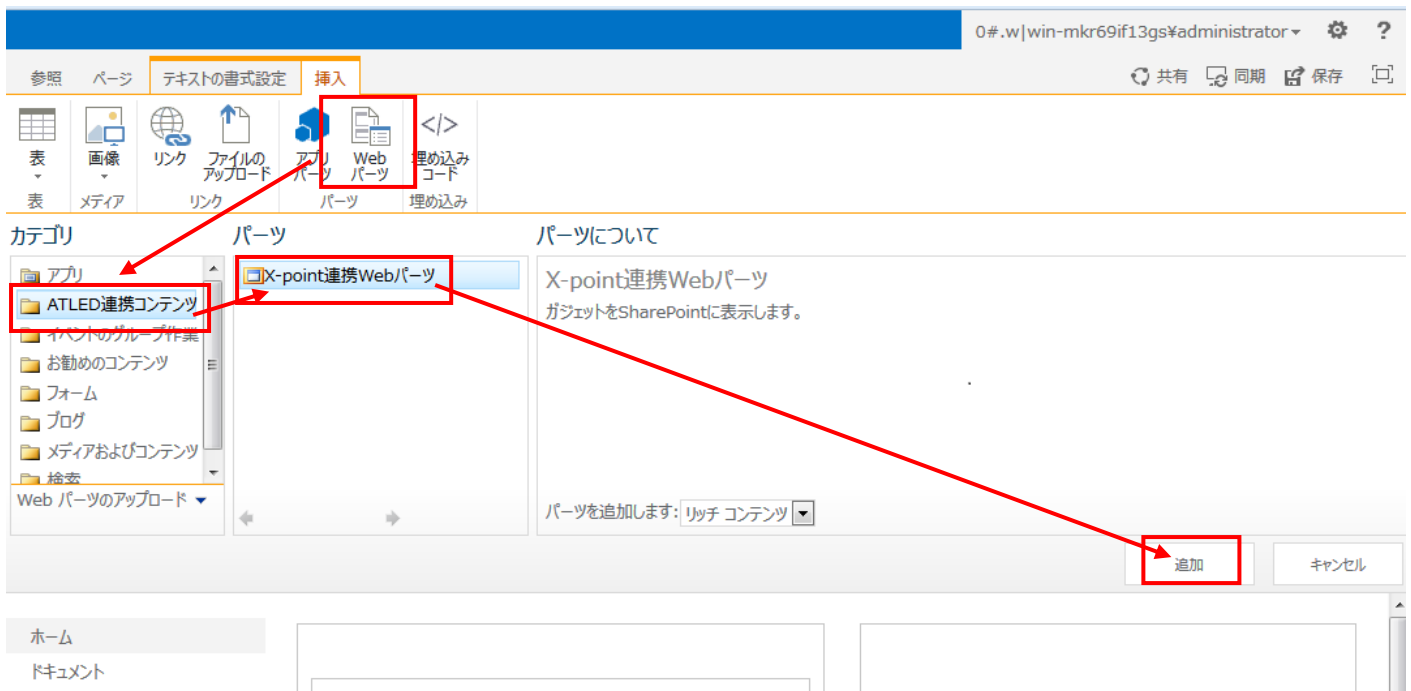
■ Microsoft 365 / SharePoint Online の場合

リボンの【Web パーツ】をクリックし “X-point” の “X-point 連携 Web パーツ” をサイト上に配置します。

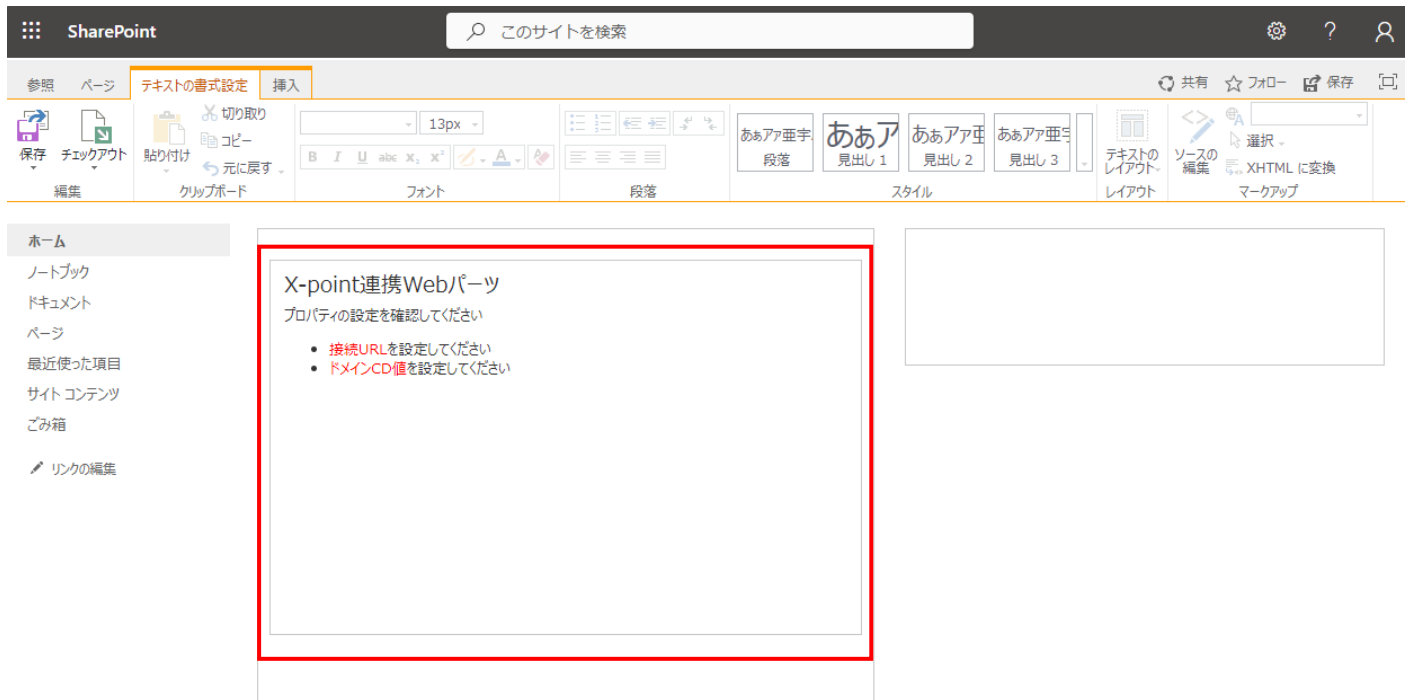


■ SharePoint Server 2016 の場合

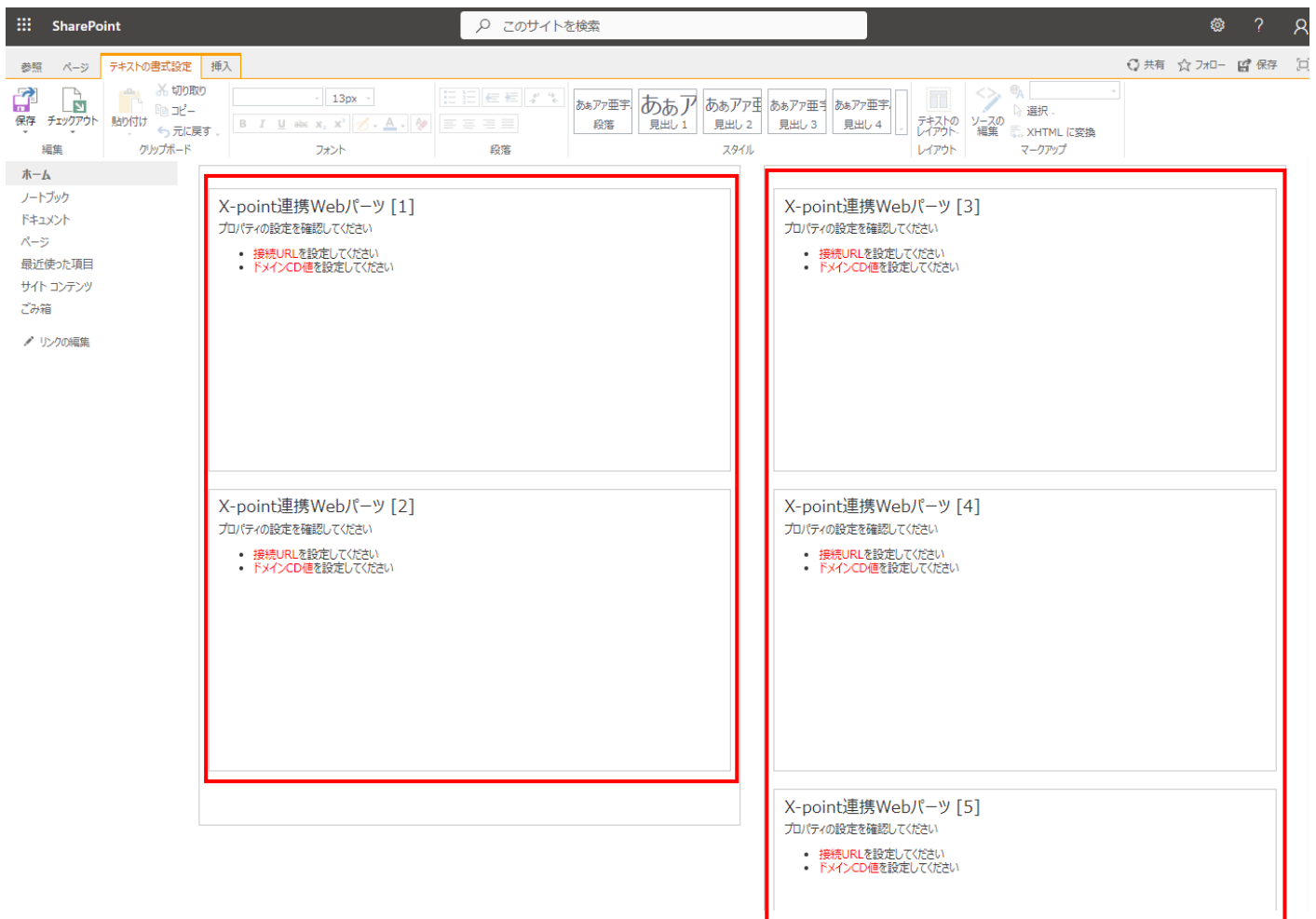
リボンの【Web パーツ】をクリックし “ATLED 連携コンテンツ” の “X-point 連携 Web パーツ” をサイト上に配置します。



カーソルを指定した左列の位置に Web パーツが追加されます。



引き続き、左列に1つ、右列に3つ追加し、サイト内に計5つの X-point 連携 Web パーツを配置します。



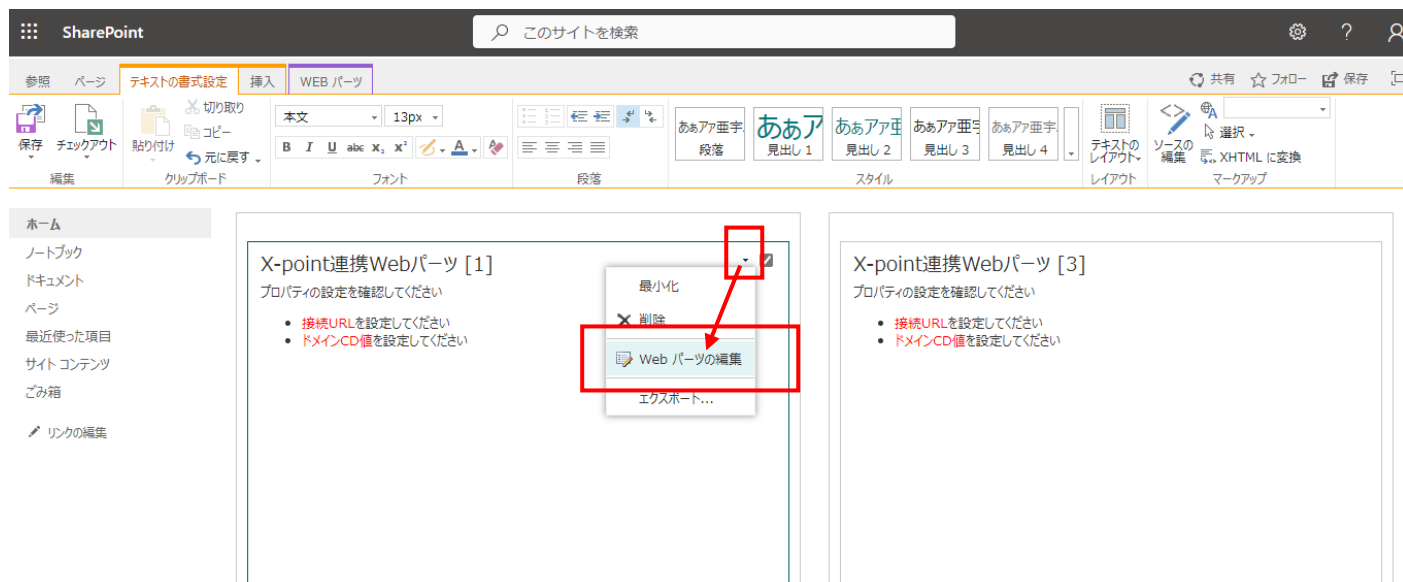
※ カッコ内に表示される数字は SharePoint が重複する名称の Web パーツが存在する場合、便宜的に表示します。Web パーツを追加する手順により図とは異なる番号になりますが、設定後の動作に違いはありません。

4.3.3. Web パーツの設定

サイトに配置した Web パーツに連携情報を設定します。

- 1) 左列上の Web パーツ名の右側に表示される▼をクリックし「Web パーツの編集」を実行し「承認ガジェット」を表示するよう設定を行います。

※メニューは Web パーツ名の上にマウスカーソルを置くと表示されます。

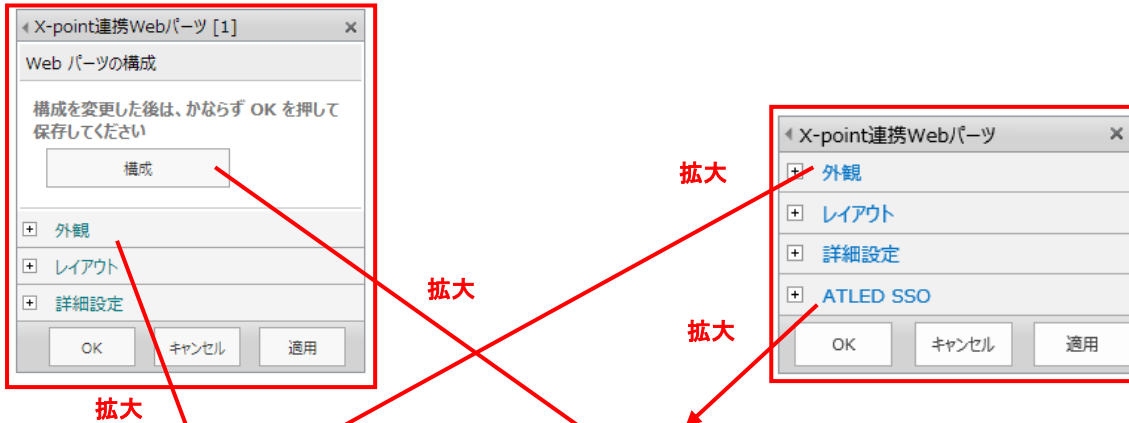


2) Web パーツのプロパティに「承認」ガジェットの実現に必要な情報を設定します。

設定は「外観」、「Web パーツの構成」もしくは「ATLED SSO」の2グループが必須設定になります。プロパティ分類名称の左側にある **+**、**-** アイコンをクリックすると各グループの設定詳細を表示する事が出来ます。「Web パーツの構成」のみ「構成」ボタンをクリックすることで設定詳細を表示する事が出来ます。

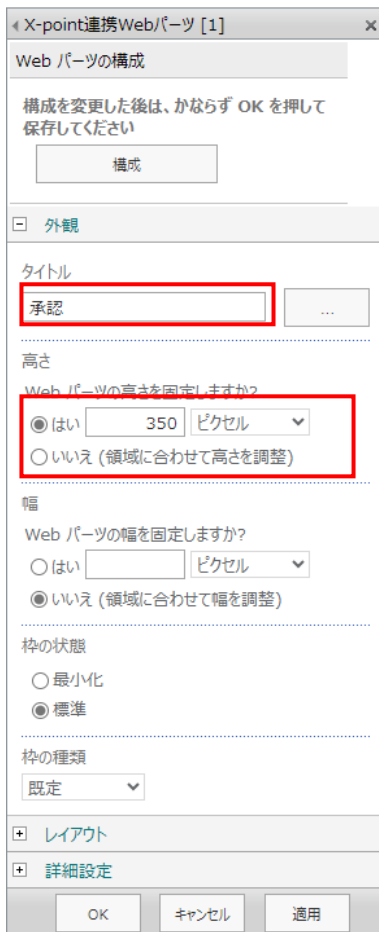
■Microsoft 365 / SharePoint Online の場合

■SharePoint Server 2016 の場合



【外観】グループ

【Web パーツの構成】グループ
もしくは
【ATLED SSO】グループ



■タイトル

「承認」

■高さ
はいを「●」
350 ピクセル



■接続 URL

X-point の URL
"/xpoint/" で終わる事。

■ドメイン CD 値

連携する X-point のドメイン CD

■接続パスワード

X-point 側の連携設定で指定したパスワード

■ガジェットタイプ

「承認」

■クエリコード

空欄
※グラフを表示する場合のみ

必須。

■パラメータスコープ

「POST」

■外観

「ページに合わせてサイズ変更」にチェック
高さは【外観】グループの高さから-10した値
※単位がピクセルの場合の値
※Microsoft 365 / SharePoint Online のみ存在する。

「接続 URL」、「ドメイン CD 値」、「接続パスワード」は必須項目です。ガジェットタイプにグラフ (queryChart) を指定した場合は「クエリコード」も必須項目になります。

【レイアウト】グループ

承認

Web パーツの構成

構成を変更した後は、かならず OK を押して保存してください

構成

外観

レイアウト

非表示

方向

なし

領域

下

領域のインデックス

詳細設定

OK キャンセル 適用

■方向
「なし」、
もしくは
「左から右」
を
指定します。

【詳細設定】グループ

詳細設定

最小化を許可する

閉じるのを許可する

非表示を許可する

領域の変更を許可する

接続を許可する

個人用ビューでの編集を許可する

エクスポートモード

すべてのデータをエクスポート

タイトル URL

説明

このWebページにX-pointのWeb;

ヘルプ URL

ヘルプモード

モードレス

カタログ アイコン イメージの URL

タイトル アイコン イメージの URL

インポート エラーのメッセージ

Cannot Import WebPart

対象ユーザー

OK キャンセル 適用

■タイトル URL
タイトル部をクリックした際に遷移する URL。空欄にするとタイトルをクリックしても遷移しません。

■説明
Web パーツのタイトル上にマウスカーソルを置くと表示されるツールチップ。必要に応じ指定します。

■対象ユーザー
Web パーツの表示を指定したユーザ、グループのみに制限します。

必要な項目を指定したのち、【OK】もしくは【適用】をクリックし設定内容を保存します。プロパティの必須項目に指定がない場合、Web パーツの配置場所に不足項目が表示されます。不足項目が表示された場合は、必要な値を指定してください。

【プロパティ未指定のエラー例】

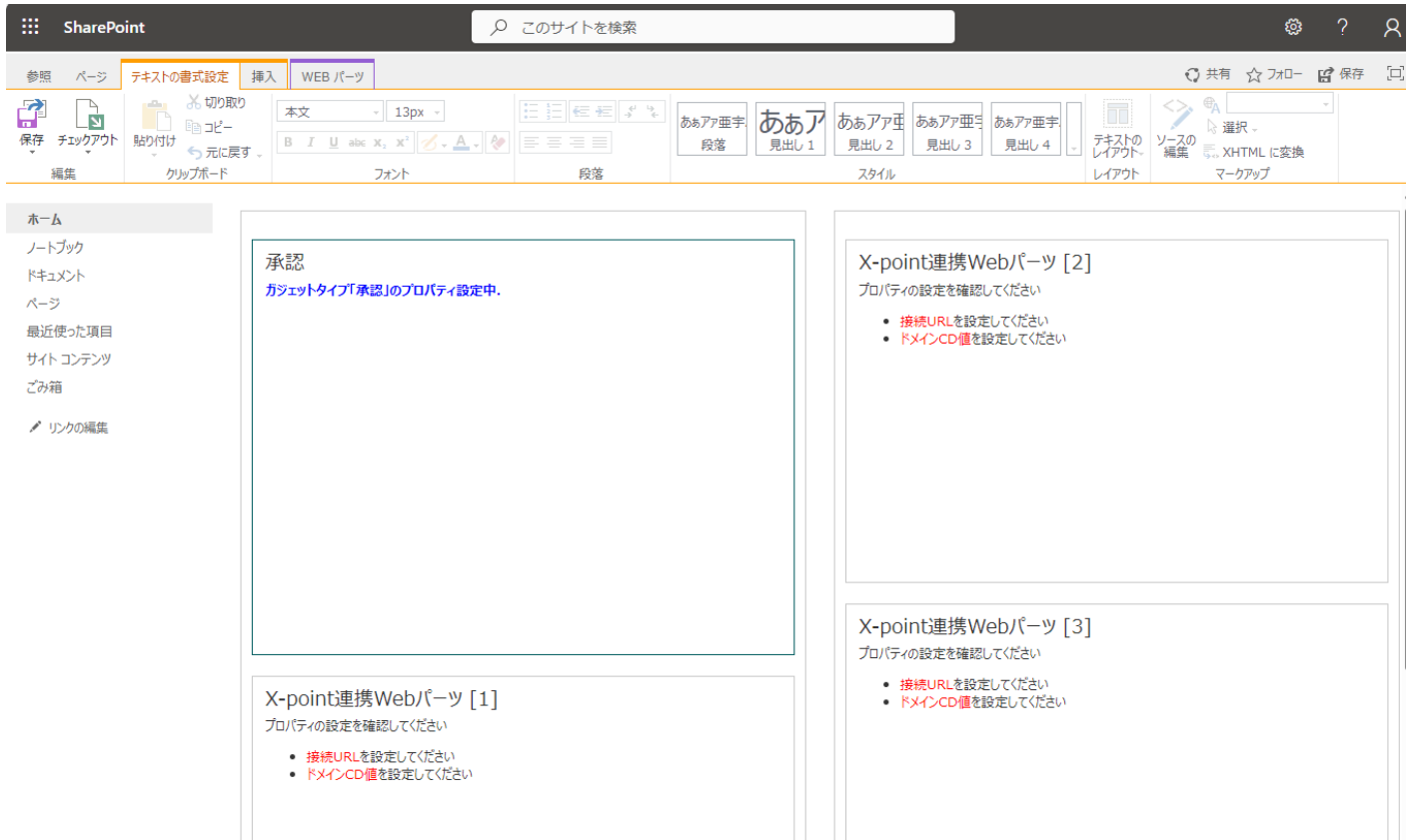
承認

ガジェットタイプ「承認」のプロパティ設定中。
プロパティの設定を確認してください

- 接続URLを設定してください
- ドメインCD値を設定してください

※ 表示される内容は、不足項目の数により増減します。

3) 設定が完了すると不足項目の赤表示が無くなります。



残りの Web パーツに対しても同様の手順でプロパティ項目の指定を行い、最後に左上の【保存】アイコンをクリックして設定内容を保存します。

【参考設定値】

設定 Web パーツ位置		左上	左下	右上	右中	右下
タイトル		承認	検索	提出	ブックマーク	インフォメーション
幅 (※)	Microsoft 365	570px	550px	380px	380px	380px
	PKG 版	いいえ (領域に合わせて幅を調整)				
高さ (※)		330px	180 ピクセル	300 ピクセル	160 ピクセル	160 ピクセル
接続 URL		http://{xpoint サーバー}/xpoint/ または https://{xpoint サーバー}/xpoint/				
ドメイン CD 値		連携する X-point ドメインのコード				
接続パスワード		X-point の SharePoint 連携で指定したパスワードと同じ文字列				
ガジェットタイプ		承認	検索	提出	ブックマーク	インフォメーション
クエリコード		(空欄)	(空欄)	(空欄)	(空欄)	(空欄)
パラメータスコープ		POST	POST	POST	POST	POST

※ 「高さ」は、利用環境にあわせ調整してください。

※ 「承認」、「検索」等のガジェットは表示パーツ幅により折り返し表示される為、設定した高さでは収まらず上下操作の必要が生じる場合があります。

4.4. 表示の確認とブラウザの設定

設定内容の確認を行います。確認結果により個々のブラウザに対する設定を追加で行います。

【モダン エクスペリエンスの場合】



※ Microsoft 365、SharePoint Online

【クラシックエクスペリエンスの場合】




※ Microsoft 365、SharePoint Online、SharePoint 2016

【確認項目】

- ① Web パーツに指定したタイプのカテゴリが表示される。
- ② 提出、ブックマーク等からフォーム名、書類名をクリックしてフォーム表示が出来る。
- ③ 承認ガジェットの【承認待ち】をクリックすると、X-point の承認画面に遷移する。
- ④ 検索ガジェットの【検索へ】をクリックすると、X-point の検索画面に遷移する。

連携動作の確認時に発生する可能性がある代表的なエラーを表にまとめます。(X-point 単独での利用は可能な状態を前提にします)

発生エラー	対応
ブラウザの Web パーツを指定した箇所に「プロパティ設定を確認してください」と表示される	SharePoint で Web パーツのプロパティ設定に誤りがあります。指定内容を確認してください。
「 ! システムエラー」が表示される。 Web パーツに設定されている X-point ドメインは、SharePoint 連携が無効に設定されているため利用できません。	X-point で SharePoint 連携を「連携する」に指定してください。
「 ! システムエラー」が表示される。 連携情報を取得できません。 Web パーツに設定されている連携先ドメイン CD を確認してください。	Web パーツのプロパティで「ドメイン CD 値」に指定したコードが、連携先の X-point に存在しません。
「 ! システムエラー」が表示される。 本機能を利用するために必要なライセンスが適用されていません。	「SharePoint 連携サービス」オプションの無いライセンスが適用された X-point に対して SharePoint 連携 Web パーツからの接続を行った。
「 ! システムエラー」が表示される。 SharePoint Server の時刻設定と (**時間**分) の誤差があります	SharePoint サーバーと X-point サーバーの時刻設定の許容範囲以上のズレが生じています。サーバー時刻を合わせてください。
「 ! システムエラー」が表示される。 SharePoint Server の Web パーツに指定されている連携パスワードが X-point の SharePoint 連携設定に指定されているパスワードと一致しません。	SharePoint で指定した Web パーツのパスワードと X-point の SharePoint 連携で指定したパスワードが一致していません。同じ文字列を指定してください。
「 ! システムエラー」が表示される。 リファラーチェックでエラーが発生しました。	リファラーが受信できませんでした。 ブラウザがリファラー送信を行っていない場合は送信するようにしてください。 X-point の SharePoint 連携先に Web パーツを利用せずに接続しようとした可能性があります。Web パーツを介さない利用は許可されていません。

発生エラー	対応
<p>「 システムエラー」が表示される。 […(使用ブラウザが送信したリファラー)…] は許可されていません。</p>	<p>X-point の SharePoint 連携設定に指定されたチェック用のリファラー文字列に、受信したリファラーが適合しません。</p>
<p>「連携エラー：ユーザー情報が取得できませんでした・・・」が表示される</p>	<p>Microsoft 365 (SharePoint Online) 内でログイン中のユーザー情報が取得できず、X-point に情報を送信できない状態です。 ブラウザ画面を再表示するなどしてください。</p>
<p>「連携 Web パーツでは処理できないログイン認証タイプです・・・」が表示される</p>	<p>Microsoft 365 (SharePoint Online) 内で取得したアカウント情報が「SharePoint 連携サービス」では扱う事のできない形式であるため、X-point に連携情報を送信できません。</p> <p>* 非対応の環境になります。</p>

4.5. Web パーツ設定プロパティ詳細

Web パーツに指定できる各種プロパティの詳細を示します。
 詳細については、SharePoint の付属マニュアルを参照してください。

【モダン エクスペリエンス】

グループ	項目名	設定内容	備考
ATLED SSO	接続 URL	連携する X-point の URL	通常： (プロトコル)://{IP or FQDN}/xpoint/
	ドメイン CD 値	連携する X-point のドメイン CD	
	接続パスワード	X-point 側の SharePoint 設定で指定したパスワードと同じ文字列を設定します。	初期値「xpoint」
	ガジェットタイプ	承認 検索 提出 ブックマーク インフォメーション グラフ TOP 画面	承認ガジェットを表示 検索ガジェットを表示 提出ガジェットを表示 ブックマークガジェットを表示 インフォメーションガジェットを表示 グラフガジェットを表示 ユーザーサイト画面を表示
	クエリコード	グラフガジェット用のクエリ CD	ガジェットタイプに「グラフ」を指定した場合のみ設定する
	パラメータスコープ	POST GET	X-point へのパラメータ送信方式を指定。 推奨：POST (既定値)
外観	ページに合わせてサイズ変更	Web パーツの幅をページに合わせる	
	幅	Web パーツの幅を指定します。	アプリの場合のみ、省略時は既定値 500px が設定されます。
	高さ	Web パーツの高さを指定します。	アプリの場合のみ、省略時は既定値 200px が設定されます。

【クラシック エクスペリエンス】

グループ	項目名	設定内容	備考
外観	タイトル	Web パーツのタイトルを指定します。	「承認」、「検索」、「提出」等を指定
	高さ	Web パーツの高さを指定します。	アプリの場合のみ、省略時は既定値 200px が設定されます。
	幅	Web パーツの幅を指定します。	アプリの場合のみ、省略時は既定値 500px が設定されます。
	枠の状態	最小化 標準	X-point 用は「標準」を指定
	枠の種類	既定、なし、タイトルと枠線、 タイトルのみ、枠線のみ	お好みにあわせ指定してください。
レイアウト	非表示	ページを開いたときに、Web パーツを表示するかどうかを指定します。	チェックなし (操作できません)
	方向	なし、左から右、右から左	X-point では「なし」、もしくは「左から右」を指定します
	領域	Web パーツを配置する領域を指定します。	変更する権限が無い場合、操作できません。
	領域のインデックス	領域に複数の Web パーツが存在する場合に、その領域内の Web パーツの位置を指定します。	変更する権限が無い場合、操作できません。

グループ	項目名	設定内容	備考
詳細設定	最小化を許可する	Web パーツを最小化できるかどうかを指定します。	
	閉じるのを許可する	Web パーツを Web パーツ ページから削除できるかどうかを指定します。	(操作できません)
	非表示を許可する	Web パーツを非表示にできるかどうかを指定します。	(操作できません)
	領域の変更を許可する	Web パーツを別の領域に移動できるかどうかを指定します。	(操作できません)
	接続を許可する	Web パーツを他の Web パーツに接続できるかどうかを指定します。	
	個人用ビューでの編集を許可する	Web パーツのプロパティを個人用ビューで変更できるかどうか指定します。	
	エクスポートモード	許可しない 機密データ以外のみ すべてのデータをエクスポート	X-point では「許可しない」を指定
	タイトル URL	Web パーツについての追加情報を含んだファイルの URL を指定します。Web パーツのタイトルをクリックすると、このファイルが別のブラウザウィンドウで表示されます。	空欄
	説明	Web パーツのタイトルまたは Web パーツのアイコンをマウスでポイントしたときに表示するヒントを指定します。	<p>■ アプリの場合 初期値「この Web ページに X-point の Web ガジェットを表示します。表示には IFrame が使用されます。」</p> <p>■ ソリューションパッケージの場合 初期値「ガジェットを SharePoint に表示します。」</p>
	ヘルプ URL	Web パーツについてのヘルプ情報を含んだファイルの場所を指定します。Web パーツ メニューの [ヘルプ] コマンドをクリックすると、ヘルプ情報が別のブラウザ ウィンドウで表示されます。	空欄
	ヘルプモード	モーダル モードレス 移動	X-point ではヘルプ URL を空欄とするため、指定は不要です
	カタログ アイコン イメージの URL	Web パーツの一覧で Web パーツ アイコンとして使用する画像が格納されたファイルの場所を指定します。画像のサイズは 16 × 16 ピクセルであることが必要です。	同上
	タイトル アイコン イメージの URL	Web パーツのタイトル バーで使用する画像が格納されたファイルの場所を指定します。画像のサイズは 16 × 16 ピクセルであることが必要です。	同上
	インポートエラーメッセージ	Web パーツのインポートで問題が発生した場合に表示されるメッセージを指定します。	X-point 用は対応していません。 初期値:「この Web パーツをインポートできません。」 もしくは 「Cannot import this Web Part.」
対象ユーザー	Web パーツを特定のグループ、対象のユーザのみで表示するよう制限します。	項目が表示されない場合、機能を利用できません。	

グループ	項目名	設定内容	備考
Web パーツの構成 / ATLED SSO	接続 URL	連携する X-point の URL	通常： (プロトコル)://[IP or FQDN]/xpoint/」
	ドメイン CD 値	連携する X-point のドメイン CD	
	接続パスワード	X-point 側の SharePoint 設定で指定したパスワードと同じ文字列を設定します。	初期値「xpoint」
	ガジェットタイプ	Wkfl (承認) finder (検索) formLibrary (提出) bookmark (ブックマーク) information (インフォメーション) queryChart (グラフ) none (TOP 画面) * アプリの場合は括弧内の文字で表示されます。	承認ガジェットを表示 検索ガジェットを表示 提出ガジェットを表示 ブックマークガジェットを表示 インフォメーションガジェットを表示 グラフガジェットを表示 ユーザーサイト画面を表示
	クエリコード	グラフガジェット用のクエリ CD	ガジェットタイプに「queryChart」(グラフ)を指定した場合のみ設定する
	パラメータスコープ	POST GET	X-point へのパラメータ送信方式を指定。 推奨：POST (既定値)
外観	ページに合わせてサイズ変更	Web パーツの幅をページに合わせる	
	幅	Web パーツの幅を指定します。	アプリの場合のみ、省略時は既定値 500px が設定されます。
	高さ	Web パーツの高さを指定します。	アプリの場合のみ、省略時は既定値 200px が設定されます。

5. その他

5.1. アプリのアップデート（Microsoft 365 / SharePoint Online）

X-point のバージョンアップ、専用 Web パーツの修正リリースが行われた場合、Microsoft 365 に登録しているアプリをアップデートします。

アップデートは、アプリカタログ サイト、各連携サイトの順に行います。各サイトで利用している連携モジュールは、サイト毎にアプリ更新を行う必要があります。その為、サイトでアプリ更新を実施するまで各サイトは旧バージョンのアプリで動作し続けます。つまり、アプリカタログ サイトのみの更新ではアップデートは完了しません。

なお、Web パーツの表示が一時的にできなくなるなどの現象は、サイト毎に行うアプリ更新のタイミング、サイト単位で発生します。

5.1.1. アプリ一覧の表示

1) SharePoint 用のアプリ一覧を表示します。

【SharePoint 管理センター】を表示し【その他の機能】→【アプリ】を実行します。

【SharePoint 用アプリ】から「X-point SharePoint 連携 web パーツ (SPFx)」を確認します。

アイコン	タイトル	アプリのバージ...	状態	すべてのサイト...	利用可能
	X-point SharePoint 連携webパーツ (SPFx)	1.0.0.0	Enabled	No	

- ※ 登録済みのアプリを探す作業は必須ではありません。
新しいアプリをアップロードする際に、同一名のアプリファイルが存在すると登録済みである事を示すダイアログが表示されるため、ダイアログ表示の有無で確認することもできます。

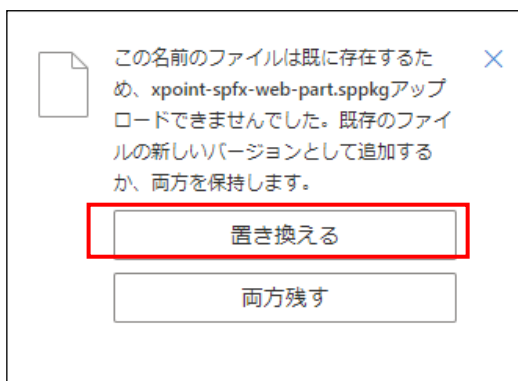
5.1.2. SharePoint 用アプリ カタログの更新

更新用の新しいアプリファイル「xpoint-spfx-web-part.sppkg」をアップロードします。



※ 画面の上にファイルをドロップする方法でもアップロードが可能です。

アップロードを実行するとファイル更新の確認ダイアログが表示されます。ダイアログの【置き換える】をクリックします。



アップデートが完了するとアプリ一覧の右部に完了を示すメッセージが表示されます。アプリのバージョン番号が変更されていることを確認してください。バージョン番号が変わっていない場合、登録されているアプリの更新ができません。

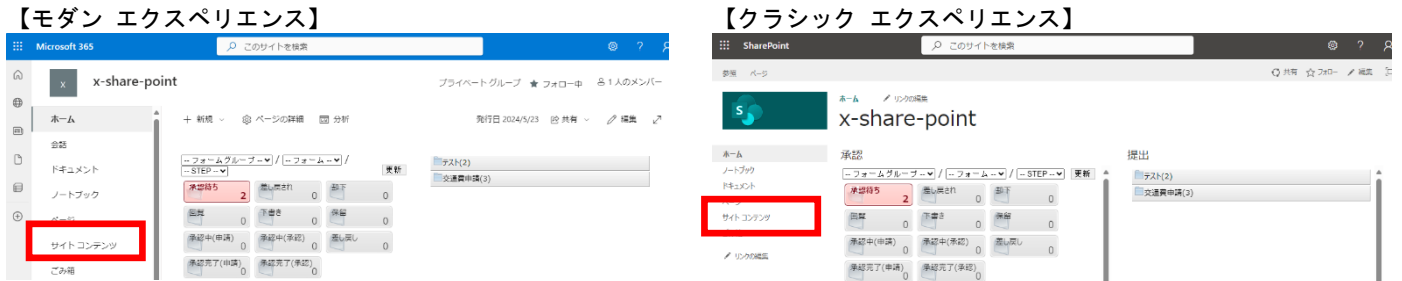


※ アップデート中、アプリを利用している Web パーツの位置にエラーが表示されます。

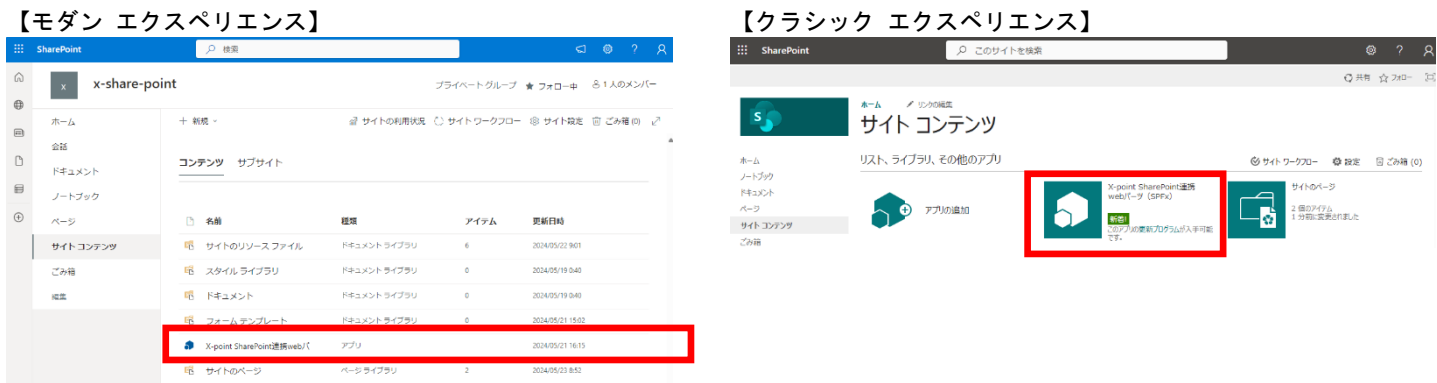
5.1.3. サイトのアップデート

X-point 連携の Web パーツを利用しているサイトを順に開きアプリを更新します。
各サイトでアプリの更新を完了すると、サイト毎に連携用アプリが最新の状態になります。
更新は各サイトでアプリ更新の権限を持つユーザーが行います。

1) 連携 Web パーツを使用するサイトの「サイトコンテンツ」画面を表示します。



2) 「コンテンツ」一覧より「X-point SharePoint 連携 web パーツ (SPFx)」を確認します。



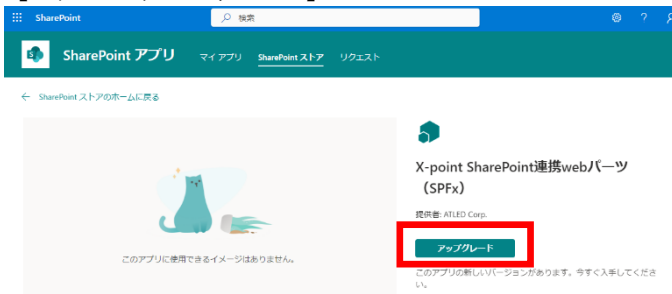
※ 画面に表示される内容は、サイトの状態により異なります。

3) アプリ名にカーソルを合わせてメニューを開き「詳細」の表示を行います



4) アプリ「詳細」の【アップグレード】ボタンを確認し実行します。

【モダン エクスペリエンス】



【クラシック エクスペリエンス】



- ※ 【アップグレード】ボタンが表示されない場合は、既にアップデートが完了しているサイトです。アップデート前の状態で表示されない場合は、アプリ カタログに新しいアプリが未登録、もしくは登録処理が完了していない状態です。
- ※ Microsoft 365 では画面操作が終わっていてもサーバー側の処理が完了していない場合があります。

5) アプリの更新完了を確認し、Web パーツの表示を確認します。

アプリの更新処理中はアプリ名がグレイアウトされた状態になります。
グレイアウト中は Web パーツの表示でエラーが発生します。

コンテンツ		サブサイト	
名前	種類	アイテム	
サイトのリソース ファイル	ドキュメント ライブラリ	6	
スタイル ライブラリ	ドキュメント ライブラリ	0	
ドキュメント	ドキュメント ライブラリ	0	
フォーム テンプレート	ドキュメント ライブラリ	0	
X-point SharePoint連携web...	アプリ		
サイトのページ	ページ ライブラリ	2	

アプリの更新が完了後に画面更新を行うとアプリ名が通常表示になります。

コンテンツ		サブサイト	
名前	種類	アイテム	
サイトのリソース ファイル	ドキュメント ライブラリ	6	
スタイル ライブラリ	ドキュメント ライブラリ	0	
ドキュメント	ドキュメント ライブラリ	0	
フォーム テンプレート	ドキュメント ライブラリ	0	
X-point SharePoint連携web/...	アプリ		
サイトのページ	ページ ライブラリ	2	

サイトの表示を行い、Web パーツが表示されることを確認します。

【モダン エクスペリエンス】



【クラシック エクスペリエンス】



- ※ アプリのバージョンアップ内容によっては、各 Web パーツの再設定が必要になる場合があります。その場合、表示の確認において指定パラメータの不足などによりエラーが発生する可能性がありますので御注意願います。詳細は、アップデート手順書をご確認願います。

5.2. Web パーツのアップデート (SharePoint Server 2016)

X-point のバージョンアップ、専用 Web パーツの修正リリースが行われた場合、SharePoint に登録している専用 Web パーツのソリューションパッケージをアップデートします。

アップデート中は SharePoint に Web パーツの表示が出来なくなる為、Web パーツを利用する箇所にエラーが表示されます。作業を行う際は、予め SharePoint 利用者に対し X-point との連携機能が利用できない事を周知するようにしてください。

【作業中に表示されるエラーの例】

承認

Web パーツ エラー: 指定されたソリューションが見つからなかったため、要求を完了できませんでした。関連付け ID: b829b29c-c9f1-8006-2094-6ccc96097973。

5.2.1. ソリューションの非アクティブ化

1) 「サイト設定」画面を表示します。



2) 「サイト設定」画面の「Web デザイナー ギャラリー」内の「ソリューション」を実行します。

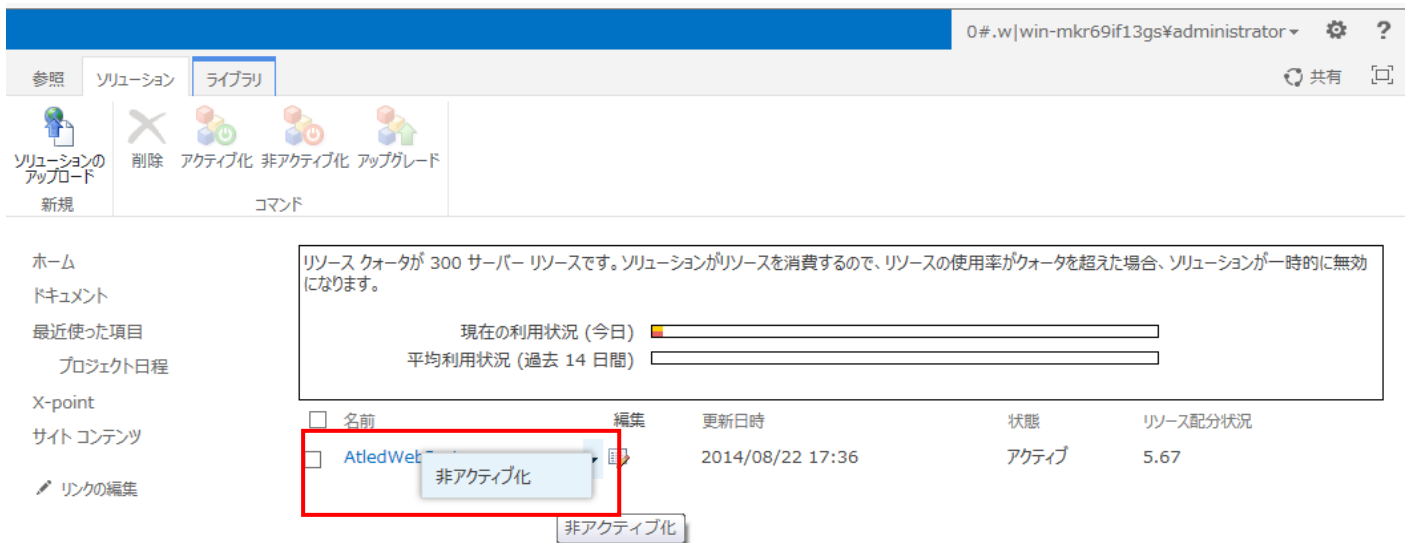


※ 「Web デザイン ギャラリー」に「ソリューション」が表示されない場合は、サブサイトの設定画面が表示されています。「サイト コレクションの管理」の「トップ レベルのサイト設定に移動」をクリックし、トップレベルのサイト設定に移動してください。

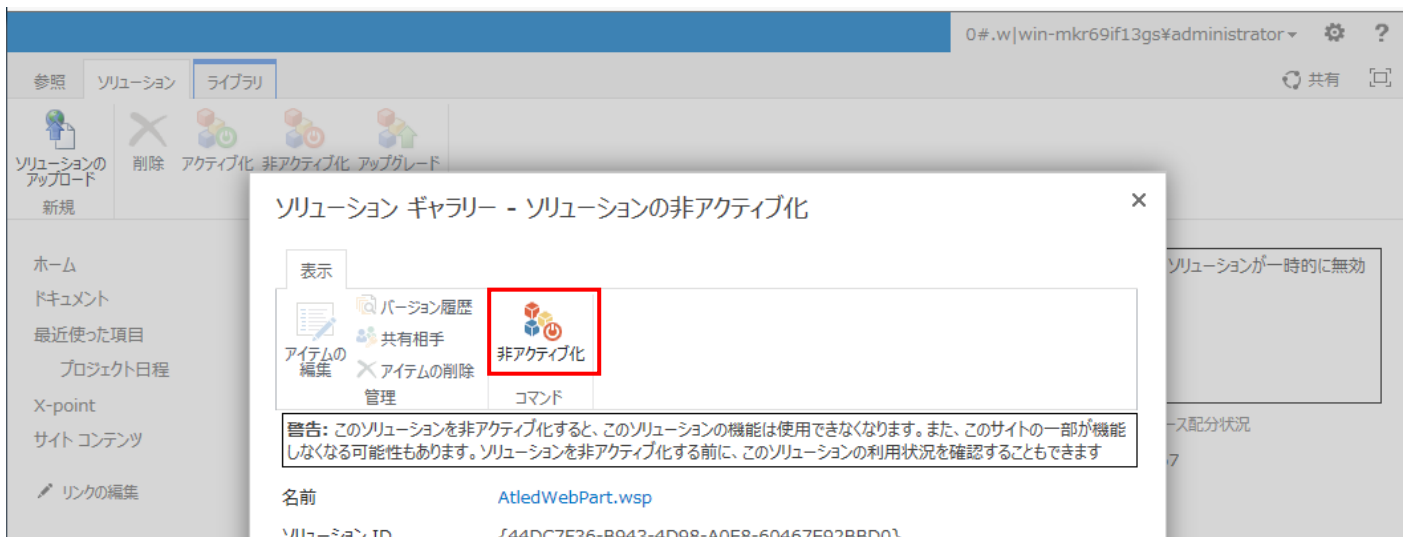
※ 「ソリューション」の更新作業を行うユーザーは「フルコントロール」権限を持つ必要があります。

3) ソリューション一覧で「AtledWebParts.wsp」を非アクティブ化します。

「AtledWebParts.wsp」の上にマウスカーソルを合わせると右側に▼が表示されます。▼をクリックし【非アクティブ化】を実行します。

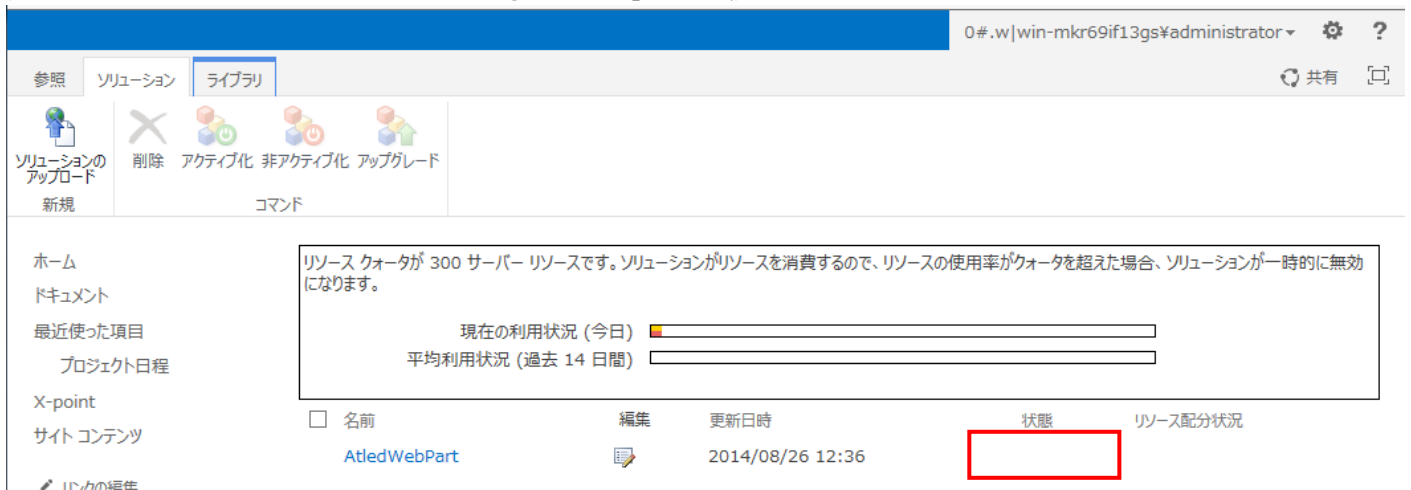


【非アクティブ化】を実行すると確認ダイアログが表示されます。ダイアログで【非アクティブ化】のアイコンをクリックします。



4) アクティブでなくなった事を確認します。

非アクティブ化に成功するとソリューション一覧の「状態」列が空欄になります。



5.2.2. ソリューションの更新と再アクティブ化

ソリューションの非アクティブ化が完了したのち、ソリューションパッケージのアップデートを開始します。

1) 新しいソリューションパッケージを開始します。

ソリューションパッケージの更新を確認する項目が無い場合、作業開始前に「更新日時」を記録しておきます。「更新日時」の記録がすんだら、リボンメニューより【ソリューションのアップロード】を実行します。

0#.w|win-mkr69if13gs¥administrator

参照 ソリューション ライブラリ

ソリューションのアップロード 削除 アクティブ化 非アクティブ化 アップグレード

新規 コマンド

ホーム
ドキュメント
最近使った項目
プロジェクト日程
X-point
サイト コンテンツ
リンクの編集

リソース クォータが 300 サーバー リソースです。ソリューションがリソースを消費するので、リソースの使用率がクォータを超えた場合、ソリューションが一時的に無効になります。

現在の利用状況 (今日)
平均利用状況 (過去 14 日間)

<input type="checkbox"/>	名前	編集	更新日時	状態	リソース配分状況
	AtledWebPart		2014/08/26 12:36		

2) 「ソリューションの追加」ダイアログで新しいソリューションパッケージを指定します。

0#.w|win-mkr69if13gs¥administrator

参照 ソリューション ライブラリ

ソリューションのアップロード 削除 アクティブ化 非アクティブ化 アップグレード

新規 コマンド

ホーム
ドキュメント
最近使った項目
プロジェクト日程
X-point
サイト コンテンツ
リンクの編集

リソース クォータが 300 サーバー リソースです。ソリューションがリソースを消費するので、リソースの使用率がクォータを超えた場合、ソリューションが一時的に無効になります。

現在の利用状況 (今日)
平均利用状況 (過去 14 日間)

リソース配分状況
5.67

ソリューションの追加

ファイルの選択

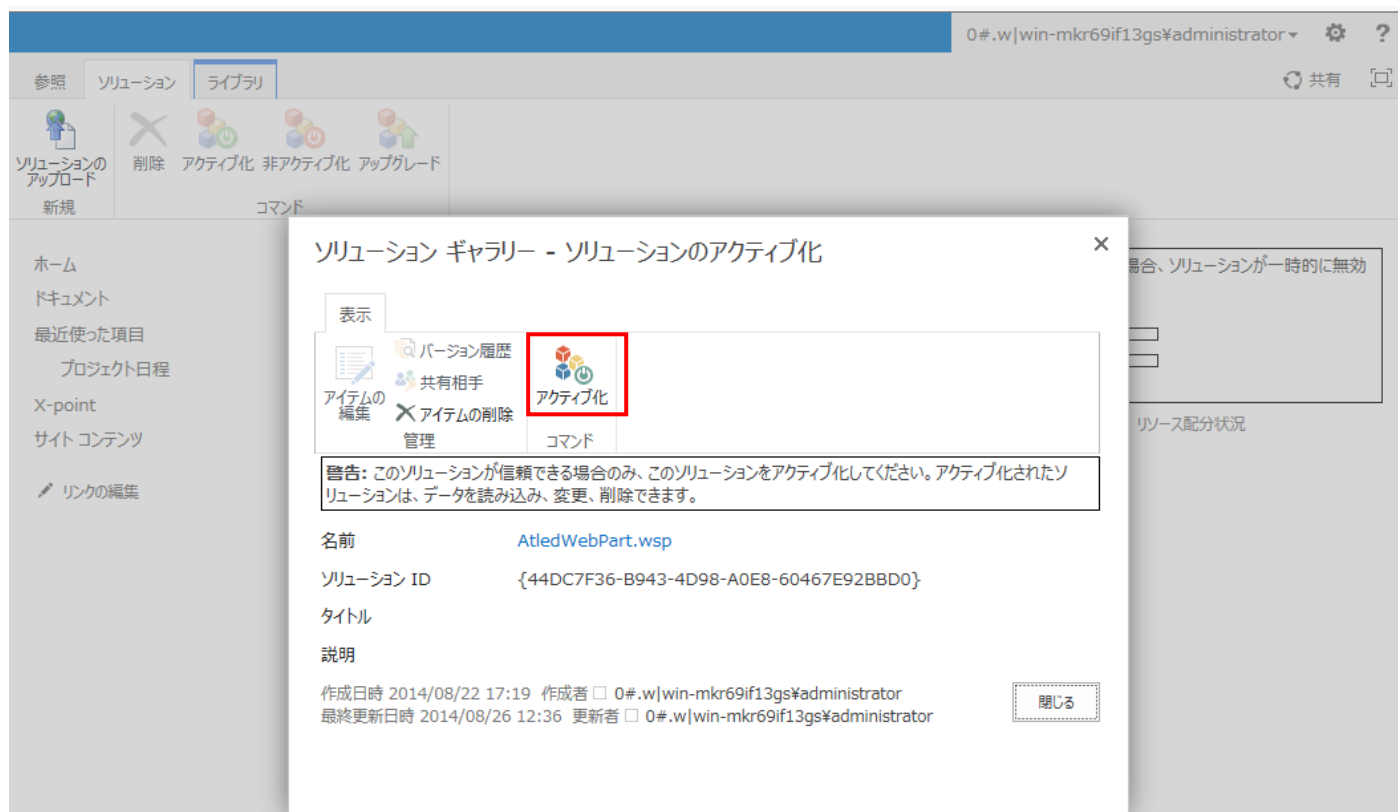
ebParts2013¥bin¥Release¥AtledWebPart.wsp 参照...

既存のファイルを上書きする

OK キャンセル

※ 「既存のファイルを上書きする」を必ずチェックします。

追加が完了すると「ソリューションのアクティブ化」ダイアログに切り替わります。【アクティブ化】を実行し完了します。



ソリューションの更新に失敗するとエラー ダイアログが表示されます。表示されるエラー内容に従って問題を解決してください。



※ 本エラー例はソリューションの更新前に、ソリューションを“非アクティブ化”していない場合に発生するエラーです。作業時にエラーが発生した場合は、SharePoint のマニュアルを参考に問題を解決してください。

アップデート完了後、ソリューション一覧にて「更新日時」が更新を行った日時になっている事、「状態」が【アクティブ】になっている事を確認してください。

名前	編集	更新日時	状態	リソース配分状況
AtledWebPart		2014/08/26 12:36	アクティブ	5.67

- ※ ソリューションの更新では「Web パーツ ギャラリー」に登録されている X-point 連携用 Web パーツの設定内容は更新前のままになります。このため、Web パーツのアップデート作業手順に「Web パーツ ギャラリー」の内容変更が必要となる場合があります。修正が必要になる場合は、アップデートと共に提供されるアップデートガイドに従って作業を行ってください。

5.2.3. 更新の確認

ソリューション更新後、Web パーツを使用するサイトを修正する必要はありません。連携用 Web パーツを使用するサイトを表示し Web パーツが表示される事を確認します。



アップデートの際に Web パーツに新しい設定項目が追加されることがあるため、アップデート用のソリューションパッケージと共に提供される手順書を確認してください。

Web パーツが表示されず「Web パーツエラー」が表示される場合、原因としてソリューションがアクティブ化されていない事が考えられます。エラーが表示された場合は「ソリューション ギャラリー」でアクティブ化を行ってください。

【エラー表示の例】

承認

Web パーツ エラー: 指定されたソリューションが見つからなかったため、要求を完了できませんでした。関連付け ID: b829b29c-c9f1-8006-2094-6ccc96097973。

ソリューションがアクティブ化されている状態で「Web パーツエラー」が発生した場合、ソリューションの更新時に SharePoint 内で何らかの問題が発生したことが考えられます。

その場合、お手数ですが Web パーツを利用するサイトを編集し Web パーツの再設定、もしくは連携用 Web パーツの再設置を行ってください。

5.3. ページ切り替えによる連携

SharePoint から X-point への遷移は、「承認」Web パーツの「承認待ち」等をクリックし遷移する方法、「検索」Web パーツを実行して遷移する方法に限られますが、Web パーツ表示中のサイトに限り一定の条件を満たす事で、リンク項目からユーザサイト画面に遷移させることが出来ます。



■ リンク項目から遷移が可能である条件

- ① サイト内に X-point の Web パーツを配置し「承認」ガジェットを表示している
- ② X-point の「HOME 画面のワークフロー件数」をセッションタイムアウト時間内での「自動更新」に設定している

SharePoint に設定するリンクの遷移先には「http://{X-point サーバーの IP 又は FQDN}/xpoint/」または「https://{X-point サーバーの IP 又は FQDN}/xpoint/」を設定します。

この動作は、サイトに Web パーツを表示する事で X-point へのログインセッションを作成しておくことで、既存セッションが存在する場合に X-point が存在するセッションで自動ログインする性質を利用します。

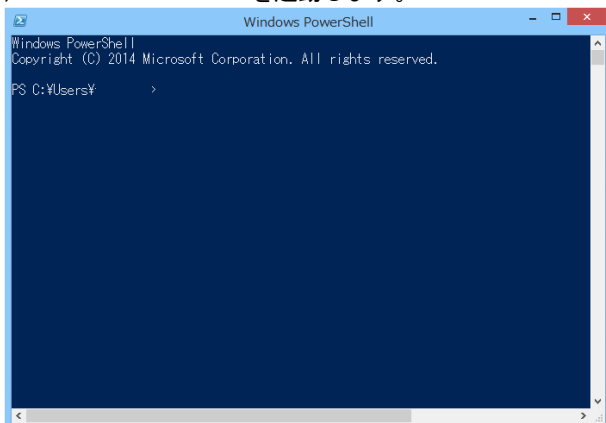
5.4. Windows PowerShell を利用した Microsoft 365 からのユーザー情報一覧の取得

Microsoft 365 では、Windows PowerShell を利用し Microsoft 365 の登録ユーザー情報を一括取得する方法が提供されています。一括取得したユーザー情報を加工し X-point にインポートすることも可能です。

※ 「Windows PowerShell」が利用可能な Windows 環境で作業を行ってください。

※ ユーザー情報の取得は「Windows PowerShell 用 Azure Active Directory モジュール」の“Get-MsolUser” コマンドによって行います。「Windows PowerShell 用 Azure Active Directory モジュール」のインストール方法は Microsoft のマニュアルを参照ください。

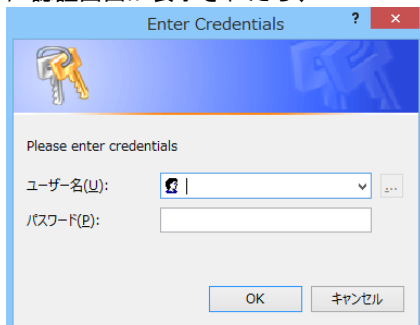
1) Windows PowerShell を起動します。



2) Microsoft 365 に接続するため、「Connect-MsolService」コマンドを実行します。

```
Connect-MsolService
```

3) 認証画面が表示されたら、Microsoft 365 管理者の「ユーザー名」「パスワード」を入力して [OK] ボタンをクリックします。



4) 「Get-MsolUser」コマンドを実行し、ユーザー情報一覧の CSV ファイルをローカル PC に出力します。

```
Get-MsolUser | Export-Csv { 出力ファイルのパス } -Encoding Default
```

(出力ファイルパスの例 : C:\Users¥example¥Desktop¥Microsoft 365Users.csv)

5) Windows PowerShell の画面を閉じます。

6) 以上でユーザー情報の取得は完了です。

出力したユーザー情報を X-point に取り込むためには、X-point のユーザー情報インポート機能の仕様に合わせて CSV ファイルを加工する必要があります。

詳細は『X-point 管理者マニュアル』の「ユーザのインポート」>「CSV ファイルの仕様について」をご参照ください。

5.5. アドインアプリ（旧アプリ）と Web パーツアプリ（新アプリ）の判別方法

Microsoft 365 / SharePoint Online を利用しており、アドインアプリを利用していた場合、Web パーツアプリに切り替える必要があります。

サイトにどちらのアプリが設定されているか判別する方法は下記になります。

- ・モダンエクスペリエンスで「プロパティを編集」をする際の違い
アドインアプリ（旧アプリ）

X-point連携Webパーツ ×

ATLED SSO ^

1.接続URL

2.ドメインCD

3.接続パスワード

4.ガジェットタイプ

5.クエリコード

6.パラメータスコープ

外観 ^

ページに合わせてサイズ変更

幅

高さ

適用

「適用」ボタンが存在する。

- Web パーツアプリ（新アプリ）

X-point連携Webパーツ ×

ATLED SSO ^

1.接続URL

2.ドメインCD

3.接続パスワード

4.ガジェットタイプ

5.クエリコード

6.パラメータスコープ

外観 ^

ページに合わせてサイズ変更

幅

高さ

「適用」ボタンが存在しない。

- ・クラシックエクスペリエンスで「Web パーツの編集」をする際の違い
アドインアプリ（旧アプリ）

X-point連携Webパーツ [6] ×

+ 外観

+ レイアウト

+ 詳細設定

+ ATLED SSO

OK キャンセル 適用

「ATLED SSO」というグループが存在する。

- Web パーツアプリ（新アプリ）

承認 ×

Web パーツの構成

構成を変更した後は、かならず OK を押して保存してください

構成

+ 外観

+ レイアウト

+ 詳細設定

OK キャンセル 適用

「Web パーツの構成」というグループが存在する。

※SharePoint のデザインが更新された場合、この判別方法で判別できない可能性があります。

■改訂履歴

改版	改版内容
2021年 11月 1日版	初版リリース
2022年 3月 14日版	マニュアルタイトル等の各部の名称を変更
2023年 5月 1日版	用語の変更 <ul style="list-style-type: none"> ・「Office 365」⇒「Microsoft 365」 ・「アドインカタログ」(または「アプリカタログ」)⇒「アプリ カタログ」 ・「クラシックデザイン」⇒「クラシック エクスペリエンス」 ・「モダンデザイン」⇒「モダン エクスペリエンス」
2023年 5月 1日版	『3. Web パーツの登録』、『4.1. 連携サイトの作成』、『4.2. サイトの編集(モダン エクスペリエンス)』 2023年 5月時点の SharePoint 画面イメージへの差し替え
2023年 9月 19日版	本文中で使用されるブラウザアイコンを Internet Explorer から Edge に変更。 iOS 対応モバイルブラウザを iOS 15 以降に変更
2024年 5月 28日版	Microsoft365 / SharePoint Online の使用アドインを SharePoint Framework web パーツパッケージに変更 Microsoft365 / SharePoint Online のアドイン表記をアプリに変更 3.1、4.2、4.3、4.4、4.5、5.1 の画面イメージを差し替え
2024年 10月 17日版	「3.2. SharePoint Server 2016 ソリューションパッケージ登録」を削除 「4.3.サイトの編集(SharePoint 2016 以前、クラシック エクスペリエンス)」の画像を SharePoint Framework web パーツで設定した場合に変更、それに伴う文言の修正 「5.5.アドインアプリ(旧アプリ)と Web パーツアプリ(新アプリ)の判別方法」を追記
2024年 11月 18日版	サードパーティーCookie が利用できない場合の動作を追記
2025年 6月 3日版	対応環境から Microsoft SharePoint Server 2013 Standard / Enterprise、Microsoft SharePoint Foundation 2013 の記載を削除しました。
2025年 10月 6日版	「2.2.表示されるポートレット」 <ul style="list-style-type: none"> ・X-point ポートレットの注意事項を追加
2025年 11月 27日版	「3.1.2. アプリの登録」にアップロード時の設定について追記